

02.75.2

2 of 2

67/14
C

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH BULLETIN NO. 90.

マンザナール(第九十号)
基督教會週報
一九四四年九月五日發行

聖言

荒野と、うるほなき地とは
たのしみ、沙漠はこれにて着然
の花の如くに咲き、かかやかん
いざや書世五十一。

集會案内

○祈禱會 於各教区
毎水曜日 午後七時半

○家庭集會(九月八日)
全曜日 午後七時半

○第一教区 休會

第二教区(廿八、四、二)

坂本俊助兄弟

第三教区(廿九、六、二)

安田兄弟

九月十日(聖日)

○早天祈禱會

第一教区(五、五)午前六時半

第二教区(五、五)全六時

○日曜學校

上級組 午前八時世分

下級組 全八時四五分

○聖書研究 午前九時

ルカ傳講解(四、十一、四)

担 當 安部牧師

リント書講解(廿、十五)

担 當 鈴木牧師

○禮拜及説教

聯合禮拜 於第十四區會堂

午前十時 司會 市田中牧

患難より出で、其衣を白く

せられたる者」黙七、十四。

祝部牧師

○婦人會例会

九月十日(日)午後二時

各教区共創會所にて

皆様の出席を希望し、お集り

致します。

○傳道會 午後七時半

第一教区(九、十五)

日本福音

聖書の神 酒井牧師

第二教区(十五、十五)

キリストの先驅者 西川牧師

第三教区(廿、十五)

遂にこの地に至り、神に見ゆ。

内藤牧師

○聯合祈禱會 九月十三日

於第一教区(九、十五)午後七時半

世界平和のため祈る。

酒井牧師

沙漠に咲くサフランの花。

記者は夏休みに曼珠沙華に出る途中

或る信者の家庭を訪ね、

廻り道をした。

朝の八時である。アパートの中

からは「天地を覆ひ、かしこ

たへよ、御恵みある一

聖子、御たまを」の讃美

が聞える。

家探がすんだのかと戸外に暫く

佇んでみたが、それは丁度祈り

の始まるころであった。

家探を待つのも心許なく無

きで其家まで立寄った。

彼の兄弟、姉妹もその子供たち

も至極円満な口数のやり

方をとてゐる。

人の前に己を表現することの

殆どないところが、良い位であ

る。

然し神の前には一家族として毎

朝各々、仕事に取掛る。又、

に讃美と祈りを以て近づい

てゐる。

次に本當の信仰生活。接か

ない基礎のある事を一つと

と考へさせられた。

夫と妻の間、親子の間に相

互にない気持の起る時

○手不足、準備不足で到着

一実現不可能かの如く見えし夏

季の学校を、後にも名前もス

する事に定めてからの事である。

おでいゝるに、お送りの者か二人

まで病気で就床、他の一人は先

納で外務にあると云ふ状態

で教師たちと如何に配

て良いか、実際に困却させ

られた。

其時、セグン・テンに属す

る二人の青年は自費的に年

前中、仕事と休みを夏休みに

校を救へる事を申し込ん

た。

勿論彼らは休みの代り、半當

の引かれることは承知の上であ

る。然るに、其の暑さ、盛りに

園に出て仕事を続ける。分

迄に決めておいて、果たれ

る。

あてにならぬ者、代名詞に

されてゐる。若い者の中

この様な犠牲が、持たれて

夏休みの学校は、ついに

る。

和国牧師、女婿本間久四郎氏

は、松州アマダ轉住所にて病

療養中なりしが、遂に去る八

○消息 報告

一若広姉は先日退院され自宅

で療養中、今日退院

感謝のため、教会に献金

を寄附せらる。深謝。

久しくサングラスを収めてお

いたの平野俊雄牧師は

先月パロアルに、北カリ

州の友人友人に、同中の

由、当セグンの友人信徒の

祈りを、おすと同時に、

より、おと、祈り、

同牧師の、トレスは

Rev. T. HIRANO

Old Mrs. L. E. M. FREEMAN,

Old Fayetteville Road,

Raleigh, N. C.

妙中姉の、おと、

当地病度で、永眠されし由、

御慰めを、祈り、

八月分各教区平均出席表

日曜	第一	第二	第三	第四	合計
早祈	七	八	一三	一五	一五
日校	一九	一七	一三	一六	一六
一教区	四	五	四	四	一七
二教区	一五	一三	一四	一五	一五
三教区	一三	一三	一四	一五	一五
四教区	一三	一三	一四	一五	一五
五教区	一三	一三	一四	一五	一五
六教区	一三	一三	一四	一五	一五
七教区	一三	一三	一四	一五	一五
八教区	一三	一三	一四	一五	一五
九教区	一三	一三	一四	一五	一五
十教区	一三	一三	一四	一五	一五
十一教区	一三	一三	一四	一五	一五
十二教区	一三	一三	一四	一五	一五
十三教区	一三	一三	一四	一五	一五
十四教区	一三	一三	一四	一五	一五
十五教区	一三	一三	一四	一五	一五
十六教区	一三	一三	一四	一五	一五
十七教区	一三	一三	一四	一五	一五
十八教区	一三	一三	一四	一五	一五
十九教区	一三	一三	一四	一五	一五
二十教区	一三	一三	一四	一五	一五

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH BULLETIN NO. 94

第九十四號
マンザナ基督教會週報
一九四四年十月四日發行

聖句

おのが道を直くしてエホバの律法を歩む者は幸なり、エホバの諸々の證詞をまもり、心をつくしてエホバを尋求せむる者は幸なり、かゝる人は不義を行はずしてエホバの道を歩むなり。
詩 一一九・一二

集會案内

- 新講會 十月四日(水) 午後七時
- 聯合平和祈禱會 十一月十五
- 家庭集會 十月六日(金) 午後七時
- 西田姉宅 (大ノ一五)
- 瀬脇兄宅 (十八ノ一三)
- 中馬兄姉宅 (十九ノ一七)
- 特別集會 十月六日(金) 午後七時
- ターニル関係者中心
- 獎勵 山本牧師
- 追悼會 十月七日(土) 午後七時
- 故本間トクトル追悼會 於十五

聖日 十月八日

○聖書研究 午前九時
ルカ傳解講 四一・四二
担当 安部牧師
コリント書講解 二一・二二
担当 鈴木牧師

禮拜

第一教區九・十五 午前十時
「信仰參道」祝部牧師
ヨハネ福音書一章一
第二教區十五・十五 午前十二時
「基督者の聖所」酒井牧師
創世記二章・七・一七
第三教區三十一・十五 午前七時五十分
「汝はかゝる者」市田中校
詩篇三篇

傳道集會 午後七時

三教區聯合集會 於五十五
人生の重荷 山本牧師
○婦人會例會 午後二時
三教區共各禮拜所に於て開かれ
ます姉妹は誘ひ合せて是非御
出席下さる、いろいろの意味は於て、い
よく姉妹方の努力と御協力を
要します。

豫告

○全米宣教團末所
来る十月十五日末所される
全米 督教宣教團の講師及演題
は左記の通り決定しました。

講師

セバールス先生はサレデゴ
大學基督教會の牧師で主とし
て第二世の爲に御奉仕して下さ
る事になつて居ります。

湯浅先生は、二代續きの牧師
の家庭に生れ、生立ち、學びな
りて京都大學教授となり、又

同志社總長として世に知られ
る篤學篤識の人格者にして、
米國哲學博士であります。

湯浅博の演題

- 一 余何故基督教徒たるや
 - 二 平和を阻む者は誰ぞ
 - 三 祖國を偲ぶ
 - 四 在米同胞の將來
 - 五 基督日不兩團
- 高詳細は、プロクラムと共に
追つて發表します。

報告及消息

○集會時間變更

既報の通り十月一日より夜
間の定期集會は總て午後七
時に變更されました。

○故本間トクトル追悼會

去る八月二十六日アマチにて
昇天せる元西總府在住の本間
久四郎トクトル(和正正彦牧師
女婿)の追悼會を元西總府在住
の有志主催、第二教區(十五・十五)
で営まれます。

○生所及轉住

○榎谷牧師 フィニックスの會
議出席の爲まる二十九日同地
へ二週の予定で出張されるし、
○坂田嬢二君は勉學のためユ
タへ前週出張された。
○大月福次兄 は来る九日ニ
ューヨークへ轉住されます。
○山本一家 第三十三區在住の
同家は来る月曜日レンシナレ
ナへ轉住されます。

念願

神の聖座から人間界を見下したるな
れば如何に多くの人間ならざる人間
の多い事であろうか。教育家にし
ても政治家にしても人間ならざる者

又宗教家はして之へも人間ならざる
ものが多敷ある事であらうと思ふ。
日々の新聞の社會面記事は、實に人間
ならざる者の百鬼夜行の姿である。

私がありたいもの、又求むるものは
本當の人間である。人を忘れず理想
ではない、人を忘れず神ではない、神
よりの靈と神よりの愛とに生くる人
間の世界こそ、私はほんとうに
慕はしい熱心を感じる。天の事のみ
を思ふて地の事を忘れず生活は、天
して全ふされる人間生活ではない。

私は先づ何よりも先は直の人間であ
りたい。人間の中に與へられてある
ものを先づ全ふしたい。現在の我々
は、いかに努力してみても到底人間
以上のものにはあり得ないから、知
識も信仰も學問も只此一事の爲に用
ひたい。それが又神の愛であると思ふ。

○感謝録

- 感謝 小下かつら婦
- 感謝 ハート山 甲斐島六兄姉
- 感謝 坂本儀助兄
- 感謝 立木山勝藏兄
- 感謝 高橋S 姉
- 感謝 狹間勝義兄
- 感謝 狹間勝次兄
- 感謝 木下志郎兄

週報第九十五號

マンザナ基督教會

一九四四年十月十日發行

主との約束を果すに違ひは、或人の運と恵みが如きにあらず。又一人の志ぶるを望み給はず凡ての人の悔改に至らんことを望みて汝らを永く忍び給ふなり。

重木會安内

新詩會

各教禮拜所

十月十日(水)午後七時

家庭集會

十三日(金)午後七時

加藤家

加藤兄弟の御愛息實君七週忌記念會を兼ねる集會であります。幼い實君の死は父をキリストに導く導く犠牲でありました。

追悼會

ハトマウテシで永眠された二十三區在住の新田氏夫妻の御愛息の追悼會 午御參會

早天祈禱會

来る十三日(金)より向ふ一週間此度の特別傳道會は早天祈禱會十五・十五で致す事になりまして是等の傳道會を希望いたします。

聖日 十月十五日

聖書研究 午前九時

ルカ傳解講

相當

安部牧師

リント書解講

相當

鈴木牧師

禮拜

聯合禮拜

午前十時 第十六區食堂

余は何故に

基督教徒であるか 湯淺博士

傳道集會

全セクター集會

午後七時

公會堂

拘束より脱して

英語

平和を阻む者は誰ぞ 日本語

湯淺博士

秋期大講演會

全米基督教宣教師本部派遣の講師は本週末に來所され、来る聖日の朝より愈々大講演會を開く事になりまして。

セヴァーンズ先生は青年指導者として知られ、お方の特長は第三世の爲に御下さいます。

湯淺先生篤信の基督教者、其博學豐富なる材料と多年経験に基き御講演下さる事なれば確にセクターの住民に新しい光明を與へる止まない靈の光が先生を通じて出る事を信じます。

湯淺先生は月曜日より水曜日まで左のプログラムで御講演下さいます。

於第十六區食堂

一般講演 午後七時

祖國を偲ぶ 十六日(月)

在米同胞の將來 十七日(火)

基督教日本 十八日(水)

基督教米國 十九日(木)

婦人大會 十八日(水)午後三時

セヴァーンズ先生は十六日から十九日迄毎日午後七時十五・十五で英語でお話し下さいます。

念願

私は今人として人間の世界に生かされて居る事を、いつでも忘れぬくない。そして自分かほりとうに全ふされ人間であることが、神に近づいて行くことであり、又神を愛する心は人を愛する心と常に同一である事を深く心に止めたい。不具な人間でありたいとしない。思ふ。人の世界を片時も忘れたくない。思ふ。私は先づ、ほろけうの人間でありたい。他人は憎しみの心を起させたり、反感を持たせたり、厭味を與へたりする様な自己中心の不具な人間でありたい。私は先づ全ふされ愛の人間になりたい。

左と右の二つの平凡な人間でもよいから、全ふされたい。左の信するから。S.O.

消息

出本牧師 約一ヶ月間御常任になり新しい靈的恩恵を授けに分與へて下さつた同師は、いよく来る十三日御出發ポストには御帰りにあります。同師を我らは遣は給へる神に感謝すると同時に我らも同師の労を深く謝して止みません。主の御恩いよく、給へる同師の上にはあらん事を祈ります。

出所

梅木敏子嬢は勉學の爲にペンシルベニアに本日御出發。

御献金感謝

無名氏 感謝
柳原栄作兄 感謝
柳原保兄 感謝
山本貞次郎兄 感謝
大野義心兄 感謝
三宅寛三兄 感謝
仲池けい子姉 感謝
平池寛造兄 感謝
錢得よし子姉 感謝
保坂フレッド兄 感謝
篠岡 感謝
田中栄次郎兄 特別

九月分各教區平均出席表

聖日	第一	第二	第三	合計
早祈	七	九	一	一七
日校	一八三	一六五	一五五	五〇三
一世和拜	四六	五三	五五	一五四
一世和拜	一四	一三〇	一二	一五六
二世和拜	一五	三三	一八	六六
三世和拜	三三	二七	六〇	一二〇
聖研	九			九
二世左	一四			一四
一世祈會	一一	二〇	一六	四七
家集	一七	二二	一八	五七

マンザナー (第九十六號)
基督教會 週報
一九四四年十月十七日發行

聖言

この故に勵み勉めて汝らの信仰に徳を加へ、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に敬虔を、敬虔に兄弟の愛を、兄弟の愛に博愛を加へよ。
ペテロ後書 一五七。

集會案内

◎特別講演會日

講師 湯淺八郎博士

場所 第十六区食堂

時間 午後七時

十月十八日 (水曜日)

◎婦人大會

題目 「婦人と平和」

十月十九日 (木曜日)

◎一般講演會

題目 「基督の日本」

十月廿二日 聖日

◎早大祈禱會 平常通

◎日曜學校 平常通

◎聖書研究

午前十時

ルカ傳講解 (四十一、四)

担当 安部牧師

プリント講解 (廿一、五)

担当 鈴木牧師

◎禮拜及説教

第一教区 (九十五) 午前十時

「回轉の影」 ヤコブ・ア・エー、

安部牧師

第二教区 (十五十五) 午前十時

「巡禮者の都より」 詩八十四、

内藤牧師

第三教区 (廿三十五) 九時五十分

「其の石より」 太三、八、九、

西川牧師

◎傳道會

第一教区 (九十五) 午後七時

「基督と共に酒井牧師

第二教区 (十五十五)

「異邦人の救」 市田中校

第三教区 (廿三十五)

題目未定 祝部牧師

◎第二教区委員創會

十月廿三日 (月) 午後七時

於本園鏡古兄宅

(廿三、九、一五)

◎信經とは何ぞ (四)

◇

『三百年の大迫害を経てローマ帝國は遂に基督教に歸せ、

コンスタンチヌ大帝は基督教に改宗して終つた。そして基督教を國家の宗教とした。』

◇

其の頃基督教會内に二大思想が流れて互に論争をして居た。即ちアリウスと正統派の異端論とアリウス派の正統派の基督教觀の論争であつた。

◇

是がため基督教會は分裂せんとした。そこで本日は宗教會談を三百廿五年に召集したものである。是が口を白帝が最初召集した基督教會の大會議であつた。

◇

そして東方の帝國の首都に近きニケーアに會議が開かれた。此處に集つた監督の数は三百十八人で、之に隨從して来た長老、執事の数は十数百人であつたと云ふ。

◇

其の時教會の父の大家なるカイザリヤの監督エセイヤは先づ中立派として信經を提出した。そしてこれこそ全教會の母たるエルサレム教會の信仰の表白と云ふて居る。

◇

(一) 我らは全能の父なる独一の神、總て見ゆる物と見えざる物の造り主を信ず、

(二) 我らは独一の主、神の言たるイエス・キリスト、神の子、光の子、萬物の首出、萬世の前に父なる神より生れ給へる者、萬物の由て造られし者を信ず、

(三) 彼は我らを救はんために肉體となり人々の中に住み

(四) 苦を受け

(五) 三日目に甦り

(六) 父神のもとに昇り給へり、

(七) 後再び榮光を以て生ずる人と死せる人とを審判かんために来りたりはん

(八) 我らは亦唯一の聖靈を信ず、

一 使徒信經講解より、

◇

訂正、前号消息欄に出る牧師とあるは山本牧師の誤り、又二則の誤り、

に仲池けい子姉とあるは仲池けい子姉、竹條園とあるは下園、田中宗次郎兄とあるは仲田宗次郎兄の誤り、訂正改め、

◇

母たるエルサレム教會の信仰の表白と云ふて居る。

◇

◎消息及報告

湯淺博士の特別講演會は

同席特等の學者的立場より又基督教信仰のより面より我らの暗さを啓き、我らの知らざるを訓え更に我らの知らんとする諸問題の核心にふれて明快なる解答を與へて、回教を重める毎に聽衆を増し加へて全座にホーストンの山本牧師は去る十三日に当地出発、居座せられ、同日夕方程古牧師はアリウス派無事マンザナーに帰着。

◇

ウマス・コンレン、マデソン市に在る小山勝藏兄より來信、教會の皆様によろしくと云ふ。

◇

先頃、ミヨーに轉住されし山口久代姉より來信、教會の表はせし微意に對し感謝せられ同時に感謝に云ふ、

◇

傳言、因に同様のアドレスは

MISS K. YAMAGUCHI

56 W. 100 ST.

NEW YORK 25, N.Y.

◎感謝録

吉加貝忠雄兄(父兄)週報

福永あやの姉(ホースト)左同

市尾夫人(其兄)特別

御献金に對し

厚く御礼申上ります。

◇

湯淺博士の特別講演會は

同席特等の學者的立場より又基督教信仰のより面より我らの暗さを啓き、我らの知らざるを訓え更に我らの知らんとする諸問題の核心にふれて明快なる解答を與へて、回教を重める毎に聽衆を増し加へて全座にホーストンの山本牧師は去る十三日に当地出発、居座せられ、同日夕方程古牧師はアリウス派無事マンザナーに帰着。

◇

ウマス・コンレン、マデソン市に在る小山勝藏兄より來信、教會の皆様によろしくと云ふ。

◇

先頃、ミヨーに轉住されし山口久代姉より來信、教會の表はせし微意に對し感謝せられ同時に感謝に云ふ、

◇

傳言、因に同様のアドレスは

MISS K. YAMAGUCHI

56 W. 100 ST.

NEW YORK 25, N.Y.

◎感謝録

吉加貝忠雄兄(父兄)週報

福永あやの姉(ホースト)左同

市尾夫人(其兄)特別

御献金に對し

厚く御礼申上ります。

マンザナール(第九十八號)
基督教教會週報
一九四四年十月廿一日發行

聖 三三〇

汝は我に従へ。キリスト、
三六不傳(廿二)

集會案内

○祈禱會 午後七時
十一月一日(水) 廿二、十五、
聯合、為平和祈禱會。

○聖書研読 午後七時
十一月二日(木) 廿三、十五、
使徒行傳講解 櫻谷牧師
出所後口安部牧師担当。

○家庭集會
十一月三日(金) 午後七時
第二教区(廿三、七、一)
三宅賢造兄布告
第三教区(廿一、十一、四)
小林氏、兄

○日曜學堂校上級部
十一月五日(日) 午後八時五十分
第十六區小學學校講堂
父兄の御來をのり、御來をのり、
衷心より御待ち申上げて居ります。

聖日十一月五日、

○早天祈禱會
第一教区 午後六時五十分
第二教区 午後六時

○聖書研読 午前九時
ルカ傳講解(四、十一、四)
担当 安部牧師
コリント書講解(五、十五)
担当 鈴木牧師

○禮拜及説教

全教区聯合禮拜
十一月十四日(日) 午前十時
日全 祝部牧師
告別説教 市田中校
我が家にも来るにやぬ
約廿一、十八、廿三。

○授課會例會
十一月十五、十六、午後二時

○全教区聯合文藝
十一月十七、十八、午後七時
司會 内藤牧師
告別説教 櫻谷牧師
旅から旅へのイスラエル人に學ぶ
プリント前書(十一、十三、三)

世の中の人のつらさなる人の
身の行も正かたなるか。
明治天皇

○使徒信經の六信條

○我等は五箇に亘り使徒信經の生れ
出た由來を學んだ。實に使徒信經
は輕く出たものでなく、永く永く
を経て、初代基督教徒の信仰
の要領の約言として出来たもの
である。

○我々は幾多の異端邪説の簇出
せし間にあつて、初代教徒の信仰
を守る標榜となつた。従つて
洗禮の禮典によつて、かつ時必ず
唱へた信仰の告白であつた。

○現在我々の告白してゐる使徒
信經はたゞの如きものである。
我は天地の造主、能はざる處
なき父の神を信ず。

○我は其の独子我らの主イエス、
キリスト即ち聖靈によりて、
ある處をマリヤより産まれ、ボネ
セラトの時、苦を受け、十字架
につけられ、死して葬られ、陰府
に下り、第三日目に死者の内に
甦り、天に昇り、

能はざる處なき父の神の右に
座し、また生ける人を死せる人と
共に、天に昇り、

を審判せんために彼等より来り
給ふ主を信ず。

○我は聖靈を信ず。我は聖公會
と聖後の交り、罪の赦しと身
体の甦りと、永く永く生命とを
信ず。アーメン。

○これは新教諸派が使用する讃
美歌中に記されたものである。
多量の教令にて其の礼拝の時、
衆一同と共に唱へる處のもの
である。また洗禮式の時、受洗
者をして、我は是を信ずと應
答する處の公式の誦文である。

○使徒信經は神の事、基督の
事、聖靈の事、聖公會と聖後
の交の事、罪の赦免の事、死後
の生命の事等、六大信條を
含んでゐる。

○此の信條の六要領こそ、これこそ
基督教の是非と云ふ確信を
おぼたせる處である。

○使徒信經講解
一 消息 及 報告
一 山本吉太郎牧師、セバスチア
ン・島村牧師、謝安を以て、
同時に、消息を告げらる。

去る十月八日(土)の二名病院に
於て安部牧師より授洗、

坂井静子嬢
等十一人に在りし、返迎し、
御一家は去る廿四日朝、戸部
一州、シカゴ、タヘ、出られ、
三宅五十、兄、小清水、兄、人、
等、一面、兄弟、同く、レ、カ、
リへ出られ、

先に、三、ヨ、クに移住され、大月
橋、次兄より、安部、兄、報、と、共に、
候、と、告、げ、ら、る、全、元、ア、ト、ス、は、
168 CUNNINGHAM
BROOKLYN, N.Y.

○感謝 録
一 松葉初栄姉 受洗感謝
一 島 孝子姉 感謝
一 安田 夫人 亡夫追悼
一 山田 兄(弟) 週報
一 櫻井しほ姉(不肖) 週報
一 三宅五十、兄 出所
一 小清水、兄 週報
一 渡辺しほ、兄 特別
一 岡野 兄
一 瓶子 兄
一 無名氏 二名
一 渡辺 氏
一 以上、教、入、へ、御、献、金
一 渡辺姉(正九区)亦三教区、
今、へ、御、献、金、
一 何れ、へ、北、石、く、中、礼、申、上、す、
一 取、り、

マンザナー(第九十九號)
基督教會週報
一九四四年十一月七日發行

聖言

「然らば自ら立てりと思ふ
者は倒れぬやうに心せよ」
哥、前、十、十二。

集會案内

○祈禱會、午後七時
毎水曜日 各教区

○聖書研究、午後七時
十一月九日(木) 於十五、十五、
担、富、安部牧師

○家庭集會

十一月十日(金) 午後七時

第二教区(十九、十三、三)

中、曲夫人、七

第三教区(廿八、三、三)

北澤兄、七

聖日、十一月十二日

○早天祈禱會

第一教区 午後六時 廿分
第二教区 毎朝六時

○日曜學校

上級部 午後八時 廿分
下級部 午後四時 廿分

○聖書研究、午後九時
ルカ傳講解(四、十一、四)

担、富、安部牧師

コリント書講解(廿、十五)
担、富、鈴木牧師

○禮拜及説教

第一教区(九、十五)

説教 午後十時 安部牧師

第二教区(十五、十五)

説教 午後十一時 三ツソニ牧師

第三教区(廿二、十五)

「然りのものを堅うせよ」
黙示録三、一六。
ハトマウラン教會

阿部中校

○全教区聯合夕禱

於第二教区 十五、十五

兼送別會、爲出所者

會、安部牧師

○特別家庭集會

程、台牧師、入信、廿五年記念
十一月十四日(土) 夜七時
於山田、次郎氏宅(廿八、六、三)

○消息及報告

ハトマウランの阿部中校は約一月
の予定にてマンザナーの親戚を
訪問中。

湯淺、八郎博士、ホスト、御用
をうへて、七、二、向、送、中、マ、
クス、書、代、を、寄、せ、永、代、格、に
よ、く、と、御、言、を、た、り。

北米、内、國、傳、道、聯盟、は、書、記
ト、ハ、氏、の、名、に、我、ら、の、表、は
せ、微、意、に、謝、状、を、寄、せ、

昨、年、オ、ハ、州、ト、市、に、轉、住
せ、し、土、田、年、二、兄、が、榮、信、今、回
た、に、移、轉、す。

TOZO SECOR RD.
OHAWA LAKE, MICHIGAN.

池田、方、則、兄、は、去、る、土、曜、日、午、後
オ、レ、ゴ、ン、無、事、帰、所。

十、月、六、日、朝、中、城、寺、師、一、家、
吉、本、毫、太、郎、兄、一、家、又、平、田
物、心、三、兄、が、エ、リ、ヤ、ー、州、の、
ガ、ル、ワ、に、出、発、す。

シ、カ、ル、ワ、道、上、の、三、宅、五、十、松、兄
フ、ラ、テ、ル、ア、ン、ヤ、ー、書、信、を、寄、
せ、る、が、格、別、に、よ、く、と。

十、月、四、日(土)、朝、祝、部、世、兄、
は、表、生、う、た、め、出、産、す。

青、小、夏、子、十、元、日、明、八、日、の、
に、出、所、す、と。

辰、井、花、子、君、十、月、六、日、朝、オ、レ
ガ、の、御、言、を、寄、す。

三、宅、五、十、松、兄、三、宅、五、十、松、兄、
フ、ラ、テ、ル、ア、ン、ヤ、ー、の、

○協議會事、今報告

「夏季學子校資金、我々を通
常、今、計、に、繰、込、む、と、可、決、
せ、し、議、長、出、所、に、つ、き、後、任、選、
舉、に、入、り、西、川、牧、師、を、選、

第一教区協議會、今、補、欠、と、し、山、田
た、か、夫、人、西、本、原、の、か、夫、人、中、島、南、三、兄
推、選、す、と、承、知、す。

第二教区協議會、今、補、欠、と、し、
立、石、徳、三、郎、兄、推、選、す、と、承、知、
す、と、キ、ヤ、ン、デ、イ、代、と、し、
一、百、五、十、計、す。

クリスマス、メ、サ、ズ、と、し、全、教、役、者、
役、員、各、教、区、書、記、今、計、に、依、り、
す、と、

○感謝録

浮田、一、や、夫、人 出、所

市、夫、夫、人 感、謝

吉、本、毫、太、郎、兄 出、所

小、金、石、氏 週、報、費

中、城、寺、天、人 出、所

池、田、方、則、兄 感、謝

平、田、物、心、三、兄 出、所

西、田、天、人 故、古、住、宅、火、災、天

記念、こ、と、第一教区、婦、人、會

へ、献、金、す、と。

○第二教区婦人會例會、来る十

二、日(日)、午後二時、十五、十五、で、開、
す、と。第三、日、曜、日、の、聯、合、婦、人、會、
の、下、相、談、が、あ、り、す、と、さ、ら、に、皆、御、皇、北
部、に、下、す、と、す、と。

聖書 三三
汝らは死にたる者にして其生命はキリストと共に神の中に臨みあらはなり、汝らの生命はキリストの現れ給ふ時分はもよおしとるに榮光のうち現れん。

西、三、三、四

聖日 十一月二十六日

○禮拜

第一教區 九時十五分 午前十時
「自己の姿」 安部牧師
第二教區 十一時
「カリヤの海」 阿部中校
第三教區 十一時十五分 午前九時
「生命を捨てる者」 酒井牧師

○禮拜式順序

一 奏樂
一 頌詩 五六六 會衆
一 黙禱 主の祈

一 交讀文
第一教區 三四 (二二五)
第二教區 二四
第三教區 三五 (二四一五)

一 讚美歌
第一教區 二六 (五〇)
第二教區 一 (二四、五五)
第三教區 一

一 聖書
第一教區 ヤコブ書一・九・一二
第二教區 馬太傳一〇・三四・三九
第三教區

一 祈禱
一 報告
一 讚美歌
第一教區 二六〇 (五二)
第二教區 四五七
第三教區 二一八 (聖) (八六)

一 頌詩
一 頌禱
會衆

一 祝禱
會衆

○早天祈禱會
第一教區 午前六時三十分
第二教區 午前六時

再告 家庭長會 松野婦人會 故松野兄追悼記念會 十一月十九日、二十四日(金)午後七時

○日曜學校 午前八時三十分
各教區
○聖書研究會 午前九時
ルカ傳解講 四一・二一・四
安部牧師

コリント書解講 二一・十五
鈴木牧師不在中休講

○傳道夕拜 午後七時
三教區聯合夕拜 於第三教區
祝部牧師

○週間諸集會
祈禱會
各教區 十九日(水)午後七時
家庭長會
瓶子兄宅 三十一・三十三(木)午後七時

○報告

人生の眞意意義

「人若し新生をすれば神の國を見る事能はず」とイエス様の御一言は寧ろニッデモを以て「人早や死にぬれば如何で復生する事を得んや、再び母の胎に入りて生ることを得んや」と不審と迷ひに入りしめたるのである。
靈眼が開かれてみれば人の地上生活は神様の永遠なる永遠への一大計画、單一なる靈的進化のプログラムを遂めぬが爲に神の子の靈的誕生地であるに外ならない。基督の十字架は其生産の苦痛である。
奇しき新生の光を以て全宇宙のありゆる現象を見渡すや此は凡ての事に對し然と釋明されて堅く鎮められた宇宙天啓の神祕の寶庫の何であるかは暖流の中に流る水に氷山の如く解けて恐怖の深山死の暗黒の道に現れを屢々見ゆる如き過ごない事が判然として死の彼方に在る永生の喜が見出される。人の地上生存の意義はここに在る。

○センター降誕祭

所内各宗教團體、教育部、社會部、タウンホール、C.A.C.A.其他所内各部の聯合による全センター降誕祭を十二月二十三日(土)午後二時、高校講堂に於て執行に決定。

○教會日校クリスマス

教會日曜學校上級部のプログラムは十二月二十四日(日)午後二時第十六區食堂に於て三教區聯合にて執行に決定、下級部は各教區にて執行。

○御注意

土曜日のフリプレス日本語新聞に「プレスベリアン基督教會の好意」と題して昨年度のセンター児童へ降誕祭贈物は同教會よりある事實は然らずして全米基督教會内團體通部によりてあり、又本年度も同じ

ある事を御承知ありまし。
○消息
村岡あき子、メリー嬢、三宅あけ子嬢の四人は去る十九日松谷牧師より受洗、四嬢の上は主の祝福を祈る市田中校一家、松谷牧師及梅本屋主は豫定通去る二十日出所を祈る。

左記の方々(判明せる者)は此度帰所せられた。
村上慶吉、村岡音雄、小田(京石)富田忠久、足立徳實、渡辺孝次、佐藤隆夫、本田直記、山田民藏、井口伴一、長浜壽吉諸兄

○感謝錄

植松三代作兄姉銀婚式及亡息星人君三年の記念として第一教區聖壇のカーテン全部を寄附せられたる事を深く感謝致します。

記念息通忌 川越教武兄

- | | |
|--------|------------------------|
| 出所 | 中川甚松兄 |
| 出所 | 市田樹一家 |
| 出所 | 松谷牧師 |
| 出生(母校) | 梅本敏子嬢 |
| 誕生記念 | 小城咲子姉 |
| 息入堂記念 | 蓮永兄 |
| 無名氏 | 無名氏 |
| 無名氏 | 無名氏 |
| 無名氏 | 無名氏 |
| 感謝 | 無名氏 |
| 感謝 | 渡辺孝次兄 |
| 感謝 | 村上慶吉兄 |
| 感謝 | 村岡音雄兄 |
| 感謝 | 本田直記兄 |
| 感謝 | 石川氏 |
| 感謝 | 川原萬治兄 |
| 感謝 | 村上つゆ姉 |
| 感謝 | 丸本英雄兄 |
| 訂正 | 週報第百號感謝錄中堀内夫人は坂夫人の誤に訂正 |

週報 第百三號
マンザナ基督教會
九百四十四年十二月三十日

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO. 103
NOV. 30, 1944. MANZANAR, CALIF.

聖言

それ律法の全體
は「おのれの如く、な
んかの隣を愛すべし
」との一言にて全ふ
せらるるなり。心せよ
若し互に咬み食はば
相共に亡べし。

○禮

拜聖日
十二月三日

第一教區 九一五 午前十時
「召命より使命へ」 祝部牧師
第二教區 十五五 午前十時
「理想的人物」 内藤牧師
第三教區 三十五 午前九時
「信仰の再考」 西川牧師

○禮拜順序

一 奏樂
一 頌詠 五六六 會衆
一 黙禱 主の祈
一 交讀文

第一教區 イザヤ書四十四章
第二教區 九
第三教區 三四(二五二四)
一 讚美歌 會衆
第一教區 五五九(〇九)會衆
第二教區 一二〇
第三教區 二六一(五二)

一 聖書

第一教區 ルカ傳五・二七
第二教區 ルカ傳二・三八
第三教區 コリント後書十三
一 祈禱
一 報生
一 讚美歌 會衆
第一教區 五五七(八二)
第二教區 五五四
第三教區 一二八(三〇)
一 説教
一 頌詠 五六八 會衆
一 祝禱

○傳道 夕拜 午後七時

三教區聯合 第二教區
「神と争ふ者」 酒井牧師

○早天祈禱會

第一教區 午前六時三十分
第二教區 午前六時

○日曜學校

各教區 午前八時三十分

○聖書研究 午前九時

ルカ傳解講 四十一・四
安部牧師

コリント書解講 二十一・五
本週休講

定期協議會

協議會例會於五十五午三時

週間集會

祈禱會 午後七時
十二月六日(水) 各教區

神の外誰か罪を贖はん

基督が神でなくば贖罪は成立しない。
何となれば贖罪とは罪と死より除かれ、神の性質を與ふる事をいふのである。
神の外誰か我らに神の性質を附與し得よう。従つて贖罪は造物の何者も成し得る所なく、上天使より、下聖人君子に至る迄絶對不可能である。
神の若し肉となつたとすれば、肉は聖化され、神は其の肉の汚れと罰を受けねばならぬ。
十字架の苦しみはそれが爲である。
神の化身キリストが我らの爲に死に事を信せば我らは亡ぶであらう。贖罪は不可能である。永生の望は斷じてない。
神の外永遠の生命を與ふる者なくば、永遠の生命を約した、イエスは神御自身でなくば狂人あらねばならぬ。二千年間の基督教會と人類に與へた感化と文明及彼を信する者の實驗は其の神なる事を証明して餘りあることに於ては多言を要しないであらう。

○家庭集會 午後七時

(日附に御注意下さい)
親子家 三二二 十月三十日(金)
若廣家 二四二 十一月一日(金)
瀬野家 三〇二 十一月一日(金)
内藤牧師宅 元五五 十二月八日(金)

○報告及消息

去る二十三日感謝祭當日感謝の夕の集ひは多数の兄弟姉妹が参加如下の如く盛會であり文字通り感謝の集ひでありました。特に婦人會の努力に深く感謝します。
猶當日の献物は四十円近くありました。之又感謝します。青年部を合せて五十八円五十一仙二二〇ル先生に託してヒルクレスト寮

養所へクリスマス贈物に致した。

○東部は向う北の市田中校はオグアの所南親の所北に所安者の所手紙が参りました皆様によろしく申して参りました。

○シーブルックに参り水の中城幸祐より安部牧師へ御來信皆様に在満中の事事情を謝し且つ重敷と

○エタ州のフォートカラスに入居され上田氏より感謝の來信、東行中の梅本姉よりソントレ一キより來信ありました。

○エカゴに行かれ青木夏子嬢より在満中の感謝の來信。

○感謝録

感謝 渡辺まゆ姉

感謝 柳中幸二兄

感謝 金本政夫兄

感謝 中育成

感謝 長瀬春吉兄

感謝 シンゴ 大井コサ姉

感謝 所三姉妹へ 梅本まゆ姉

感謝 所三姉妹へ 松谷牧師

感謝 第一婦人會へ 坂内夫人

感謝 花一鉢 石田氏

感謝 菊田 井田氏 間山兄

○親子家の家庭集會は中止してわすれた三十日(金)夜同家で集會を致す事になりました。
○日曜日の協議會は本年最終であると同時にクリスマス及年末の重荷を減らします。自給の準備を

聖言

「憐れみ、を信ぜよ」
「おは娘は救はれん」
人々その死を知らず知れ
ばイエスを嘲笑ふ。然
るにイエスの子のまゝと
り呼びて子よ起よ」と
言ひ給へば、その霊かへ
りて立刻に起く。
イエス食物を之に與ふ
ことを命じ給ふ。ルカ

○禮拜 聖言
十二月十日
於十一時十五
分前十時
聯合禮拜
司會者 安部牧師

○禮拜順序

- 一 奏樂 五六六 會衆
- 一 頌詩 主の祈 會衆
- 一 文讀文 二四
- 一 讚美歌 五四六(三三) 會衆
- 一 聖書 列王紀下 五二一五
- 一 祈禱
- 一 報告
- 一 讚美歌 三二三 會衆
- 一 説教 「信仰と従順」 内藤牧師
- 一 頌詩 五六八 會衆
- 一 祝禱

○傳道夕拜 午後七時
三教區聯合 於第二教區
西川牧師

○早天祈禱會
第二教區 午前六時
各教區 午前八時

○日曜學校
各教區 午前八時

○聖書研究會 午前九時
ルカ傳解講 四一十一四
安部牧師

○婦人會
コリント書解講 二一十五
鈴木牧師

○會各教區 午後二時

週間集會

○祈禱會 午後七時
十二月十三日(水) 各教區

○家庭集會 午後七時
(日附に御注意下さい)
十二月八日(金) 於
内藤牧師宅集會 於十九
長次家 一九六四

○報告と消息
今日曜學校 二一五の下級部
日曜學校は池田夫人出所後通當
なる後任主任者なる為二十三
五に合併しました。
十二月十五日(金) 二一六二
加藤家

病氣と信仰

イエス彼らの信仰を見て中風の者は言ひ給ふ「子よ汝の罪赦され
り」中風の者は言ひ給ふ「汝に告ぐ、起き床をとりて家に帰れ」彼
起き直ちに床をとり、人々の眼前にて行けば、まことに、一
我々は罪と云事を程度に悔患しを來る民族である。けれど事實の
否定は到底不可能である。或人々は神に象りて造られた人に罪なん
かあると考へるのが誤りである。病氣が罪の爲なるとは言ふるに
盲想であると主張する。けれど其れは要するに自己満足か然らずは
自己欺瞞に過ぎないのである。何となれば人の霊的及道德的の姿は
現實に罪人たる事を証明して居るものが現在の人類の世界である。
人の病氣が人類の罪の結果の一つである事も亦否事は出来ない、
故に神よりの救贖が人の靈魂の上には及ぶ時は瞬間に其の靈魂が聖化
されて肉の不治病が愈ふと取り去られると同時に人生が全然新にせ
らるる事實は救贖の結果種々人生の新しい光である。
俗に病は氣なりと云ふ。人の心が確信と希望に満ちる時は、假令
奇蹟的変化を見ずとも病氣の上れ如何なる結果をもたずかは現代
醫學が其の偉大なる功徳を証認する所であると同時に多くの人の
脱離する所である。わゝる確信と希望の出が希みは信仰により神よ
り賜る能力である。

完備完成して兒童の教育上は從
來の二十一十五より遙かによ
い所であり、故に從來通り兒童
をばけまして同所へおまくり下
さい。す様父兄の皆様にお願ひ
いたします。

○本日出席 長濱香吉兄弟の長
女和子嬢と、木下姉長男志郎氏
は兼ねて傳道中の所去る十二月二
十五日シカゴに於て橋本牧師の
司式で目出度度結婚、御二人の
上は神の賜祝福の裕なりと事と
祈ります。 Mrs. Wm. Henry,
Kumochika, 4331 S. Ellis Ave., Chicago

△新役員 榎谷牧師出所
の爲欠員中であつた役員の後
任として今回内藤牧師が選出
命ぜられた。

△樹中兄送別會 来る十一日
カハへ出所轉住と決定した同兄弟
の爲第二教區の送別會を来る八日
(金)午後七時より十九十五に於て、
内藤牧師の家庭集會を變更して
送別會を致す事になりました。

△ハートマリー・テンより書きた
る傳道問中であつた瀧野兄弟の女
婿が新教區軍中牧師は月余の所帯
中、度々教會の爲に奉仕下り、ま
しを去る四日所帯を返り、な
りました。

△瀧野兄弟セフレ及ネリー・瀧野兄
阿部中校と共に御出度り、トレン
以下来る。

○感謝録

- 感謝 妙中恒乃姉
- 感謝 戸田鶴夫兄
- 感謝 大場正治兄
- 感謝 坂本俊助兄
- 感謝 山田民郎兄
- 感謝 松野民子姉
- 感謝 坂田清子姉
- 感謝 田中よし子姉
- 感謝 中西とし子姉
- 感謝 加藤茂太郎兄
- 感謝 阿部中校
- 感謝 宮本姉三三
- 感謝 一円兄姉
- 感謝 無名氏
- 感謝 長次香吉兄
- 感謝 坂本衛兄

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO.106

DEC. 21, 1944 MANZANAR, CALIF.

聖言

キリスト・イエス
罪人を救はん爲に
世に來り給へり、
其罪人の中に我
は首なり。

テモテ前・十五

禮拜 聖日
十二月二十四日

クリスマス聯合禮拜

於第十四區食堂 午前十時
司會者 西川牧師

一 奏樂

一 頌詠 五六六 會衆

一 默禱 主の祈

一 交讀 ルカ傳二・八・二〇

一 讚美歌 八八(二人) 會衆

一 聖書 マタイ傳二・二・十七

一 祈禱

一 報告

一 讚美歌 一〇二(二人)

一 說教

世界に於ける二つの曆年

安部牧師

一 頌詠 五六八 會衆

一 祝禱

傳道夕拜

御降誕祝歌(カール)

全キヤンパを廻催

日曜學校

クリスマスプログラム

九・十五 日曜學校 下級組

二十五日 午後二時三十分

十九・十五 日曜學校 下級組

二十四日(日) 午前九時

二十三・十五 日曜學校 下級組

二十五日 午後二時三十分

於 十五・十五

二十七・十五 日曜學校 下級組
二十五日 午後二時三十分
於 三十二・十五

三十一・十五 日曜學校 上級組
二十五・十五 日曜學校 上級組
三十一・十五 日曜學校 上級組

三校聯合プログラム
二十四日(日) 午後二時

於 第十四區食堂

祈禱會

各教區 午後七時

報告と消息

本年も例年通りクリスマス特別
献金を皆様は御納ひする事になり
献金袋が皆様の御手届いて居る
事と存じます。 献物の用途は

クリスマスと再臨

キリスト誕生の祝日は、年を重ねるに従ひ、萬邦は榮え行くに係
りず、其本質なるキリスト再臨の待望が何故に時と共に其の影を落
めて行くであらうかと云ふ。

第一回世界戦争の際に、財産の全部を賣り捐ひ、白衣輕装、空中樓
閣に上り、今にも主の再臨を榮光赫耀の中に并せんとした狂狂の人
々が甚だ少なくなつたと言ひます。

然るに今次の戦争、大騒動は殆んど何所にも之に類した熱情
の發露を耳にしませぬ。

惟ふにベツレヘムに生れ給ふを、只一人の神の子が、再び雲にの
り、地上の何處に降り給ふとも、それが只一人である以上之を迎ふ
ることは、二千年の昔と今と変わる所はありませぬ。 今全世界は
君臨し給ふ只一人のキリストよりも、二三人の間に自らを表現し給
ふ多くのキリストを要するのではありませぬか。

主よ來り給へ我があはれな家にも。

無報酬で一ヶ年通じて御奉仕して
下さる日曜學校の先生其他いろいろ
の方面に御奉仕下さる方々への贈
物及び日曜學校生徒へのキヤンペ
代等になります。 いろいろの事
情關係から一軒の御家は救済の袋
が参つて所家もありませぬか、

そればかりしも全部へ御納ひの意
味ではありませぬ故通書に御返置
下さる様お願い申し上げます。

日曜學校上級組ラリーデー

献金をイタリーの困つて居る人
々へ贈物にいたしましたに對し取
次の分をとられ長を教會本部よ
りキヤンペ生活の日本人日曜學校の
心かりなる献物對し深謝感激
、感謝の厚紙が参りました。

感謝祭當日の献物を送りまし左
ヒルクレスト療養所の同胞より液
込牧師代表で感謝の厚紙が参
りました。

記念すべきクリスマス
祝ふべきクリスマス

我らの爲に生れ給へる救主
あるくよ歌ひまつれよ、喜ばしき
クリスマスの日を

我ら此を迎へて神の愛なると
とぞ知つた
其の獨子を賜ふ程に神は愛な
ることを知つた
この事を知りて患難の谷も、
決の淵も死の陰も、悉くの歡喜

感謝録

出所 村中幸一兄
特別 泰畑高次郎兄
出所 青手 村岡アリス嬢
週報 畑後 氏
入營 堀田 弘兄
感謝 全休 武藤宏通兄
感謝 平池寛造兄
献金袋へは日英両語の御礼を
を願ひます。

天軍の讚美の聲は包み込んで我らの為は一人の聖なる
生れ給ふ。
闇に包まれた人類の舞臺は空はひく御使の光へ
しらべと共は一大轉回をみる。



神の言が肉體となつて我らの中に宿り給ふた。
もう人ようなへよ、たへよ、もうくの人を照らす光の
光が闇の暗黒をうつさして照り輝いた。
福立の光は照り輝いて闇は消え去つたのである。

謹んで
御聖誕を
祝し

Peace for your heart this Christmas And faith and love to bless
The days of the coming New Year.
December 1944

新年の
御祝福を
祈る
マザナ基督教會

光をめぐして

人は誰しも其生命を尊重する。ありゆる方法を講
じてる。自己の生命を保存したいと努力するのが人情
の常である。しかし一度その生命以上のものを見出
す時には唯一の尊い生命を惜気もなく投げ出して、
敢て死をせぬ感歎性をもち有して居る。愛國の士は
祖國の爲に、孝子の子は其の親の爲に喜んで其の身命
を捧げる。殉教者は其の宗教と信仰の擁護の爲に
身命を献けて感謝する。茲に生命以上の價値の發見
があると思ふ。

人文發達史に於ける事物の發見の歴史を見るに其
處には絶大の苦心と困難のある事に気が付く。何事
によらず最初には物事を創始するには勇氣と決行とを
要する。然し地軸の引か發見者ニエ

地には平和

「憐れな。神よ、この民一般に及ぶべき大なる救済の福音をな
かりに告ぐ。今日タビデの町にて救主生れ給へり。これ主キリスト
なり」と質朴なる聖教者への天使の聲であつた。

宇宙の真理をあぐさる降理師は究めんとする學者には不思議な
星、豫言者により言ひ傳へられ星によりてキリストの御降誕
を神は彼に告げ給ふた。

爾來今自は二十五年の間にナザレニエスによりて地球上は如
何なる變化交轉を來わしたかは歴史の物語る處である。今日世界の
の狀態を見渡す時に平和の君として地上に降誕されたる救主の神
聖者は最早地上には見出されないのである。然るが故に基督の
地上降誕は最早の預言に果したものであらうか。

然らず、神の御心には其の意義は深い。そして救主の地上降誕は

一步であつたと思ふ。
人が何時神を發見したかと言ふ事
は明確ではない。然し人が單に動物
であるか又は人間であるか全然判別
のつかない時に初めて神を發見した
と云ふ事は嚴かな且つ有難い出来事
であつたと思ふ。人は神を見出した
と同時に其の生活の様式、態度が変
つて來た。即ち創世記にあるエデ

の園の光景がそれである。人は罪の
意識を自覚したと同時に、神の顔視
を避けぬばならぬ矚目は隨ち入つた
之れは一面の云ふと罪の自覺の
第一歩であり、又倫理的實在の神の
發見でもあつた。

人が神を見出す迄には様々な鐵路
を辿つて來るものであらうと思ふ。人
生の困苦悲憂を経て然して後に神に
到達するものもある。何れにしても
欠乏の多い人間が、人生の最高、最
大の價値である實存の神を發見する
迄には多大の犠牲を拂はねばならぬ

この世にあると思ふ。其の個々の心の
動きを見る時に、流れていて語る事の
出来なものの多い。

眞實な神を知る事は、自己の眞價
を見出す事である。勿論有限なる人
が無限なる神を、全く知り得る事は
不可能な問題ではあるが、然して、天地
の父なる神と交を結ぶと云ふ事は、
この上もない光榮であり、喜びであ
ると信する。人生暗夜に獨り迷ふ時
に、又心の裡に空を空と見える時は
眞實にして實在の神がともを給ふま
ゝ神は、人の心は希望の光を與へ、
愛は生命を養ふものである。茲に始
めて人は、自己の何物であるかを悟
ることとなる。マテウス野書に於け
るやぶらの音は、よくこの眞理を物
語つて居る。

進化の道程にある人の生活は對し
て、神は人智の進歩發展の階段に應じ
て、部分的に其の心を啓示して居る様
である。即ち「もろくの天は神の
榮光を現し、空は、其の手の業を
しめす」とある様に、人は自然界を
通じ、天體の運行をながめて、其の眞
に宿る神の實在の姿を見出したもので
ある。又人の心には、神の靈が宿つ
て居る。即ち「神先づ我らに愛を

するが故に我ら互に愛し得る。即ち
神先づ我らに愛するが故に我ら互に
愛し得る」とある様に、之は人間相
互の愛が、より以上の愛の模倣を見
出したものである。又「汝ら愛するもの
ながら其の手によさるるを與へ」と
す、まして天の父なる神は、
と云ふ處に父の愛のより人の心の裡に
高き神の心は、愛の愛の愛のある事を
示したものであると思ふ。人は法則
とか、原因とか云ふもの、支配のみ
では満ちぬものであると思ふ。

クリスと又神の愛とこの神の心
を知り得るとする人の心との一致であ
り、調和であると信する。即ち神の目
に啓示の完結である。天は高く地に垂
れ、地は高く天に上げられて、キリ
ストに於て神人の和合が完成せられ
「いと高き處には榮光神はあれ、
地には平和、人には恵みあれ」と新天
新地の實蹟が與へられたのである。
「朝の光より暗み暗黒と死の蔭と
に座する者とを照し、然るの足を平
和に導く」との救の光が、世に照
り輝いたのである。

人は今暗黒と死の蔭とに座するま
の、生活を見せつけられて居る。誠
に悔しい時代である。破滅の回轉

の、その何れかを避はねはならない。
害悪の毒矢は、人の胸に差し向けられ
て居る。この現實の生活は對して、
如何なる態度を取らねば、人類
の死生に關する問題である。この人
類救済の道は、キリストの十字架の
贖み外にはないと信する。實際は、こ
の世の中は、善惡二元の戦の生活で
ある。人はどうなる目を開き耳を
塞いで心の裡に、この二元の争を
明したに懸念するものである。自己救
済が本願にあり得る限りは、人は罪
なしなどと、うそを言ひ得る。苦であ
る。

不思議なる星の光をめぐりて冒險
をなすつづきと救主キリストを訪
ね來りし、東方の博士達の旅は、不
正不義、偏見、虚偽の現實を露り顯
へて、新に生れし主キリストを仰ぎ望
み、至誠と愛とに満ちたる眞の神を見
出して、人間萬物の咄物的機械生活
から、神中心の信仰生活に轉じて、
人生解決の鍵を握らねばならない。
眞の神を見出得ずしては眞の自己を
見出し得ないのである。眞の自己を
知らずしては、眞の神を知り得ない
のである。

この世を照らす眞の光として生れ

給ひし主キリストを仰ぎて人間不
の立ち場は立ち降り「み心の天にな
る如く地にもなせ給へ」と祈りつ
つ主キリストに於ける神人の合致、
人類救済の眞義を體得しなければな
らない。

クリスとこそ、世界萬物に關する
眞の救の光であり、其の本である。

鈴木生

（面中見より）
まや、不完全なる人智と短く人生の現
象を基調として、淺薄なまへの見解
は主神の神は何物にありやある。け
共人が全能者の側をとりや思ふに先
なる人の側を靜かに視る時は、そこ
には人の測り知る事の出来ない神の
世に地上を被る十字架上のキリス
トの十字架は地上に響き渡つて居る。
世界を被る此の戦亂の中はキリ
ストの十字架は響き渡つて居る事があり
くと個はれる。十字架の下より、人
を救ひて自らを救ひ得る……は
現在を大いなる咄物的資本主義の嘲笑
して居るのではない。其の中はキリス
トは歐洲の天地に、アムヤの大陸に又大
平洋の荒波の上の流れる血の中は、
父よ彼らを救へ……と十字架の上
の苦難は續けられて居る。

個人として我らは各々同下
を自己と自己の社界に見出すの
ある。

御降誕を神自身から始つた十字
架は、人が最初神に救いた時より
救ひ行く救ひの子の爲にせしむ親
心の御苦難を神自身から始つて
居られる神の御苦難のあらはれ、
ある事を我らは見出し得るのであ
る。格ち救ひ見子が親の愛の苦難
を知り、然りと悔ひ改むる如く人類
は愛の神が人の罪の爲に、悲壯なる
御苦難をキリストの御降誕である
事を知り、彼の生涯を通じて十字
架の苦難こそは、父神が人の罪の爲
に、憐れ御苦難の具現である。天父の愛
の御苦難である事を悟得して悔ひ
改むる時は始めて平和は地上にみ
出されるのである。其の時は主
なる神の御苦難をキリストの十字架
の苦しみは我りて人類社界は更に
天父の愛の御苦難をキリストの御降誕
ある事を悟り悔ひ救世主として全
人類が現實的に眞心より悔ひ改む
受け入れるときは始めて人の求めて
止まない平和は平和、人はは
恩澤が具現するのである。

週報 第百七號
マンザナ基督教會
一九四四年十二月二十八日

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO 107
DEC. 28, 1944. MANZANAR, CALIF.

聖言

誰かなんかの怒のち
かりを知らんや、それ
が汝をおそろ、畏にぞ
くらべて汝のいさよほ
りを知らんや、願はく
ばわれらに己が目をか
るゐることとをさしへて
智慧の心を得しめたま
へ。
詩九〇・二・三

禮拜 聖日
十二月三十日

第一教區 九・十五 午前十一時
「嚴肅送年」 祝部牧師
第二教區 十五・十五 午前十一時
「我はアバナリオスなり」 内藤牧師
第三教區 二十五・十五 午前九時
「希望の閃光」 西川牧師

禮拜順序

一、奏樂
一、頌詠 五六六 會衆
一、默禱 主の祈
一、交讀文
第一教區 詩篇 九一
第二教區 三
第三教區 三一 (二七・二六)

一、讚美歌
第一教區 二 (三)
第二教區 八五
第三教區 二六 (五二)
會衆

一、聖書
第一教區 詩篇 八四
第二教區 默示録一章八
第三教區 二 (二・三) 意十

一、新禱
一、報告
一、讚美歌
第一教區 二六 (五二)
第二教區 一四九
第三教區 二六 (五三)
會衆

一、頌詠 五六八 會衆
一、祝禱
一、傳道夕拜 午後七時半
聯合傳道集會 於第一教區
「年末と終末觀」 西川牧師

早天祈禱會

第一教區 午前六時三十分
第二教區 午前六時

聖書研究會 午前九時

ルの傳講解 四・十一・四 安部牧師

コレト書講解 二・十一・十五 鈴木牧師

日曜學校

上級部 午前八時半
下級部 午前八時四十分

新年特別禮拜

一月一日 午前十時三十分
聯合於第一教區

新時代に輝く
民族の榮光 酒井牧師

週間集會

人の心は常に何ものかを求めて止まない。
舊約人はこの求め心を現實界に止めて、物質慾・智慾・名慾
慾其他の世界に彷徨して居るのである。けれどもそれは只、本
能慾によつてのみ満足されるものでない事は、三真理を追求する者
の望むところである。そして彼等は故を求めたはれたいと願
ふに至るのである。人間生活の最も奥深い靈魂の故を求めたい心かそ
れなのである。

智的論理が人の靈魂を救ひ、科学や哲学や神学が人を救ふの
ではない。靈魂の二眞の故は二切の理論を越えて思存する。
我らは這る神の愛の発見にある。

靈魂の故は智識や論理によりず、言葉でもなく、己が四重
魂の上は神の愛の烙印を印せられることである。抽象的意
識ではない。体験による事實である。何物も犯す事の本質な
い事實である。ここに力が着き永遠の生命が躍るのである。

祈禱會

一月三日(水) 午後七時三十分
聯合平和祈禱會 於第二教區
司會者 安部牧師

報告及消息

各教區のクリスマス・日曜學
校のクリスマス・プログラムは各校の
の先生方の特別なる努力により
大成功に終りし事を感謝。高本年
は外部の天人の御愛の賜物加豐に
ありし事を深く感謝します。

過去二ヶ月の間青年指導の
任に當り下まつた、ボーベ
カー牧師は今回東部の新地位に

社説に於ける事に成り一月早々御
出発なされます。就いては来る
ボベカー牧師送別會
十二月二十八日(水) 午後七時半
一二世聯合 於二十五
十二月二十八日第二教區に於て一二世
各送別會を致す事になりまし。諸
諸方面よりクリスマス・の御
挨拶を感謝します。教のまじ
性名は有恩教します。

謹賀新年
一九四四年は永遠に去りま
した。收容所生活の最良の記念
すべき年でありました。人類は聖
前には確かに見えられ手であつ
たと信じます。
世界は最も聖なる皆に満ちた
を此年に望み歩みました。人類
は是を省みて
悔ひ改めの新年の興へられ
事を祈つて止みません。
又之を期待して感謝しつつ
聖前には祈りましよう。

感謝錄

誕生 岡本高雄氏
追悼紀念 雨見仙吉氏
特別 荒木昌義氏
特別 久保田信太郎氏
週報 神谷元子氏
週報 山下忠次氏
週報 (ハ) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (ト) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (ニ) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (三) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (四) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (五) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (六) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (七) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (八) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (九) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (十) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (十一) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (十二) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (十三) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (十四) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (十五) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (十六) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (十七) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (十八) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (十九) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (二十) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (二十一) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (二十二) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (二十三) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (二十四) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (二十五) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (二十六) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (二十七) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (二十八) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (二十九) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (三十) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (三十一) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (三十二) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (三十三) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (三十四) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (三十五) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (三十六) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (三十七) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (三十八) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (三十九) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (四十) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (四十一) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (四十二) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (四十三) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (四十四) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (四十五) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (四十六) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (四十七) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (四十八) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (四十九) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (五十) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (五十一) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (五十二) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (五十三) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (五十四) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (五十五) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (五十六) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (五十七) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (五十八) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (五十九) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (六十) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (六十一) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (六十二) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (六十三) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (六十四) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (六十五) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (六十六) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (六十七) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (六十八) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (六十九) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (七十) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (七十一) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (七十二) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (七十三) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (七十四) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (七十五) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (七十六) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (七十七) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (七十八) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (七十九) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (八十) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (八十一) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (八十二) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (八十三) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (八十四) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (八十五) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (八十六) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (八十七) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (八十八) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (八十九) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (九十) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (九十一) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (九十二) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (九十三) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (九十四) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (九十五) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (九十六) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (九十七) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (九十八) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (九十九) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
週報 (一百) Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama
Mrs. Mrs. Takayama

週報 第百九號
マンザナ基督教會
一九四五年一月十一日

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO.109
JAN. 11, 1945. MANZANAR, CALIF.

聖言

肉に従ふ者は肉の事を思ひ、靈に従ふ者は靈の事を思ふ。肉の思は死なり、靈の思は生命なり、平安なり。肉の念は神に逆ふ、それは神の律法に服はず、否後ふ事能はず。また肉に居る者は神を悦ばすこと能はざるなり。

禮拜

一月十四日

聯合禮拜

午前十時
於 第十六區講堂
司會 酒井牧師

一 奏樂

一 頌詠 五六六 今 衆

一 默禱 主の祈

一 文讀文 三三 (一一一)

一 讚美歌 五四 (一一四)

一 祈禱

一 讚美歌 一四四 (三三) 會衆

一 説教

「平和を先にして」

頌詠 五六八 會衆

一 祝禱

○傳道夕科 午後七時
於 第二教區 (十五五)

「恩寵を回顧して」 祝部牧師

○早天祈禱會
第一教區 午前六時半
第二教區 午前六時

○聖書研究會 午前九時
ルカ傳解講 四十一一四
安部牧師

コリント書解講 二十一十九
鈴木牧師

○日曜學校
上級部 午前八時半
下級部 午前四時

○第三教區婦人會 午後二時
於教會 例會 新年親睦會

親睦會

全教區聯合
新年親睦會
一月十八日(木) 午後七時
於 (十五五) 第二教區

本年は三教會を有するマンザナ基督教會の最終の年と思ひます。相互諸方面へ敢る事と思ひます。親しく最後の睦を共に

大自然の二功を愛する天地の理法は神の世界に於ける法則の反映であるが大自然自身は之を意識し得ない。丁程人間の手足は人の心の如く、心の如く反映であるが手足自身は如何に動いて之を意識し得ない。意識するものは心であると同様である。然れ共人は自らの中心に意識し得る不慮意識があるものと與へられて居る。のみならず更に天地一切の中に秘められてゐる神の創意を會得し、大自然界を通じて、神意を知り得る神祕なるものを自らのうちに秘めて居る。「我は二つの神祕を見る。仰ぎ見る大空、胸に秘めて居る我が肉なる道徳律」と哲人カントを叫ばしめたる此二心はあるであらう。

大自然は一つの大きな神祕である。無限に廣がる蒼空、千層に輝く雲、数々の星、日月の運行、四季の循環、山野の变化、樹は鳴る小鳥、草は青く虫の音は一つの輪の音の中へ、大自然の神祕は感じられる。その中でも最も不思議に感じられるのは自分自身、何所から来り何所に行くか、物質は自己の生じて居ると云ふ事に勝る神祕、神祕はないであらう。

人は自分自身の周囲と内部とを源と及有し、凝視すればする程、神祕は層層してこの大自然界の一切が澄々たる空の如く包まれて居る如く、更に深き天地の神祕なる空の如く包まれて居ることを感じたりする。パウロが「我は神の中に生れ、動き又あるなり」と叫んだのも亦此の靈界の消息を我々に傳へて居ると思ふ。

此の神祕の扉を開く完全なる合鍵を求めたに全人類は見出し得ず、惑は暗黒の中に立ち行く方向を失ふ結果は現在の大戦乱である。思想家、研究者、發明家は此未開の扉を開かんとする其の合鍵を探し求めて居る。其の鍵が自然科学の中にも見出し得る事は自然界に顯現する神祕自身を認める時に何ぞの不慮意識も有る事であるか、更に其の完全なる鍵は「十字架」にあり得る。僅のキリスト、イエスであることは目覚めて、全人類は古の物質觀より新なる靈的生活への大轉換期に立つて居る事に気付く。未嘗有る人類の苦難と試練を淨化劑として、自己と全人類救済の道に於て究極する聖なる神風となり、己が献身の信仰の活ける合鍵と手になる事を要する。

今や現代人は思ひ加へて大轉換を断行せねばならぬ「物の富より心の富へ」と、宇宙大自然は人類に向て大聲に叫んでゐる。

して基督にある愛の一部分を人の中に相共に見出し又勵まされ、主にある日本人としての行手に向ひ進みましよう。皆操會して御出席下さいませ。

感謝錄

第二婦人會へ 村岡 姉
金智記念 王宗王吉名姉
月 定 加藤氏大兄
感謝 妙中恒乃姉
感謝 瓶子作左子定
結督記念 川本静子姉
週報 (一九四五) 伊賀崎 姉

一月十七日(水) 各教區
○家庭集會
一月十九日(金) 午後七時
川本 家 十五、七、一

消息

本教會會友設立以來、教會の中心であつた、神中を主として、神は神に先シカゴより御安否の報と同時に、教會の中心は在満中の謝意を述べて来り、其の一句は「神々本心を離れて始めて其の偉大なることを知る様々、地を去つて過る二年有半の生活の感謝と隣にこそ新に生るるものでありませう。

週報 第百十號
マンサナ基督教會
一九四五年一月十八日

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO. 110
JAN. 18, 1945 MANZANAR CALIF

聖言 詩一四五
わが神王よわが汝を
あがめ世々わが汝を
聖名をほめまつらん
わが汝をほめまつらん
世々わが汝をほめ
をほめまつらん
この代はわが代は向ひ
て汝の聖蹟をほめまつ
汝の大能をほめまつ
宣べつたへん。

禮拜 聖日
一月二十日

- 第一教區 九十五 午前十時 祝部牧師
- 第二教區 五十五 午前十一時 神田牧師
- 第三教區 三十五 午前九時 藤牧師

禮拜式順序

- 一 奏樂 五六六 會衆
- 一 頌詩 主の祈 會衆
- 一 交讀文 第一教區 一 第二教區 一 第三教區 五 會衆
- 一 讚美歌 第一教區 一 第二教區 一 第三教區 八五 會衆
- 一 聖書 第一教區 ムテ第書 五・三三・三 第二教區 ルカ傳一四・二五以下 第三教區
- 一 祈禱 會衆
- 一 讚美歌 會衆
- 一 頌詩 五六八 會衆
- 一 祝禱 會衆

傳道夕拜

聯合集會 午後七時
於第二教區(十五・十五)
日本基督教
渡來の三期 安部牧師

早天祈禱會

- 第一教區(〇・四二) 午前六時半
- 第二教區(教會) 午前六時
- 聖書研究會 午前九時
- ルカ傳講解 四・二一・四 安部牧師
- コリント書講解 二・一・五 鈴木牧師
- 日曜學校 午前八時半
- 上級部 午前八時半
- 初級部 午前八時半
- 第二教區婦人會 午後二時 役員改選

週間集會

祈禱の力

ある植物の葉や花は太陽の光に沈むと自ら閉ぢたり朝になると自ら開く。然し祈る人は自ら変化するのである。かくして不完全な生活の中なる霊の姿は祈の中の日々完全に向つて近づいて行くのである。鶏は卵の上に乗つて暖める。初め卵の中は只形も姿もなく一種の液體の外何もない。然し鶏が其の上に乗つて居る中、卵の中は形の色も物質は變じて、母の姿に似るものとなつてくる。変わるのには親類ではなくて卵である。其の様に我々が祈ることによつて神が變るのではなく我々が彼の榮光の姿に似るものと變化して来るのである。祈の力程偉大なるものはない。

親睦會

新年感謝親睦會
一月十八日(木) 午後七時
於第十六區食堂

家庭集會

一月十九日(金) 午後七時
川本 家(再報) 十五・七一
一月二十日(土) 午後七時
瓶子 家 三十一・二・三
故瓶子子で師一週年記念會

祈禱會

一月二十四日(水) 午後七時
於各教區

報告及消息

親睦會 既報の通り親睦

會を本曜日の午後七時より第十六區食堂で催す事になりました。各教區の委員、婦人會の姉妹方及日曜學校教師其他教會の爲に特に御奉仕された方には謝意を表する感謝會を兼ねた親睦會であります。

別に案内状は差し上げません。本週報を御案内状と致し下さる教會を御案内と致し下さる。青年計画の錦興と懸賞品があります。

市由中校 東部は轉任され同師はクリスチャンの救世軍病院に勤務されて居ります。郵電なる手紙紙が来りました。皆皆様よろしくお祈り。
Apt. 9, 3414
1881 Jackson Ave.
Cleveland, Ohio.
吉瀬兄姉 佛國戰場に於

感謝錄

- 感謝 田村初造兄
- 出所 村上花子嬢
- 出所 荒木昌義氏
- 出所 星山利子嬢
- 出所 市尾イフ大姉

週報第百五十一號
福音堂基督教會
一九四五年一月廿一日

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN, NO. 112
JAN 31 1945

聖言
聖毎に誦経と宗
和と寛容とを以
ひ愛を以て互に
忍び平和の戦
うちに勉めて御
霊の賜ふ一致を
守れ
エペソ書
四章二、三

宗派なき宗教
宗教なき宗教とは人の死に對する
時の宗教である。此時教派もなけ
れば神學もない。保守派もなければ
進歩派もない。此時神は神であつて
キリストはキリストである。此時
來世は無いと云ひキリストは救主で
ない。云ふ信者は人もない。此時
信者はすべて神と人情とに於て
一つである。此時宗教は完全無
敵である。
何故に我等は常に斯く有り能
はざる乎。何故に我等は死に對
する時にのみ一致する乎。死は
極く稀に人の中に臨むことである
乎。我等の中に死なざる者が一人
たりとも有るのである乎。世に死
は普通なるものは無いではないな
い乎。然れば我等は何故に常に
死と相對して在ることが出来ない
の乎。
哲人シセロは言ふた世に死は並
運なる者はない。然るに人はすべて
死は無い者と見做して日を送つて
居る。人に近い者とて死の如き
はないのである。彼は常に我等
の側に立つて居るのである。然るに
我等は彼を認めずして、彼は無き
かの如くに、日々振舞ひつゝあるの
である。
願ふ我等の日々神の擁護の下に在
るが如く死の蔭に在らんことを、
而して相互を宥ひ、相互を愛
し相互を憐み、相互を扶け、
我等は來世の継承者であると同
時に又塵の子供であつて死の標的
である事を知り安らかに此の短
かき一生を終らんことを。
内村全庵「感想より」後筆

聖日禮拜 二月四日
第一教區 九十五 午前十時
主在る唯一の神 祝部牧師
第二教區 十五 午前十一時
「基督の證人」 内藤牧師
第三教區 廿五
「主よ我を去り給へ」 西川牧師

禮拜式順序
奏樂 五六六 會衆
一禮讚 主の祈
一默禱
一交讀文
第一教區 三二(二六)
第二教區 二四
第三教區 三四(二五)

讚美歌
第一教區 五四(一四)
第二教區 五四(一四)
第三教區 二六(一五)

聖書
第一教區 哥前二・二三
第二教區 ヨハ傳三・十一
第三教區 ルカ傳五・二十一

一報告
一祈禱
一讚美歌
第一教區 五〇七(七五)
第二教區 二〇〇(四五)
第三教區 三四(六六)

一說教
一頌歌
一祝禱
五六八

聯合傳道夕拜
午後七時
十五・十五・十五
酒井牧師

早天祈禱會
第一教區 一〇由二 午前六時
第二教區 午前六時
日曜學校
上級部 午前四時
下級部 午前四時
聖書研究會 午前九時
ルカ傳講解 四十一・四
安部牧師
コリント書講解 二・十五
鈴木牧師

定期協議會
二月四日(日)午後二時第二
教會に於て開催奮つて

祈禱會
一月廿一日 午後七時
於 各教區

報告及消息

○バネット夫妻(自由美以日本
部總理)先週御來訪青生
部教壇に御用を當られ一
月廿日お歸りになられた。
○ニルソン先生御來滿聖日
三回に亘る御用を果し月曜
お歸りになられた。
○酒井牧師は私用の為の一
月二十三日パサデナにお出
本週中にはお歸りの予定
○朝賀兄弟の御子息御入宮
の爲に御下シカゴに御歸り
にされ、御高麗の下にあり、神
の祝福を祈る。
○坂田兄弟の御長男も休暇を
利用して御両親御訪問中。
○去る日曜午後ニルソン先生
を中心として開かれたる懇話
會は同胞の直面する沿岸帰
還問題に關し率に一般に關
全先生の實験せる各種の事
柄を詳述せられ又バネット
夫人は歸郷を希望に過功な
る趣意を與へられ神益する
処までありました。
○故三宅ト子姉の一週年記念
會は一月二十九日午後七時第
二教會にて開かれ故人の追
憶に在りし日を偲び靈交豊
かに神の恩寵と栄光を拜す

感謝録

特別
特別 SOS
誕生(令嬢)
出所(第三教區)
出所(編入會)
出所
故夫人記念
特別 SOS(ベレン)ケル・マ・マ
出所
若し汝の議論と勸誘と
の凡てが失敗に歸して
なほもう一つの方法が残
されてある、そして他の凡
ての方法が無効なる時
にも有効なること、實証
せらるゝ方法である。祈
禱は即ちそれである。
されば他人の爲に汝自身
の霊の点め絶えず祈
を以て事に専らせ。

unsub
DEFENSE

U.S. War relocation auth
manzanar



祝部牧師

加州新金礦

他の者によりて救を得る
ことなし天には我らの頼
りて救はる可き他の名を人
に賜ふ事なげればなり。

行傳四十二

人生闇黒とされる時、
進路咫尺を辨ぜぬ時、
基督は我を照す太陽!!!
世の光なる君こそを仰ぐ
十字架は最悪のものゝ愛
じて取替はるものとなし給ふ、
醜態を化して至善となし給ふ。
十字架は由りて仰げば
神は我が父に、人は我が兄弟
宇宙は愛のホームだ。

一、奏樂
一、禮讚 五六六
一、主方祈
一、交讀文 一五
一、讚美歌 四四四
一、聖書 使徒行傳一七、二二
一、祈禱
一、報告
一、讚美歌 五五〇
一、說教 紀元節の回顧
一、頌榮 福音牧師
一、祝禱
聯合傳道夕拜
二月十一日午後七時
於第一教會會堂五十五
說教 祝部牧師

二教區 一〇一四一
二教區 一五一五
午前十時
午前十時

午前八時四十五分
午前八時四十分

午前十時
四十一

リソト書讀解 二一〇

二月十一日午後一時世分
於第三教會會中ニテ
諸婦の御出席
願ひます。

内田弘一兄には去る一月廿日玉
如き四万の初兎を儲けられ母
共にお大夫とは自出度し
ランドヤンクワの前教會
日記篠田夫人よりよくよくと
マヤ・マン・博士(柔港)前通事
訪去る聖日は青年部の

聯合平和祈禱會
二月廿午後七時
第三教會
於
廿二五十五

○来る翌日、本質手部の禮拝は、
はライフ・スナイター、牧師が来られて御
説教して下さることになつてゐます。
○去る翌日、夜、後孫兄の洗禮式
が、厳粛に舉行せられました。
後孫兄は、激烈な地へ出征さ
る前に特別休暇を得て当地
肉親を訪問中であつたが、愈
々当地訣別の前夜、即ち去る
聖日の夕、第二教会に於て内孫
牧師は、依り受洗せられたる名に
加えられしは、慶賀するよりであ
りました。同兄のよき豊かな祝福
を祈る。

○去る四日、開催の二月定期協
議會は、是まで一月間、開かれし
聯合聖日禮拝式及び聯合平
和祈禱會は、三月以後中止し、
特別の場合を除く外は、各教會
にて守るべきことと議決されました。

○世巴の小林愛次郎兄は、今夏、
を伴ひ、晩年を酬れと、瀟湘湖
を觀望不老の自宅に、移り、世
世に觀望する兄の、景観、忍びと
んも、此日出所せられ、東部に向
はる共に、神の厚き守護を
祈る。

○ト、バの寺澤牧師、過日御
天葬儀は、二月七日、執行との
報あり。謹んで哀悼。

誕生託念
變說託念
結婚託念
會堂智
三宅五十七

藏謝
什一
清冰兄
魚名氏
鳥谷市

クリスマス夜、厚く御礼申上
いたします。

收入合計四百九十二兩七十三仙
支出合計四百九十二兩五十七仙
殘欠高 七十二兩十五仙

[illegible]

理屈は口々に言つてゆく。相對性原理が出来る、と、ニュートンの学説が百とせりや、あやしくなつて来る。宗教を理屈の上に求めてゐると、理屈が壊れたかに宗教は成る。宗教と外側に求めてはならない。自分が自分の中に神を悟獲してゆかなければならぬ。神は生命だ、私を創り、私を現に生かす。神は、万方の生命を、今、今、生命を

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO.114
FEB. 15, 1945 MANZANAR, CALIF.

聖言

我が御より聞きて
また汝らに告ぐる者
信は是なり、即ち神
は光にして少しの暗さ
所なし。

約第卷一・五

○禮拜

聖日
二月十八日

- 第一教區 九・十五 午前十時
身代りの羊 安部牧師
- 第二教區 十五・十五 午前十一時
何所にある 内藤牧師
- 第三教區 三十一・十五 午前九時五十分
福音の助け 西川牧師

○禮拜順序

- 一奏 樂
- 一頌 詩 五六六 會衆
- 一黙 禱 主の祈
- 一交讀文

- 第一教區 三〇 (二九・二八)
- 第二教區 三二
- 第三教區 二九 (二九)

一讚美歌

- 第一教區 五五
- 第二教區 二
- 第三教區 二六

一聖書

- 第一教區 レビ記十六章六・十四
- 第二教區 創世記三章 一一・一〇
- 第三教區 ピリ書一章 三・二〇

一祈禱

一報告

一讚美歌

- 第一教區 一二七 (二九)
- 第二教區 五五九
- 第三教區 一二八 (三〇)

一説教

一頌詩

一祝禱

四活の海み兄弟とむつひは
世は波風はるると思ふ。

明治天皇

○傳道夕拝

聯合夕拝 午後七時
於第二教區 十五・十五
當の事に期あひ 酒井牧師

○早天祈禱會

第一教區 (一〇・四二) 午前六時
第二教區 (教會) 午前六時
聖書研究會 午前九時
ルカ傳講解 四二・一四
安部牧師

コリント書講解 二〇・一五
鈴木牧師

○日曜學校

青年部 午前八時三十分
幼年部 午前八時四十分

○昇天 當セルターよりシカゴ
に轉住されし竹村三郎兄は急病に
て同地病院に入院御如療中なり
遂に去る二月一日午後二時四十五
分御永眠の旨竹村喜生夫人より
通知に接し了した。逝きし靈の上
に主の御祝福のたまひ、又御遺族の
上御慰めと主にある平安を祈り
○特別祈禱會 それが運命
あり攝理の然らしむる所であると
云へばそれ迄の事であるが、矛盾
のうちから召集され或意味あり
受たれし、それが自分の生を受
けを國であるとは云へ國の爲に
勇敢に生命を捧げて居る我ら
の若人とその家族の爲に特別祈禱
會を別項記載の如く来る二士旦木
午後七時より開く事になりし
○豫定変更 祝部牧師は二月

生命の支配者なる神は生きて、在り在り給ふ。この神を神として
知り始めし時に裡に來る見えざる光が、大空に煌々として輝く星の
如く、常々人の生命の奥の奥に見えぬ神の光が人の内に照りて來る。
神は光である。一點の暗さもない。此の聖なる光に輝かれて人は自
己のなすつつある、あさましい生活を、鏡に寫す如く、我が罪を良
心の眼前に暴露せしめられる。嗚呼、鋭き其光よ。此の聖なる
神の光に照らされて何人の己が暗さを發見しなすものがある。此
の光を受け入れし者は凡て自己の罪人たるを自認せざるを得ない。
同時に「父よ我れ天に對し、又汝の前に罪を犯したる」と神と人の
前に告白せざるを得なくなるのである。
神は近づき、聖なる光を我が良心の奥底に投げ込まれておいて
我は罪なしと云ひ得るであらう。「我は我が罪を犯し、我が罪は常
に我が前にあり、我は汝にあらはれて、汝は汝に罪を犯し聖前に来る事
を行へり」(詩五・二二)と人の良心は叫ぶのである。 馬

週間集會

○祈禱會

二月二十一日(水) 午後七時
於 各教區

○特別祈禱會

爲出征軍人及家族
二月二十二日(木) 午後七時
於第二教區(十五・十五)

報告及消息

○洗禮 去る十二日聖日夕拝式
に於て、丸本富太郎兄同夫人ふみ
姉及清水虎市兄及同夫人すけ
姉の四人は祝部牧師より受洗
主の御名に如へられし。四
人の御方々に主の平安と天上よ
りの御祝福を毎日まじり如へられ
ん事を祈ります。

○感謝錄

誕生 田中よし子姉
誕生 中村富子嬢
結婚 西原房夫兄
感謝 坂本儀助兄
感謝 親子作左衛門兄
感謝 中島靜江兄
出生 東原五郎兄
出生 堀 治男兄
出生 瓶子キエ嬢
追悼記念 内田政一兄
月 定 加藤茂太郎兄
受洗感謝 清水虎一兄姉
受洗感謝 丸本富太郎兄

週報 第百十五號
マンザナ基督教會
一九四五年三月二十二日

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO 115
111.22, 1945, MANZANAR, CALIF.

聖言

まろく(の)恩恵の神
すなはち永遠の栄光を
受けしめんとて、キリスト
によりて汝らをも救へ給へ
る神は、汝らが暫く苦難
を受ける後、汝らを全うし
堅くし、強くして、其も
とこそ定め給はる。
ペテロ前五・一〇

禮拜

聖日
二月二十五日

- 第一教區 九・十五 午前十一時
「我主山中恩寵記」 祝部牧師
- 第二教區 十五・十五 午前十一時
「美産の剣」 酒井牧師
- 第三教區 三十五・十五 午前九時
「聖地の教會」 安部牧師

禮拜順序

奏樂

- 頌 詠 五六六 會衆
- 黙 禱 主の祈
- 交讀文

- 第一教區 二八 (二二〇)
- 第二教區 二三 (二二〇)
- 第三教區 二八 (二二〇)

- 第一教區 一 會衆
- 第二教區 五四
- 第三教區 三六 (九)

- 第一教區 詩篇第一一五
- 第二教區 イザヤ書第二二・二三
- 第三教區 エリヤ書第六章七

祈禱

報告

- 第一教區 五〇七 (七五)
- 第二教區 五四二
- 第三教區 一四九 (三七)

- 頌 詠 五六六 會衆
- 祝 禱

聯合傳道夕拜 午後七時
説教 ライフスナイダー博士

早天祈禱會

第一教區(一〇・四) 午前六時半
第二教區(教會) 午前六時

日曜學校

初級部 午前八時四十分
上級部 午前八時三十分

聖書研究

午前九時
ルカ傳講解 四・十一・四
安部牧師

コリント書講解 二・一・十五
鈴木牧師

第二教區總會及親睦會

教區臨時總會 午後二時

週間集會

祈禱會

「艱難汝を玉にす」と云ふ言がある。人生の行路は日々
神寄せて来る。そして人を玉にする貴い艱難を神はなれ
た心には、其の中に潜り込めて居る恩恵の泉を見出す事は
出来ないのである。これは事實に神は寄る者をなれ
猛る人生の荒波の底に潜り込めて居る恩恵の御手が動い
て居る事が見出されて艱難の中にある慰められるのである。
昔から「あの人は苦勞をこなし」又は「苦勞が足らぬ」といふはれ
るが、同じ苦勞でも、神は在るの苦勞と神なきの苦勞とは
自ら大なる相違が出来てくる。神なきの苦勞する者は、その
為により、罪と滅の淵に近づき、神はあつて苦難を経験する者
は、それによつてより近く神に近づいて行くのである。
神は近づくと云ふ事は希望と平安を意味する。故に神に
寄り頼み得る者は幸である。その人は如何に弱くとも、神の懷
にはあつて一切が安全であり、人生の苦難と共に、よく神を知り
キリストを識り、更に「キリストの死に效いて彼の苦難にあひかり
如何に生きて死の中より甦ること得ん」との希望を以て一切の
苦難を征服して永生への道を進む行路がある。之に導かれる力
強き、希望に満ちた人生の行路が他に見えぬのである。

二月二十八日(水) 午後七時
於 各教區
第三教區委員会
二月二十三日(金) 午後七時
於 瀨野兄弟宅 三〇二一

特報

既報北征軍人及其家族の爲の
特別祈禱會は豫定通り本二月二
十二日午後七時より第二教區に
於て開會皆様の御参列を願ひま
す

報告及消息

ライフスナイダー博士 聖公會の

監督である同博は本週末に未所
の水日曜日朝は青年の爲に夕は
日本語で聯合夕拜に御話下さ
る事になりました。

追悼慰霊祭 来る三月四
日(日)午後七時よりマンザナに於
て昇天された基督教者全部の追悼
慰霊祭執行は決定しました。近
水に霊が慰められ、遺族の上は格別
なる御祝福が加へられ、主の御栄
光の輝き出る様は皆御覧えてお
祈り下さいませ

加藤兄 シカゴへ訪問の爲先
日出発された同兄より、アリゾ
ナ旅行中の汽車中より聖名をな
れたる用便りのありました。

同兄の上は上りの御祝福の
に又道中の御加護を祈ります。

ニールソン先生は来る三月
一日に當地に來られる事になつ
ております故に用のある方は至急
教會事務所(五・一五)又は酒井
H.V. Nicholson, 1554 28th St.
San Francisco, California 4,
Calif.へ御申込み下さい。

感謝錄

感謝 無名氏
出 所 山田夫人
出 所 ユタ州無名氏
人皆有用の用を知りて、無
用の用を知ること莫きなり。

マンザナリ基督教會
三月一日

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO. 116
MARCH 1, 1945 MANZANAR, CALIF.

聖言

いと高き神の子イエス
よ、我は汝と何の關係
ありや、神によりて
顧み、我を苦しめ給ふ
な
これはイエス「穢れし
靈よ、この人より出で
往け」と言ひ給ひしに
よりてなり。
可五・七八

禮拜

聖日
三月一日

- 第一教區九十五 午前十時
父の住家 安部牧師
- 第二教區十五 午前十一時
主の祈 内藤牧師
- 第三教區三十五 午前十一時
父の住家 西川牧師

禮拜順序

- 一 奏 樂 詠 五六六 會衆
- 一 黙 禱 主の祈
- 一 交 讀 文

- 第一教區 三五 (二四二二)
- 第二教區 五
- 第三教區 三一 (二二二六)

- 一 讚美歌 第一教區 八五 (二七)
- 第二教區 一一〇
- 第三教區 二六 (五二)

- 一 聖 書 第一教區 三六・四一・四四
- 第二教區 三六・九一・九六
- 第三教區 三六・九一・九六

- 一 祈 禱 告 第一教區 二〇〇 (四五)
- 第二教區 五一〇
- 第三教區 一二〇 (二六)

- 一 讚美歌 第一教區 二〇〇 (四五)
- 第二教區 五一〇
- 第三教區 一二〇 (二六)

- 一 頌 詠 五六八 會衆
- 一 祝 禱
- 傳道夕拜 午後七時
- 追悼慰靈祭 於 十五・十五

定期協議會は一週間延期致します。

早天祈禱會

第一教區 (二〇・二二) 午前六時半
第二教區 教會 午前六時

日曜學校

初級部 午前八時
上級部 午前八時半

聖書研究

午前九時
ルカ傳講解 四一・一四
ルカ傳講解 二〇・一五

合祀慰靈追悼會

マゼナに於て日天を祀る
基 督 教 徒 一 同 の
慰靈追悼會
三月四日(日)午後七時 於 十五・十五

或寺の住職の息子が東京の某大學に在學中、卒業間際になつて放蕩に身を持ち遊した。住職の父は佛門からある者の出た事を怒り、息子を破門してしまつた。息子はそれ原因となつて極度の神を放つて置くわけは行かないので、無理に郷理につれ帰り、彼を押し込める様にして一室に監禁した。すると息子は、この監禁に對し益々反抗して暴れるので、家人も全く遂に持て餘し、食を與へずに彼を殺さんと謀るに到つた。

所が其近頃の一人は、救世軍の士官があつた。彼の或日息子に會つて見ると、息子の方でも彼は大変好意を以てゐる、と話をすると、そして其の言を疑はずして條理が立つてゐる士官と話してゐる時は少しも其の言を疑はずで、然し他の者が部屋に入つて行くと全く別人の様になつて暴れ出すのである。それは彼が息子を狂人扱にして居るからである。士官は此様子を察知したので、家人に息子を戸外に出す事を、夕方の彼のうちに、家人に息子を由に過すと息子は飲酒の過に過順になりやがて余り苦悶の状態に陥つた。神より来る愛が全く人に思召されてゐたこの青年を救つたのである。

週間座會

三月七日(水)午後七時
於 各教區

家庭集會

三月二日(金) 午後七時
本園兄宅 二二・一九・五

故竹村三郎兄追悼會

教會多故人友主修
三月三日(土) 午後七時
於 第二教區會(十五・十五)

報告及消息

慰靈追悼會 別項の如く來

三月四日(日)第二教區會は於て過去三ヶ年間に當り内でお祭をされた方々全部の追悼會を開く事になりまし。いろいろの事情の爲に關係者に通知が出来ないと思ひます故に是非御参加を希ひます。教員は申すもなく一般の希望を乞ふ。

故竹村三郎兄追悼會 本三月一日シカゴに於て永眠された同兄の爲に教會及友人主催の追悼會が別項の如く来る三月三日(土)午後七時より第二教區に於て開かれ、故皆御出席下さいませ。

ニコールソ牧師は予定を変更されて三月十六日に來所されます故御用の方は早く申込み下さい。獨御帰途には當地より南加州に歸還

これらの方々の寄附をもち歸りになる由につまづ希望の御方は即申込み下さい。

高藤の姉はお姉上様ハートマウンテンに於て急に永眠された。同地は急行された。天上ありのお慰めの給なり事を祈ります。

小見牧師はアイオワ州のデモインから最近舊病に罹られて、目下パシダバヤフルカレサに於て御勉學中との便り、皆様に宣教と。

感謝錄

- 誕生 松露せき嬢
- 感謝 渡辺三子嬢
- 出所 小林ヌイ嬢
- 出所 宇藤花子嬢
- 出所 小松ヌイ嬢
- 出所 加藤茂太郎兄



MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO. 117
MARCH 8, 1945. MANZANAR, CALIF.

聖王言
さうば悔改に相
應しき果を結べ
斧はばや樹の根に
置かる。されば凡
て吾を果を結ばぬ
樹は伐られて火に
投け入れらるべし。
マタイ傳三・八・二〇

○傳道夕科 午後七時
聯合集會 於 十五十五
告別説教 祝部牧師
○早天祈禱會
第一教區(二〇・二二) 午前六時半
第三教區 午前六時
○日曜學校
初級部 午前八時
上級部 午前八時半
○聖書研究 午前九時
ルカ傳解講 四・十一
安部牧師
コリト書解講 二・十五
鈴木牧師

會であつた。我々の望みが更に
よく開かれ、時に聖霊と交通する自
由にされて、未だ現に具休化して現
實となり、永遠の希望の中に生か
るに至るのである。
○祝部牧師 はいよく、シウカ
に轉住される事に決定され、近々中
に御出発されます。聖日夕科に告
別の祈禱を御祈りなさい。
○羅特エバリー・ホステル が出来
ました。場所は 506 N. Green -
Green Ave. 電話 AM 5373
米國長老教會と米國友愛會の
共同経営
料金一日宿泊食料附金五、十
日以上又は就職有一、五十仙、十才
以下は半額
手續其他本細は同所の由田牧
師 (Rev. S. Lowry) 又は Miss

○禮拜 聖王言
三月十一日
第二教區 九・十五 午前七時
信仰の交換呼吸 祝部牧師

○協議會
於 第二教區 午後一時三十分

聖王アウカスチヌの近ける母の爲の祈
吾が此の傷、即ち人感は肉の愛の欠點を覚見したると思はるる
所の此傷、此時よりして癒へられは神よ我は爾に全然別種の涙を
爾の爲にそそぎぬ。蓋此の涙は大凡アダムによりて死する靈魂
を待つ所の危険を慰む時、土底まで震はるる精神より出る所の
のなり。従今母は基督によりて活かし、其の肉より救はれし前に、
其の信仰と言によりて爾の聖名の榮めらるる養生をたりしといへ
尙且つ其の更生の道を授けし以來其の死する日に至る迄、汝の律
法にあらざるもの、一言其の恩より離れたることなしとは我が敢て断
言せざる所なり。爾の子なる「眞理」其の兄弟を愚者よと云ふ者は地
獄の火の危険に干るべしと宣へり。若爾人は慈悲を加へず、量りた
るは、其の生涯の如何に讃をへる人と雖も、禍なる哉。汝は過ち
て行ひし事を悉く心に記めたるはざるが故に吾人は爾の目の前に慈
憫を得べしと望み。若爾人は對して己の眞實を言へんとせば爾の量
かなる恩寵の外何の算ふべきものあらん。人皆己れを誇る者の
主によりて誇るべき事を。(マタイ)

○禮拜順序
第一教區 三〇(二二)
第二教區 一七
第三教區 三四(二二五)
第一教區 一四九(三七)
第二教區 五四三
第三教區 一八三(三〇)
第一教區 二一七
第二教區 二二二
第三教區 二二四

○追悼會 去る四日夜の合
配慰靈追悼會は鬼きれたる集

一、奏 樂
一、頌 詩 五六六 會衆
一、默 禱 主の祈
一、交讀文
第一教區 三〇(二二)
第二教區 一七
第三教區 三四(二二五)
一、讚美歌
第一教區 一四九(三七)
第二教區 五四三
第三教區 一八三(三〇)
一、聖 書
第一教區 二一七
第二教區 二二二
第三教區 二二四

○新 禱 會
三月十四日(水) 午後七時
於 各教區
○家庭集會
三月九日(金) 午後七時
富田家 十七・八・一
三月十六日(金) 午後七時
坂本家 二十八・四・二

○感謝 錄
平池寛隆兄
無名氏
有川武義氏
無名氏
中川タチ子嬢
有川武義氏
山崎春雄
榎本秀吉氏
加藤正名氏


一、頌 詩 五六六 會衆
一、説 教
一、祝 禱
子日く、君子は和して同せず。
小人は同して和せず。

○報告と消息
○追悼會 去る四日夜の合
配慰靈追悼會は鬼きれたる集

○感謝 錄
平池寛隆兄
無名氏
有川武義氏
無名氏
中川タチ子嬢
有川武義氏
山崎春雄
榎本秀吉氏
加藤正名氏

壬午年四月十一日

十字架に到りてイエスを十字架につく。又悪の人をその右に一人をその左に十字架につく。



開闢の地へ来てイエスを十字架につけ、又悪の二人をその右に一人をその左に十字架につけて、斯くてイエスを父に給ふ。「父よ償ひを我に給へ、そのなす所を知らずればなり。」

第一教區 九一五 午前十時
石川ふやし 安部牧師

第二教區 五十五 午前十一時
ホサキ領 荒原老會館へ 酒井牧師

第三教區 三十一 五 午前一時
最大の試練 西川牧師

一、奏樂
一、頌詠 五六六
一、默禱 主の祈
一、交讀文
會衆

讚美歌 會衆

第一教區	五〇八 (七六)
第二教區	五三一
第三教區	二六一 (五二)

祈禱
報告
諸美歌
會衆

說教 頌詠 禱 五六八 會衆

聯合 夕 於第二教會
エルサレム途上の基督内藤牧師
身はを以て武蔵の野辺にくちぬと云
とどめ置かまし大和魂
吉田松陰

初級部
上級部

日曜學校

午前八時至
午後八時三十分

ルカ傳 解講
四一・二一四
安部牧師
二〇一・一五

受氣週プログラム

三月十六日(月)祈禱會 午後七時
第二教區 於教會
第一教區 二二二四 坂田兄弟宅
第三教區 於教會

三月三日(水)祈禱會 午後七時
聯合祈禱會 於第三教會
獎勵 稻井牧師

聯合特別祈禱會	獎勳	於第三教會
三月三十日(金)祈禱會	安部牧師	午後七時
聯合祈禱會	旗第三教會	
獎勳	內藤牧師	

キリストの受難。二千年近くも此の言は傳へられ來て彼を信する者の間に覺えられ紀念され來た、誠に古い言であるが同時又之程人々の間に理解されない痛ましいか無限の價值のある言はない。それら其苦である人の靈魂を救ふ聖い神よりの活ける言があの十字架となつた事を思ふ時に當然の事である。

世の罪はいふく深刻となればなる程十字架の受難を之に比例して遂に現代を生み出した。十字架教理はあまりによく説く明かされ、そして廣く求べ傳へられ。然るに現實はいふく益々暗黒へと突進して本靈の慘劇となつた。諸人よ心を遮ふして靜かに十字架上の基督を視よ。心耳に響いて來る聖なる靈聲は「父よ彼ら赦し給へ」と高く響いて來る、其の聲は人事でない。各々自己の爲なる事に氣附く時は、自他共に赦はれ此恐ろしい慘劇は變じて平和のみ國が出現するであらう。各々が主の受難に就いて沈黙黙考の秋は今である。

或人電氣發賣王エチソレに聞いて
「次々の貴下の大発明は天才ですわ、そ
れとおぼろけの贈物ですか」と
「エチソレさへて「一パーセントがイレスピ
レーション(電磁)で九十九パーセントが

受難園が例年の通りにまゐり
ました。上記の如くプロگرامが
でました。向平折に覚えて御出
席下さい。真心中で出席下さる事
が第一の援助になります。此の非
常時には唯一の力は霊的活動であ
ります。

既報の通り坂本侯助兄姉及懸
木島次郎兄らはニコールソレ牧
師と共に二十日午前羅府に帰リ
来りし也。尚八木兄、長次兄、坂本
織衛兄も同道一時訪問で出所せし
ました。主の帰祝福裕なりと事と
北澤武工門兄姉はいよく近々
中江サレノゼの自宅に帰来りにな
る事に御決定。

新田牧師より來信「運報御
購り下され脚札申上げます、各地
の方々大悦びです。脚札申上げま
す。イヌタ頭として済まねしよ
う、先生方敬愛によろしく申上げ
て下さい。私も十日以來當地で
(トバカ)連日連夜集會訪問でみ
なされ主の栄光を拝して居ります
ハルヤ、サロントレーキ、オウデン
は同じ更にハルトの遠征したいと
祈つて居ます」。

感 區 度 通 持
謝 悼 悼 報
杉原エ之康
南地 姉
四倉哲男兄
阿部周太郎兄
別第三變會へ
塩出 姉

パース・ヒート・シヨレ（発汗）です」と

神の姿に造られし人は一分の靈靈感で
凡九割九分が力ませなくてはならぬ
のが當然である。神は象られし人は
は神の全能に近し人として全力を盡
して己の本分に究詰してこそ人をなすのである。

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
マニサナ基督教會
Treasury Report
會計報告
February 千九百四十五年二月分 1945

RECEIPTS				DISBURSEMENTS			
REMARKS		AMOUNT	TOTAL	REMARKS		AMOUNT	TOTAL
記	事	金額	合計	記	事	金額	合計
	SUNDAY OFFERINGS 日曜献金				OFFICE, CHURCH SUPPLIES		
	JAPANESE WORSHIP 日語禮拜				AND EXPENSES		
4		8.93			事務所、教會供給及雜費		
II		4.55			Office Equipment 備品	7.39	
18		7.15			Paper 紙	23.08	
25		7.96	28.59		Telegram Fee 電報料	2.42	
	ENGLISH WORSHIP 英語禮拜				Stamps 切手代	7.20	
4		15.61			Church #2 Expenses 第二教會費	5.90	
II		10.29			Miscellaneous 雜	1.98	
18		9.59			Soldier's Bible 軍人用聖書	10.15	58.12
25		13.66	42.85		Y.P. EXPENSES 青年費		
	SUNDAY SCHOOL 日曜學校				Big Seventeen ビック十七組費	2.86	2.86
4		9.35			SUNDAY SCHOOL SUPPLIES		
II		10.48			日曜學校供給		
18		9.00			Upper Division 上級部	8.79	
25		10.07	38.90		Lower Division 初級部	8.95	17.74
	SPECIAL CONTRIBUTIONS				SALARY AND APPRECIATION		
	特別献金				俸給及謝禮		
4	Mr. T. Goto (後進) 後藤勇兄	5.00			Revs. Hohri, Naito 祝部、内藤	48.00	
II	Mr. G. Kurihara (後進) 栗原五郎兄	3.00			and Nishikawa 西川牧師	16.00	
	Mr. H. Hori (後進) 堀治男兄	1.00			Mr. Kawamoto 川本兄	8.00	
18	Mr. M. Kato (後進) 加藤茂太郎兄	1.00			Mrs. Hayashi 林夫人	10.00	
	Mr. Mrs. T. Shimizu (後進) 清水虎一兄	1.00			Mr. Miyake 三宅兄	10.00	
	Mr. Mrs. T. Marumoto (後進) 丸本敬一兄	1.00			Miss Mizumoto 水本嬢	10.00	
25	Mr. H. Enomoto 榎本孝吉兄	1.00	13.00		For Clothing to (2 months)		
	GRATITUDE 感謝				Revs. Abe, Naito, Hohri 安部、内藤、		
4	Mr. Shimozu 清水兄	1.00			Nishikawa 祝部、西川各牧師及		
	Mr. S. Nakajima 中島静江兄	.85			Mr. Kawamoto 川本兄、祝部科二員	23.50	115.50
	Mr. S. Heishi 親子作次郎兄	2.00			MISCELLANEOUS 雜		
	Mr. G. Sakamoto 坂本俊助兄	4.00			Tenmei 雜誌天月	12.50	
	Anonymous 匿名氏	2.00			Typewriter Rent 針式打字機	2.50	15.00
	Mrs. M. Watanabe 渡辺マサ子	1.00	10.85		TOTAL DISBURSEMENT	209.22	
	WEDDING 結婚				BALANCE FORWARD	351.85	
4	Mr. T. Aiso (後進) 相磯藤三兄	5.00				561.07	
	Mr. F. Kurihara 栗原秀夫兄	5.00	10.00		RECEIPTS 收入		
	BIRTHDAY 誕生				REMARKS	AMOUNT	TOTAL
4	Rev. & Mrs. Abe 安部牧師夫婦	3.00			記	金額	合計
II	T. Nakamura 中村富子嬢	2.00		II	Miss K. Heishi 親子キ江嬢	1.00	
	Mrs. Y. Tanaka 田中ヨシ子姉	2.00		18	Mrs. Yasuda 安田夫人	5.00	
	Miss Matsuyu 松露セツ嬢	.50	7.50		Anonymous (マコト) 匿名氏	5.00	
	MEMORIAL 追悼記念			25	Mrs. N. Kobayashi 小林又子姉	3.00	
4	Mr. I. Miyake 三宅計松兄	5.00			Mr. M. Kato 加藤茂太郎兄	2.00	16.00
II	Mr. M. Uchida 内田政一兄	3.00			TOTAL RECEIVED 收入總計	185.69	
25	H. Ito 伊藤花子嬢	3.00	11.00		BALANCE BROUGHT 繰越高	375.38	
	LEAVE CENTER 出所					561.07	

マンザナ基督教會

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO. 121
APRIL 5, 1945. MANZANAR, CALIF.

聖言

憐憫を行はぬ者は憐憫
なる審判を受け、憐憫
は審判にむいて勝ち誇
るなり。
わが兄弟よ、人自り信
仰ありと言ひて、もし
行爲なくは何の益めあ
らん。斯る信仰は彼を
救ひ得んや。ヨハネ二二

禮拜

第一教區 九一五 午前十時
「新教の使命」 安部牧師
第二教區 十五五 午前十一時
「預言者の出現」 内藤牧師
第三教區 三十五 午前九時
「光の生活」 西川牧師

禮拜順序

一 奏樂
一 頌歌 五六六 會衆
一 黙禱 主の祈
一 交讀文
第一教區 三二(二六)
第二教區 七
第三教區 三四(二五)
一 讚美歌 會衆
第一教區 五五(二五)
第二教區 一四九
第三教區 二六一(五二)
一 聖書
第一教區 テモテ後書一三一九
第二教區 ルカ傳二四・一三三五
第三教區

新講

一 報告 會衆
一 讚美歌
第一教區 五五九(一〇九)
第二教區 五三二
第三教區 二七九(五七)
一 説教
一 頌歌 五六八 會衆
一 祝禱

傳道夕科 午後七時

聯合夕科 於第二教區
題末定 ミルン牧師

早大祈禱會

第一教區 午前六時
第二教區 午前六時
日曜學校
初級部 午前八時
上級部 午前八時
聖書研究 午前九時
ルカ傳解講 四二二・四
安部牧師
コレス解講 二〇一五
鈴木牧師

協議會

月定協議會 午後二時
於 第二教區

週間集會

祈禱會
四月十日(水) 午後七時
於 各教區
家庭集會
四月六日(金) 午後七時
山田家(再報) 六一〇・四
松野家(再報) 一七九・三

報告及消息

ミルン牧師は来る七日(日)
に當地へ来られ、羅布バサ
ナ方面へ御用の御方は御出下
さい。
若松松之助氏子息は歐洲にて
負傷目下ヤンナスにて御入
院の由、御祈禱をせよ。
婦人會例會定期 第三日曜日は協議會の爲婦人會各教區共第三
日曜日は延期致します。

聖パウロがスチレの囚人母モリスの爲の祈(二一八)より續く

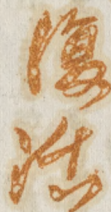
嘗て木の上は懸けられ吾人の爲に挽回をなすべく爾の右に坐して
まひし所の吾人の傷疾の「治癒者」の名によりて、願くは我が言を聴
き給はん事を。我は知る彼女が慈悲を以て人々を救ひ給はれに罪を犯せ
る者の罪を心より赦せしことを、願くは爾彼女が救拯の水に入り
し以來、生前至聖の間に犯したるべき其の罪を赦し給はんことを
あり主願くは之を赦し給へ、願くは之を赦し給へ、彼女の審判は
つらい給ふ勿れ。蓋は其言を眞なる汝、約して哀愴ある者は、哀
を度くましと宣ひた水なり。 彼等の哀愴ありしことを哀愴ま
と思ふ者を哀愴み、慈愍すると思ふ者を慈愍みたる汝の恩賜なり
なり。 蓋は我が信する如く汝は既に我が哀願する所をなし給は
らん。然れども主よ爾は自由の心よりせる吾が屋の献供を納め給はん
ことを。

汝の攝理の日彼女の上に来りしと云彼女は其の身の憂は掩はる
こと香料にて包まらるることを好まざり。 (つづく)

感謝録

特別 芳松松之助氏
特別 櫻井 氏
月定 加藤茂太郎氏
誕生 長谷川美利子氏
入會 (喜) 田中より子氏
祈禱感謝 九山清作氏
祈禱感謝 竹友 氏
祈禱感謝 廣瀬昌氏
祈禱感謝 草柳由藏氏
通報 アリナ 佐川喜一氏
出所 第三婦人會、北澤一 氏
イースター献金
田淵兄弟 田淵 廣 出兄弟
星山 姉 比嘉夫人 齊藤 氏
一円 兄 龜田 氏 山本純吉氏
南地 姉 櫻井 氏 有式義氏
瓶子作 兄 龜田 氏 長海兄弟
芳地 兄 三宅 氏 下岡夫人
川原 兄 黒川 氏 坂田兄弟
宮本方 姉 丸山 氏 錢田 氏
増田 氏 山田 氏 提井 氏
田中より子 姉 加藤 氏 山本 氏
川本 兄 川本 氏 遠水 氏
大場 兄 龜田 氏 匿名 氏
匿名 氏 匿名 氏 村上 氏
安部牧師 相模 氏 宮地 氏
山田 氏

左記の方よりイースターの御
挨拶が参りました。
○大井ふく子夫人 シカゴ
○山田より子夫人 36 Greenwood
Pastor: Rev. Yoshie S. M. Y. S.
○吉田秀次兄弟 Ottawa, Kan., Ill. U.S.A.
○神谷夫人 グラズストン、テキサス
○池田義則兄弟 イリノイ州
○坂本義助兄弟より御來信、當地
在住中の御様子等を謝す。大変
御多忙中。
○竹友修司氏は歐洲の戰場に同はれ
し由、神の保護を祈ります。



墓に行り、右の方に白の光を著せる
此光者の坐するを見て其に敬慕す。若
し有いふ「やうくなく、汝らは十字架に
つけれぬ給ひしナザレのイエスを尋ぬ
れ」と、隨ひて此光處に在るをす。

速のに往きてその弟子をろは
は死人の中より甦り給へり（哀弟
上段）

マンザナリ基督教會
マンザナリ基督教會
マンザナリ基督教會

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO. 122
APRIL 12 1945. MANZANAR, CALIF.

聖言

我は汝の我に賜ひし
榮光を彼らに與へたり
是れわりの一なる如く
彼らも一つとなりん爲
なり。
約一七・二

禮拜
聖日
四月十五日

第一教區 九十五 午前十時
「内なる人の生長」 安部牧師
第二教區 十五 午前十時
「活きた信仰」 酒井牧師
第三教區 十五 午前十時
「放蕩息子」 内藤牧師

禮拜順序

- 一 奏樂
- 一 頌歌 五六六 會衆
- 一 默禱 主の祈
- 一 交讀文
- 第一教區 三一（二二一六）
- 第二教區 九
- 第三教區 三二（二一六）
- 一 讚美歌 會衆
- 第一教區 二二四（四七）
- 第二教區 五四
- 第三教區 八五（二七）
- 一 聖書
- 第一教區 詩篇第一篇
- 第二教區 五五（九・二二・三）
- 第三教區 ルカ傳五・一二下
- 一 祈禱
- 一 報告
- 一 讚美歌 會衆
- 第一教區 二九四（六三）
- 第二教區 五三八
- 第三教區 二二八（四六）
- 一 説教
- 一 頌歌 五六八 會衆
- 一 祝禱
- 一 傳道 夕拜 午後七時
- 聯合夕拜 於第二教區
- 受洗者歡迎証詞會

早天祈禱會

第一教區 午前六時半
第二教區 午前六時

日曜學校

初級部 午前八時四十分
上級部 午前八時半

聖書研究

ルカ傳解講 四二一四
安部牧師

アリト書解講 二〇一十五
鈴木牧師

婦人會

婦人會例會 午後二時
於 各教區

週間集會

祈禱會 四月十八日（水）午後七時
於 各教區

家庭集會

四月十日（金） 午後七時
本田家 二二一四
長濱家 二九一六
四月二十日（金） 午後七時
朝香家 一五一三

聖オウガスチ、逝ける母モアの爲の祈（二二二より續く）

彼女は何等驕りたる紀念を遺すか、故郷なる其の墓に葬らるる事をすべし。彼女が吾人に下せし最後の命令は此の如し。類にありず、唯吾人が汝の希望の如く己れを記し得んことなり。此の希望は彼女が一日を暮らすことなり。彼女が知りし如く其の神聖なる犠牲の此所よりして與へられし所、手にて記して吾人は汝の祈の書其の側には抹消されし所、吾人の罪を赦へ、吾人を祈へんことを求めて、而して吾人の由つて克ち得る所の「彼」其人あるが爲に、何等発見する所なき敵の、此の下にて足下に眠るる所なり。誰か彼の罪なる血を以て彼に返す得るものぞ、誰か彼の手より吾人を引き落さるが爲に、其の吾人を購ひし所の價値を彼に購ひ得るものぞ、彼の吾人の「救済」の聖禮を以て汝の碑は己の靈魂を信仰の紐と結びつけたり。

報告及消息

協議會議決事項 教會員
及日曜學校生徒に對し出所の際
は會員証明書を附與し轉任地
教會との聯絡を便せしむると同
新教徒たるの確信を深めしむる
C.A. からの要請もあり所内青
年指導員、特に學校閉鎖後の
青少年を指導する爲に出来る限
の努力をなす事。本問題研究の

感謝録

受洗 徳田繁子 イスター 献金
特別 山口ササ子 中根ヒサ子
特別 山口ササ子 木村よし子
受洗 白井能喜 池田兄子
結婚 谷田部氏 大井フサ子
入信 平泉金一 深沢キヨ子
追悼 益出兄子 青木民子
出所 中川子 砂中恒子
出所 奥田子
出所 長山源治

鳥、西川牧師、村上坂田両兄を
委員に選定。
受洗者歡迎會 四月十五日宣
傳道夕拜は新しい受洗者九本當
本即兄姉、清水虎吉兄姉、白井熊
吉兄、徳田繁子兄の歡迎と信徒
証詞會を致す事になりましむ。

出所轉任 長山源治兄姉
は十日ニコールン師と共にバサデ
ア御轉任。
草柳街一家は十日 3741 West
10th Street への自宅に御帰
還になりましむ。
斎藤つね姉は一月の予定で羅
府及東部御訪問の途に去る六日
上られましむ。
安達兄（ハルニ）は来る十二日出
所なりましむ。

來訪者 福井齋兄は前週序
來訪羅府に帰りましむ。
エンモアの橋井牧師は前週水曜
日羅府轉任局主任としてトリス
氏と同道來所されトリス氏青
年は橋井牧師は一世の禮拜はそ
水く御話し下されましむ。
コールン牧師は勝木兄同伴土
曜日より日曜夕拜の序用は當
つて下さいます。

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO 123
APRIL 19, 1945. MANZANAR, CALIF.

聖言

至上者のもとなる隠
れたるところにはす
ふ。その人は全能者の
蔭にやどらん。われ
エホバのことを宣
べて、エホバはわれ
を所わが城がより
をのむ神なりといはん。
詩九二・二

○禮拜 聖日
四月二十日

第一教區 九・十五 午前十時
第二教區 一・十五 午前十一時
第三教區 三・十五 午前十二時
聖書物に汚されり。酒井牧師
第三教區 三・十五 午前十二時
「基督教の自由と何ぞ」
西川牧師

○禮拜順序

奏樂 五・六六 會衆
黙禱 主の祈
交讀文
第一教區 三・四 (二五・二四)
第二教區 一・二
第三教區 二・九 (二・九)

讚美歌 會衆
第一教區 五・四 (二・四)
第二教區 一・一
第三教區 五・四 (二・四)

聖書
第一教區 サムエル書一八・九・一三
第二教區 エシヤ書二二・一・二・三
第三教區 マルコ書三・一・二・三

祈禱
第一教區 二・六・四 (五・三)
第二教區 三・七・〇
第三教區 二・〇・〇 (四・五)

頌歌 五・六・八 會衆

報恩の道を知る者は多くの恵みを得る

○聖書のスケッチ 逝ける母モニカの爲の祈り (二二二より終)

向人も汝の保護の許より彼女を牽き去る權力を有せざらん事を。
獅子又は大蛇の暴の又は詭計を以て其の通路を妨ぐる者ありざらん
ことを。蓋は彼女は何等負荷なるを堪へて、狡猾なる誘惑者の爲
に誘惑せられ、若くは陷穽せらるるか如き事なく、反りて其の一如
の負債を彼に免れしむることを答ふべければなり。彼の吾人の爲
に納めたる賤贖は、彼を免れしむることを答ふべければなり。彼の吾人の爲
と能はざる物なり。是故に彼女が其の良夫、即ち初め良夫にして又
惟一なる良夫と與に安全に休まんことを其の心より服従せし所の
良夫、其の用は之を得るが爲に忍んで雨の爲に果を結ひしむるなり。

○傳道夕刊 午後七時

聯合夕刊 於 第二教區
「預言者の出現」 内藤牧師

○早天祈禱會

第一教區 午前六時三十分
第二教區 午前六時

○日曜學校

初級部 午前八時四十分
上級部 午前八時三十分

○聖書研究 午前九時

ルカ傳解講 四・一・一・四
コリント書解講 二・〇・一・五
鈴木牧師

週間集會

○祈禱會 午後七時
四月二十五日(水) 各教區

○家庭集會

四月二十日(金) 午後七時
朝香家 十五・三・一
四月二十七日(金) 午後七時
白井家 十一・九・四

報告と消息

○祝部牧師 先月ウエスタンステ
州に轉任され祝部牧師より教
會宛禮状が参りました。皆様によ
く。

○朝香兄弟の息むヨシ君はシカ
ゴより應召御入營されました。
大能者の御保護と御祝福が此若
人の上に常により、使命を全うし
て無事に御両親のもとに帰る日
の速のあらん事を祈ります。

○柳原兄弟の見物客は前線出動
前の休暇を得て目下御両親の
もと帰って活ります。同君の行

手は主なるにもなりん事を祈りま
す。

○津田牧師 リカーヌ基督教會の
同牧師は北加地方巡回視察の途
中本月末當所を寄りコロリン視察
方面の御方々御會談の御便を望
四月二十七日の聖日は御用は當
頂く事になると思ひます。

○出所 第三十區の中野、内
田御両家は来る十九日メリーラ
ン州へ御轉任になります。

二十八區の岡澤兄弟は近々中に出
所される御積定であります。

來信 一、シールブックは行の札を
山田兄より御來信、皆様によろし
く。M. Yamada R. 10, # 5
Bridgeton, N. J.

之を讀むに政を以てし、之を裁く
する刑を以てすれば、民免れて
恥無し。之を道に徳を以て
し之を裁くするに禮を以てす
れば恥ありて且つ格ると
子曰く、吾十有五にして學に志す
三十にして立つ、四十にして惑はず
五十にして天命を知る。六十にして
耳順ふ。七十にして心の欲する
所に從ふとむ。矩を踰へずと。
子游、孝を問ふ。子曰く、今の孝は
能く養ふを謂ふ。犬馬に至るま
で皆能く養ふことあり。敬せざ
れば何ぞ以て別をんや。(論語)

○感謝録

祈禱感謝(十七日) 藤井氏
入信記念(見) 朝香兄弟
感謝(貴有) 三宅五十枝兄
感謝 願野徳松兄
受洗 大須賀進一兄
出所 草抑兄
出所 足立徳實兄
出所 無名氏
週報 小峰兄

12時三十分に始めます。

マンザナ基督教會

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO 125
MAY 3, 1945. MANZANAR, CALIF.

聖言

人もし御心を行はんと欲せば、此の教の神よりか、我が己より語らるを知らん。己れより語る者は己れの榮光を求め、己れを遣はし有の榮光を求る者は眞なり、その中にも不義なし。
ヨハネ傳七・一七

禮拜

聖日
五月六日

- 第一教區九・十五 午前十時
「罪標の眞理」 内藤牧師
- 第二教區一五・一五 午前十一時
「眞理と自由」 酒井牧師
- 第三教區三三・一五 午前十二時
「キリストの天卒」 西川牧師

禮拜順序

一 奏樂

一 頌詠 五六六

一 熱禱 主の祈

一 交讀文

- 第一教區 二九
- 第二教區 一六
- 第三教區 三一

一 讚美歌

- 第一教區 一一〇
- 第二教區 二
- 第三教區 二六一

一 聖書

- 第一教區 ルカ傳二・三三・三四・二
- 第二教區 ヨハネ傳八・三一・三四
- 第三教區 テモテ後書二・一・六

一 祈禱

一 報答

- 第一教區 二七九
- 第二教區 五二二
- 第三教區 五〇六

一 讚美歌

一 頌詠 五六八

一 祝儀

一 傳道夕拜 午後七時

聯合夕拜 於第三教區
「壁の上の文字」 西川牧師

正誤：前号感謝録中、中田政一兄とあるは内田政一兄の誤り

「あー我は己れを偉大なりしめんため、己れの偉大を愛し天に思はんが爲に、容儀を盛にし身を飾りた。しめし得る所は何もなかり」とはナボレオンの告白である。我女子を偉大なりしめ其の生涯を尊なりしめんとするは親の愛である。其の親の愛は報いんとつゝあると云ふ。君國に報いんとするを忠とす。人の真心が、ある態度に出づる所には何ぞの自己の爲はなし。神心の現れである。徳の中は、何ぞの自己を飾りんとするものはない。父の御心の心をなるとせる主イエスの中は何れの自己心の活動はなかつた。基督教者の生涯には何れ自己心なく存子の生活の如く、忠臣君に對するとす。基督教の徳を身心に帯びて只神の御栄光の爲に活す又死する處に其の眞實は表はせられるのである。然らずんば富貴の禍ある事を忘れなければならぬ。

日大祈禱會

第二教區 午前六時

日曜學校

初級部 午前八時四十分
上級部 午前八時三十分

聖書研究

コロシ書解講 二〇一十五
鈴木牧師

月定協議會

定期協議會 午後二時
於教會（十五）

週間集會

家庭集會

五月四日（金） 午後七時
田中家 一九一四・三

祈禱會

五月九日（水） 午後七時
於 各教區

報告及消息

時間変更 既報通り五月一日より總ての間集會は午後七時三十分は致します。
津田牧師 去る四月二十八日未所これと同師は同所直ちに瀬野家の家庭集會に御臨み下されは眞に拜す。其のついでに、御奨励を以て下されしを。

日曜の禮拜には基督教者の信仰の中にも申すべし山上の聖訓の結論「壁の上の家を建てたる慧人」に就いて基督教者の自取も大なる信仰と實生活に就いて懇々解きあらわし、御説教を聞き、心に充ちて禮拜の時をもち得て感謝。聖書の

夜はモーセの後に起てられたコシヤに對する神の御命令を中心として現在の状況の將來に及ぼす影響の問題に就いて動く事のため、信仰はた、前途は信はるべきや又諸種の困難を「心を強し」と云ふのと云ふ御言はた、前途は信はるべき事を強調され、不意動搖は漂ふ同胞に遠隔な御奨励ありし。

月曜日は、特に御願ひして御多忙な御旅行の途中の一日を我々の爲に、二度御講演をなさした。三十二の食堂で御座る實、手札な事で得し、其の御言はた、前途は信はるべき事を強調され、不意動搖は漂ふ同胞に遠隔な御奨励ありし。

富田忠久兄は母様の御葬儀をすへ父君の同伴で帰所になりし。出所轉住 榎公夫人は、マニラ、マニラ、木村夫人は、マニラ轉住されし。坂本鐵衛兄は、直々津田 先生は一日當所を所遊覽、羅得由北に向はれる御豫定でありし、突然、快を覺る爲に、二日延期を承事になりし。主の能力の如く、其の事を祈ります。

感謝録

- 感謝仕 無名氏
- 出所 狸谷朝子姉
- 出所 内山武英君
- 出所 三宅覚造兄
- 結 九本 仁氏
- 出所 (ルシスト) 宮崎島市五門氏
- 出所 吉森名和氏
- 出所 中崎藤子氏
- 出所 佐藤 祐

聖言

汝の父母を敬
へ是は汝の神エホ
バの汝に与ふる所
の地に汝の生命の
の長かりんため
なり。

五二〇・二

○禮拜

聖日
五月十日

- 第一教區 九・十五 午前十時
婦人會堂行 内藤牧師
- 第二教區 十五・十五 午前十一時
天也を結ぶ能力 酒井牧師
- 第三教區 十五・十五 午前九時
隠れなる愛 西川牧師

○禮拜順序

奏樂

頌 詠 五六六 會衆

黙 祈 主の祈

交讀文

- 第一教區 二八 會衆
- 第二教區 二六
- 第三教區 三四 (二五)

讚美歌

- 第一教區 一一〇
- 第二教區 三二三
- 第三教區 一一二 (二五)

聖書

- 第一教區 マルコ傳一四・九
- 第二教區 コリント前十三・一三
- 第三教區

祈禱

報告

讚美歌

- 第一教區 二六四
- 第二教區 四三七
- 第三教區 四二七 (七二)

誦 詠

五八八 會衆

祝 禱

○傳道夕禱 午後七時
聯合夕禱 於 第二教會
朝は来る夜も亦来る 内藤牧師

○早天祈禱會

第二教區 午前六時

日曜學校

初級部 午前八時
上級部 午前八時

○聖書研究 午前九時
コリント書解講 二〇一十五
鈴木牧師

○臨時總會
聖日夕禱直後 午後八時三十分
於 第二教會

週間集會

○祈禱會

五月十六日(水) 午後七時
於 各教區

○津田牧師 先日東京より來訪せり
水田同牧師より謝状が参りしを
豫定通り北上機中を中心として用
務を了へられた後は一應リヴス
に御帰られ御慰定の由、御旅行
の上は御祝福の口より事を祈
ります。

○夏期學校 及休暇中の兒童の教
育指導の具體的プログラムに就
ては目下青年部が中心となつて討
議研究し順調に進行中でありす。

○出所 一円兄弟一家は去る六日
マニラにお帰りになりました。

坂本織衛兄は先登西羅の邸宅に同
心くする土曜日お帰りになりました。
御家族は學校終了後六月早々
は帰りになる由

右所両家の上主の御祝福と平安
を祈ります。

少女はいつもそのお友達より母の慰めを聞かされては泣いてあへつた。
「何故私のお母さんは、あんなに泣くのか。せめてお友達のお母さんと同じや
うであつたら、どんなに嬉しいか。知れなかつた。」

と一人で悲しんで居た。其の少女の母親は、見るも気の毒なほど、心は
火傷を知らぬ人からはお化けと思はれる程、顔であつた。

心は思ふことは自ら外に現れるもので、母親はいつしか娘の気持ちを
感じたのである。「それは少女のまなこに、幼い頃の冬の夜のことであつた。
と目を覚ますと、悲しみの火傷が家を包んで居た。その火傷の安全に救ひ出す、
自ら全身に火を浴び、其の火を恐るゝ火傷の顔となつたのである。」

少女は母の話を聞いて居るうちに自然と涙は止んだ。そして其の涙
の中は仰ぐ見た母の顔こそ、それは誠な神々しいものであつた。爾來少女は
其の母の顔と手は限りない感謝の源となつた。と同時に他人に對しては、
寛容語りをこへ應ずるまつた。(見聞録)

母性愛は神の愛の現れである。基督の愛は即ち神の愛の人の對する具體
である。人若し基督の愛を知る時はその悲愴なる魂の十字架の上のイエス
は少女の母の顔である。此の魂の十字架こそ基督者の誇である。

報告及消息

○臨時總會 教會の重要事
項討議決定する為来る日曜日夕
料直後臨時總會を開く事になりま
した。皆様生來得るだけ御出席下
さる事御希望します。

○母の日 (十三日日曜日) 午後二
時より青年主權の母招待會を第二
教會で催す事になつて居ります故
お母様方は是非御出席下さい。

○協議會 月定協議會は於て所内
教會使同中の外部教會其他より借
用中の物品中紛失せる物は對して
は相當の價格を支拂ふ事に決定致
しました。

○感謝錄

- 出 所 一円兄弟
- 出 所 凡本英雄兄
- 出 所 本村よし子姉
- 出 所 本村ハル子
- 出 所 戸田ハル子
- 出 所 渡辺三郎

手代士の母

赤穂手代士の一人に原惣右エ門と云ふ者がある

大石良雄が京都に住して幕府の密偵をあそびてゐる間は、原はなほ赤穂城下に留つて、時々密使を交換し、書状を以て互の意志を通じてゐた。

ある日惣右エ門は走馬の侍をして三つくの物語の序に

「今度余儀ない用事で、京都へ上ります。都合で江戸まで参るかも知れませぬ。もし左様なこともなりましたら一月あまりの、あるかも知れませぬ。留守は定めし御不自由と存じます。さういふお暇を下さいます。」

と云ふと母はつくづくおか子の顔を打ちまもつてゐたが、いや／＼そなたが一度こゝを去つて江戸表へ罷り越すなればよむや再び帰つては来ないことであらう」と云ふ。

惣右エ門は奮然として答へる言は節としてしまつた。母は尋ねて

「なほさう云ふことにはない。そも武士の家は生れて諸代恩顧の主の爲に身を殺すは誠に當然のことである。忠孝兩全は六ヶ敷い事であるが、おつち母は心を残さず、一日も早く亡きう爲に、修羅の玄統を晴し奉り忠孝の道に邁る果て下さうこそ、この母の心は望んでゐる。何をそんなにわづらふことかあらう。」

と勵まされて、惣右エ門は覚えず感涙に咽び、

「實は早くより大石殿と心を合せて、内々復讐を期して居りました。が、事の満ちます事を恐れて、父・母を子に語らうとの神文書詞を仕りまして故に、今日迄母上にも仰明し申さざりしをとうか許許し下さいます。」

と申し及所母は大いに喜んで、旅立ちの用意など整へて出發を急せたいのであつた。

按て原は山科なる大石の家に行つ見ると、食雄病床に呻吟して居る。惣右エ門は並常の驚き、心を盡して看護したところ、病氣は意外にも早く回復した。しつし直ぐ関東に下向する事も出来ないので暫く休養することになった。そこで惣右エ門は、今度家は帰つて母の安否を尋ねて来ようと思ふと、母は何事かと打ち寄せてゐたが漸く氣色を直して

「では久し振にしつしは御飯でも」と手づから調理してすすめ、いとお心におけに語り合ひ夜もいそぐ更けのり。

「明日また話そう」と云ふ其の床に就いた。ある日惣右エ門は早くより母を待つてゐたが、なかく起つて来ない。不慮候に思つて女中を見れば、女中は寢室に入るや否や「ア」と叫んで轉ひ出て来る。惣右エ門何事

ならんと駭けつけてみると、母は懷剣で喉をつつて、うつ伏せに崩れてゐる。あまりの事は流し出す騒ぐ心を強ひて押し籠めばかりありさよく見ると、母は一封の遺書。

一筆申し残しまわらせ候常は存心深き事は言語にも述盡しかばなし。殊更の事を思ひて、故郷へ立ち帰るなむの心づかひ。我が身はとりては如何ゆかり悦び入り候へども、先づ討入りと云はく時、ふと母の身の上を思ひ出します。ふなれば進む勇氣もたぢちくちくして、敵に内兜を見られぬまはらん。此れ全く母の存命故と存候まづ惜しめりぬたの生命。今宵先立ち申候。是も子を愛する道はなかりんと、女心は一筋に思ひ出はめたるに候。此上は随に心残りな吉良殿は亡君の恨、又母の敵と思ひつめ討入給ふものなれば、親の手柄を致さぬ候はんと安堵致し参りせ候何事も最期を急ぎ

早々申致し候 母より

惣右衛門殿

惣右エ門はこの遺書を見て、心弱く立ち帰つたことを後悔しなげれ共、何とぞ致すかたない。で、この上は花々しい殊勲をなして母の意志は遂より他はなしと、すく志をかちて直ちに京に引き返しを。

そして其の討入の夜は血氣に隔れ手柄をあらはしそのみある。

(忠臣蔵の料子)

聖言

體は一つ、御霊は一つなり。汝らが召にかけらる一つ望をもて召されたるが如し。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。凡ての者の父なる神は一つなり。神は凡てのものの上は在し、凡てのものを養ふ。凡てのものの内にしすしたまふ。弗四・四・六

○禮拜

聖日
五月二十日

- 第一教區 九・十五 午前十一時
「イエスの僕」 内藤牧師
- 第二教區 十五・十五 午前十一時
「靈化の人生」 酒井牧師
- 第三教區 三十一・十五 午前九時
「輝く細布」 酒井牧師

○禮拜順序

- 奏樂
- 頌歌 五六六 會衆
- 默禱 主の祈
- 交讀文

- 第一教區 二九(二一九)
- 第二教區 三
- 第三教區 三一(二一七)

- 讚美歌
- 第一教區 二
- 第二教區 一四九
- 第三教區 三四一(六六六)

- 聖書
- 第一教區 ルカ傳二四・二五以下
- 第二教區 口書八・四一
- 第三教區 ヨハネ黙示録九・一八

- 祈禱
- 一報 告
- 讚美歌
- 第一教區 二七九(五七)
- 第二教區 五三二
- 第三教區 聖二八(八六)

- 説教
- 頌歌 五六八 會衆
- 祝禱

君子は能くすること無きを病む。人の己を知らざるを病む。論語

おねがひり献金袋に「日英和語の辞書」と、女のふは「Nana」と「Mama」を必ず序記入下さる様々願ひ申します。

○早天祈禱會
第二教區 午前六時

○日曜學校
初級部 午前八時
上級部 午前八時半

○聖書研究
二〇・十五 午前九時
コリト書解講 鈴木牧師

○聯合婦人會
於第二教區 午後二時
獎勵 内藤牧師

○傳道夕禱 午後七時
聯合夕禱 於第三教區
諸感嘆獎勵 中川甚松兄

週間集會

○祈禱會
於各教區 午後七時三十分

今日の機械文明は、地球上の各民族を極度に接近せしめて、各民族は恰も互に隣室に住下宿人の如き有様となつた。外部の如く接近した地球上の人類は内部的には全く反比例的に遠く離れて來た結果が今日現在の慘劇を轉出せしめたのである。

戦争と考は發達するのは各種武器である。最近の発表によると戦後の飛行機の速力は一個哩乃至一個五哩に達するであろう。何と云ふ恐ろしい世界は我々の眼前に出現した。ある事である。

來る可新時代は世界の此大変化即應する人の内部精神が巨歩統一されんば次の時代の地球上は如何なる状態の轉回をするかと云ふ事は空想像が出来るのである。

フランスの詩人ポール・リニエール東方に出づる國を尋ねて熱血ををばりし作、曰く「わが日没する國一火焔に包まれその祖国を覆ひ覆せる西方より曙光の國日出づる自國に來れり。驕り我は吾が國に語る如く汝に語りん……」(詩の一節)

新しい神學と古い智慧と、ヨーロッパの思想と、自己の表に統一せる唯一の神……「流血の跡なき宗教を求めて唯一の神……」(神を統一して更に神聖なる真理を發揮するは汝なるべし)と我らは静かに神が我らに與へ給へる三十年の歴史を見つめて、この霊を聞かぬ時、内部的精神が統一されて、神一つ、信仰一つ、聖靈一つの民族的初穂をりかゝる生命を捧ぐるの光榮の靈声を聞かざる。主の汝に求め給ふて止まるべし。此の事であつて、決して自己中心の所謂理想の論争空論ではない。

○聯合婦人會 聖日午後二時
第一教區で開催の聯合婦人會は今回が最終と思ひます。教會の合同と同時に婦人會も亦之に従ふ事となりませう。故に今度は聯合總會となりませう故に皆様おれなく御出席下さい。

○西川牧師は短期出張
北南加羅府方面を帰前間。

○坂田兄弟は来る十八日出
発アムステルダムに轉任されることになりました。オムテルより灰男動物園同伴される由、厚家の上は神の厚祝福と主にある平安を祈ります。

○若松兄弟はアムステルダムにある同兄弟は羅方所屬の途中近中に當河に立ち寄る由

○榎谷牧師より所來信 夫人一行が安否の由、感謝皆様の祈り

感謝 二二・二二

富田良吉兄

高橋 様

清水 兄

田中良吉兄

坂田兄弟

中川甚松兄

坂田兄弟

坂田兄弟

坂田兄弟

坂田兄弟

坂田兄弟

坂田兄弟

坂田兄弟

坂田兄弟

坂田兄弟

坂田兄弟

坂田兄弟

聖言

凡ての重荷と纏へる罪
とを除け、忍耐を以て我
らの前に置かれたる馳
場を走り、信仰の導師
又之を全ふする者なる
イエスを仰ぎ見るべし。
彼はその前に置かれたる
嚴密の爲に馳せる獸は
すす字架をこへひ遂に
神の御座の右に座し
給へり。

（ルカ福音書二二、二二）

凡ての重荷と纏へる罪
とを除け、忍耐をもて我
らの前に置かれたる馳
場を走り、信仰の導師
又之を全ふする者なる
イエスを仰ぎ見るべし。
彼はその前に置かれたる
敵害の爲に恥を感ず
す十字架をこめひ遂に
神の御座の右に座し
給へり。

第一教區 九・十五 午前十時
保羅とシラスの信仰 内藤牧師

第二教區 十五・十五 午前十一時
女神を拜せよ 酒井牧師

第三教區 三十一・十五 午前九時半
現代のイエスキヤ教會 酒井牧師

奏樂
頌 詠 五六六
默 祈 主の祈
一交讀文
第一敎區 三〇（一一九）
第二敎區 一二
第三敎區 三五（一二一）
讀美歌
第一敎區 五四（一二四）
第二敎區 三二九
第三敎區 五五九（二〇九）
聖書
第一敎區 使徒行傳十六・廿五
第二敎區 默示錄一九・九・一〇
第三敎區 默示錄 三・四・一二
會衆

祈禱
報告
讚美歌
第一教區 聖一九五（八五）
第二教區 三七〇
第三教區 二六四（五三）
說教
頌詠 五六八
祝禱
會衆

○傳道夕并午後七時三十分
聯合會
於第二教會
大野軍エヲ
内藤牧師

第二敬會
午前十時

初級部	午前八時四十分
上級部	午前八時三十分

二〇一五
午前九時

三上書解講
鈴木牧師

○家庭集會

五月二十五日金一上后日三
故夫人訖念
瀨脇家 一八一四一三

五月三十日(永)
各教區

叔らが太陽を見た時實は太陽より發する圓形の光線を見て居る
 まゝ熟れ入つた水をまして「之は何れ」と聞かれ互時は「何れも
 直ちに水をとるへる。何れ熟れはいつた水をとるへる人はある
 まゝ、又硝子の中の水をとると余計説明を要せないのである。
 太陽から發する光線を見て太陽を直覺する如く或は硝子内の水

を見て直ぐ水を直覺する如く、我らの祖先直は其外夜をる肉休を起へて直ぐに内在の靈に直面する、神は自身の所安を仰ぐを來たのである。神代以來日本精神は治るを來を大和國民の一人々の中は此徹底した信仰が集積して居る。從來當然生るべしして生れながら前人未踏の世界が今こそ勃然と祖國より躍り出ることと信ずる。祖國は今や其の生みの大苦惱の中にある。物質を本体として一切を物質に従屬せしめて唯物質享受の中に投げ込む歐米文明は形をなして太平洋の彼方には大浪となつて打ち寄せて居る。太陽を事實見を有は一人もなし、只其老に接して人は垂暈太陽を見て居る考へて満足して居る、それは我ら人間に必要なる適度の熱と老を供給して満足として居るより最早其の本体を見る事を要しない又見る事も出来ないのである。「と見て吾は父を見しなり」と宣ひて十字架の上に甘むる基督の中は異人の話くる處になくてなりぬる靈老と其の源である父なる神と直感に結ぶられて來る日本民族はより世間人類的の前に明を示す使命を負はされて居る事恰も歐米人により物質界の元理破則を世界に示明せんと同一である。其の爲に今神は日本民族の上に迫り給ふて主座の大智恵である事を思ふ時は十字架の上よりこころを老に照らしられて永生への希望に満たされる。

○婦人會、去る日曜日午後三時より第一教區に於て聯合婦人

會開催多數の出席者あり内藤牧
神と母との精神と顯して有益なる

活動あり後教會の合同に伴ふ婦人
 会の合同と可決。同時来る六月第
 二日曜日聯合總會を開き合同に伴
 ふ具體的協議をなす事に決定。

結 誕 之
 管 生 征
 息 城 甫
 坂 田 清 子 傳
 大 山 改 次 郎 兄

入營（敬肅） 高橋衣子婦
出所 高井直子攝
出所 南田大郎

國恩 月週 國恩 謝定 報置有 少々
謝(三轉之令)
中川新太郎兄
田中(G)兄
加藤民太郎
無名氏
後藤三三

平和の福音

行得べき所は力を竭して人々と睦親をせし、我が愛する者よ、其の仇を報るなれ、退きて主の怒を待て、そは録して主の目に給ひけるは仇を復すは我にあり、我必ず之を報くとあればなり、是故に雨の敵若し飢なば之に食はせ、若し渇かば之に飲せよ、雨のくするは熱炭を彼の頭に積むなり、雨の恵に勝るる勿れ、善を以て悪に勝つべし。

羅馬書十二・十八・二十一
是は何も何人とも何人との間に關してはありの教訓ではありませぬ、人と人との關係は總てかくあるべき筈でありまして、人の集合体なる國民と國民との間に關しても適用すべき神の教訓であります。キリストが世に現れ給ひしより千九百年後の今日戦争なる野蛮なる遺風は最早世に存在の理由をもたないものであります。戦争は人を殺す事でありまして「人を殺す者は窮なる生命その衣になし」との使徒ヨハネの言はれを見るよりも明かなる真理であります。

旧約聖書が戦争を是認する故に今日尚之を繼續すべきとの見解は全く聖書の精神を誤解するより来る謬見である。聖書は神の開示の自願を録した書でありまして、其の初より絶對的に神の聖意を顯したるものではありませぬ。神は戦争を是認して是を旧約時代の要約に許し給ふたのでありませぬ「彼らの心の頑硬なるため」に彼らが其の悪なるを覺り得る迄、之は之を黙許し給ふのであり、

（内村全基督時事集より）

ます、故に時至りて彼の愛子をして送り、彼は平和の福音を宣べせ給ふ。

目にて目を償ひ齒にて齒を償へと言へることあるは雨の間の言ひ所なり、然れど我雨に告ぐ悪を敵すること勿れ、人波の右頬を批はば亦他の頬を轉らして之に向けよ、雨を訴へて裏衣を取らんとする者には外服をも亦とらせよ、人、雨は一里の公役を強ひなば之と偕に二里中け雨に求むる者は與へ、倦らんとする者をしりぞくる勿れ。なるべし。

斯う云ふ福音を宣べせ給ひます。我らは今や信仰の忠實に於ては旧約時代のヨシヤやデオレに學ぶべきでありませぬ、然し戦争に就いては少しも彼らに倣ふてはなかりませぬ。戦争を絶對惡事と做す一點に於ても我ら今日の基督教者は是の如くアブラハムやダビデの上に立つ者であります。

其基督教者にして剣を抜いた者も數限りありませぬ、有名なチャールズ大王、三十年戦争の勇者瑞曲王カスターハスアドルハス、英國のクロムエル、米國のワシントン等枚舉に盡かぬありませぬ、それ故に基督教者は申し、斯る篤信のキリスト信者之へ戦争に従事した故に我

を抜いてる宣教師、雨して是一見して其を不きりしく見ゆる申かでありませぬ。

國の爲に戦つたコロムエルは偉人でありました、戦はしめて自己の身を敵に渡し、之を十字架に釘け給ひしキリストは更に偉人でありました。そして私共基督教者はコロムエルを學び、其基督教を學ぶべきであります。戦争はコロムエルの場合でも決して害ではありません。コロムエルの理想は彼が血を流した故に彼の死後四百年後の今日に至るも末をせし行はれませぬ。而已ならざる南阿戦争は亦これなり。

争は於て英國の主戰論者は例をコロムエルに引いて、二十世紀の大恥辱と稱せられる残忍なる南阿戦争をつけました。

武装せる基督教國？ そんな狂物が世に存在しよう筈がありません。武装せるものは基督教國ではありません。武装せる者は強盜であります。基督教國とは預言「サヤの言に従ひ「剣をうちりて」となりし國は其の鎧をうちりて鎧となし國は國に向ひて剣をあげず、戦争の事を再び學ばるる國」國になつてはなりません。聖書に照してみて英國も、米國も佛國も基督教國ではありません。彼らは金箱附の偽善國であります。

人の怒は神の義を行ふ能はず」と聖書に録してあります。惡の手段による目的は達することは出来ませぬ。殺人術を施して永久の平和を計らんとせし事は、以ての外である。平和戦争を發して來ます、武器を擱く事、之が平和の始まりであります。

聖言

また朝には「それまでくして憂る故に、今日は風雨なり」と云ふ。なんぢの空の気色を見分けることを知りて、時の微を見分けることが能はぬ。

太一六・三

聖禮拜

六月十七日
午前九時四十分

人生の三大苦痛」 内藤牧師

○禮拜順序

- 一 奏樂 五十六 會衆
- 一 黙禱 主の祈
- 一 交讀文 一六
- 一 讚美歌 五四 會衆
- 一 聖書 詩篇二三篇
- 一 祈禱
- 一 報告
- 一 讚美歌 五四六(二三) 會衆
- 一 説教
- 一 頌詠 五六八 會衆
- 一 祝禱

○傳道夕禱

午後七時三十分

共勵會

○早天祈禱會

於教會 午前六時

○日曜學校

上級部 午前八時三十分
初級部 午前八時四十分

○聖書研究

二〇一五 午前九時
コリント書研究 鈴木牧師

週間集會

○祈禱會

六月十三日(水) 午後七時半

報告と消息

總會

○規約改正 臨時總會に於て決定せる教會合同に併し規約を左の如く改定した。

第五條 本教會ニ日本語及び英語禮拜所ヲ置ク。

第六條

一 役員 六名ノ役員ヲ本教會ニ於テ選出シ之ニ教役者ヲ加ヘ役員會ヲ組織ス。

役員ニ本員ヲ生ジタル場合役員會ニ於テ其ノ補充選定ヲス。

役員會ハ教會ノ庶務担当ニ任ス。

二 教役者 教役者ハ禮拜、傳道其他必要ナル教務ヲ担当ス。

三 削除

四 委員 教會ニ必要ナル委員ヲ置キ役員及ビ教役者ト協力シ本教會目的達成ニ參與ス。

第七條 削除。

細則 細則 第三條 第六條 第七條 削除。

○新役員 總會に於て選舉の結果左記諸氏が役員に當選せられた。

八木兄 相磯兄 田中兄 大野兄 神石兄 長谷兄

高總會は今後移動して止まる所は局に對する當教會の對策は役員會に一任する事に決した。同時に協議會は廢止になりうした。

時の休徴

英國知名の説教師某今回(前大戦)の歐洲大戦争に際會し、自らの主張の盡く破壊されしを見て呆然焉す所を知らず歎息を發せし曰く「余は今や説教すべし何物をも有せずと、而して此歎息を發せし者は彼一人に止まりずして、英國は於て禾國に於て、又歐洲大陸に於て同一の失望に陥りし思想家宗教家は多數ある事である。現に宗教哲學の權威として世界に名高き英國の「ヒバード」雜誌の如き、戦争開始と同時に原稿の寄達一時に杜絶し、世界の思想家が期せずして言はんと欲する所を失ひしの觀ありたりと云ふ、實に奇異なる現象である。

其の故如何? 何故に世界の思想家が茲に一齊に愕然自失せしめられたるやある乎、云々云々云々。彼らが文明と基督教とを設け居つたやうである。彼らは基督教は文明なりと思つて居つた。西洋文明は基督教の結晶であるもの、故に前者はより後者は証明せられ、後者は前者によりて前者は完成せられものであると思ふ。

(次号より續面へつづく)

○感謝録

- 感謝 南地みい牧師
- 感謝 中川 兄
- 感謝 下久保田 君
- 感謝 匿名氏
- 出所 西川牧師
- 出所 坂本美智子嬢
- 出所 西沢 姉
- 出所 安達徳宝兄
- 出所 松野民子姉
- 出所 本岡一 家
- 出所 武田ローラ君
- 出所 所婦人會(西川牧師一家)

(通報前よりつづき)

て居つた。然るに何を討つて殺し、此思想は小児が積木を以て築き上げたの如く、瞬間にして崩れ壊れてしまふ。『ヒンバード雜誌』記者は彼ら思想家を代表して云ふ「十九百年間の基督教の文明の恩澤を蒙りし此地は今猶地獄である、人類は今猶悪魔である」と、實に驚かす状態である。然れども事實は掩ふべからずである。

然らず、基督教は文明ではない、文明は人か自分の爲に作り出したものであつて、其の大部分は明白に基督教の敵である。見よ基督教を以て日本に於て過去五十年間に於て文明の進歩をせしことと、英國に於て過去に於て、英國に於て最近五十年間に於て文明は暗かに基督教に逆行して進んだ。シヨペンハウエルの哲学、ミチエの哲学、終極狀態、ツエリネの政治學、大海軍、大陸軍、之を總する行政機關等、是等は皆近世文明の主要物として目せらるゝと雖も基督教の敵はあらわれ、之と何等の關係もなすものではない。然り文明は基督教を以て起るものではない。人間は快樂と虚栄と手淫とを追求する所に文明は起るものである。然るに神の道なる基督教と人の道なる文明と同一視せしか故に思想界自下の發見を来しをせざる。

嗚呼米國！基督教文明の最美の産を以て自せられし米國！人類最後の希望を擔ふ國として囑望されし米國！曙の子明星よ汝如何にして天より落ちしや（一）ヤヤ書十四章）人類の希望を數ふがし米國は今や大隱落國である。殺人犯の多きこと米國の如きは無い。ロンドンは人口七百万を有し一年間に百人の殺人犯あるに對し紐育は四百を有して二百人あり、シカゴは三百を有して三百あり、米國全土の一年間の殺人犯は千六百人の多數に達する。

これは目を驚かし居れば其の曰ふ時を知らざるなり。大ニ五・一三

と云ふ、斯くして米國人は今や其の兄弟アベルを殺せしカインの子孫となりつゝある。米國人は其大慈悲を以て語る。彼らは云ふ「今や米國はヤルチー國を養ひつゝあり」と。實に米國は此れに於て一千九百をヤルチーに施した、其の事は美事である。併し乍ら彼ら今日迄は九億の軍需品を交戦國に賣つた。而して又此戦争を利用して何十億と云ふ富を作つた。斯くて彼らは歐洲に於て一人の孤児を養ひつゝある間に數千萬の孤児を作りつゝあるのである。實に立派なる基督教國である。米國は此の大戦争に關して科た

之 國として富利の日にキリストの白前を立つことは出来ず、而して五人の聞く所は軍需品の製造は戦争の、ある大會社の株主の多數は基督教會に教籍を有する立派なる基督教者である。而して誰か知らず日本國教化の爲に米國基督教會が使用する其の傳道金なるもの、ある部分ばかり信者の寄附によるものにして、歐洲に於て予の孤児を養ふ時とを作りつゝある間、彼らが儲けし金なることを。歐洲人の血の代價を以て日本國に傳道すると聞いて我らは戰慄せらるゝと欲するを得ないのである。而も是れ空想にあらざり、立証し得べき事實である。

然らば我らは失望すや否、然らず、人類の希望は文明に於てない、所謂基督教國に於てない、神御自身に於てある。天地は失するところばかりの彼より聖上有に於てある。神は其の手にて造り給ひしものをさかろしめ給はし、此の地と人とは彼が造り給ひしものである。地と人との希望は此一事に在するものである。世界の平和は富家の寄附によりし「平和宮」の建築や、彼の定例國際的教授交換制度と稱する如き小児の遊戯に過ぎざるものによつては来らない。「それ主は號

今と天使の長の聲と神のラッパを以て自ら天より降りん」とある、その時死者は甦り、天國は建設せられ、其の平和は全地に臨み、是は折られ、或事は焚かれ、鐘は打るべし、此を鐘となり、戦争と其の愚敵と止むのである。人類が其の文明を以てなし給はる所を神は其の言を以てなし給ふ。今や人と國に其の希望は盡して神を待ち望むべき時が来る。人の富強は神の機會である、天國は既に近づきりとは今の事である。人の子の兆天に現る。歐洲の戦亂、米國の墮落、是れ曙の前の真暗である。主イエスよ來り給へ。

(内村全書より)

千九百十八年、今より三十年前に内村先生の靈眼に映つた世界、當時第一回世界大戰の只真中であつて世間の暗は地上を被ふて居たのである、南來地上の彈丸はゆる所謂戦争は其の終局を結んだ。併し下り此の歐洲戰の終局を結んだ千九百十八年こそ更により暗黒への出発点であつた事は識者の等しく承認する所である、故に千九百十八年こそ現在今日へ結ぶ年であつたのである。

今日の名實共に聖書教義は事實化して現實の人類はそれを味ひつつあるのである。然るに今日現在人類は何所に居るであらうか、此の點に最もよく覺醒して居るべき基督教徒の現状を注視する時は我ら只恐れを以て聖前には戦々外知なるものである。現在のキリスト教會は其の本質的に基督教を代表せず、聖なるものと世のものと區別は全く見失はれ、して教會は聖なる神よりはなれてしまひ基督教徒の存否は恣意に依然として其の數の多きであるが時は時に暗黒の真中にはある夜明けて失望するや、それは油なを燈をもちて火の燭を燃やす事、氣付けや!! 個人的に、民族的に又國家的に!!

マンザナ基督教會

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO.133
JUNE 28, 1945. MANZANAR, CALIF.

聖三

ああエルサレムよ、エルサレムよ、預言者たちを殺し、道はこれに人々を石にて撃つ者よ、牝鶏のその雛を翼の下に集める如く、我々の子もを巣集めんとせし事幾度や、然れども今は好むがかりき。太きこ

聖日 七月一日
午前九時半
「箱舟のモーセ」 内藤牧師

禮拜順序

- 一 奏樂 五六六 會衆
- 一 頌詩 主の祈 會衆
- 一 文讀文 五 會衆
- 一 讀美歌 二〇〇 會衆
- 一 聖書 出エジプト記二・一・一〇
- 一 祈禱
- 一 報告 五五四 會衆
- 一 讚美歌 五六八 會衆
- 一 頌歌
- 一 禱

傳道夕科

午後七時三十分
共勵會

早天祈禱會

於教會 午前六時

日曜學校

上級部 午前八時半
初級部 午前八時四十分

聖書研究

於二〇一五 午前九時
コリント書解講 鈴木牧師

○キリスト教と愛國心（内村全喜著）

キリスト信者は愛國心がないと云ふ者は間違つて居る。又愛國心は偏狭な心であつて、信者は相成りしめらるるもの人類をそのキリストの心であつて、特別に自分の國を愛するとはふか加ふは、キリストの精神は反之、信者のしてはなれない事と思ふ。今日の信者の秀へ方も間違つて居る。基督信者は愛國心がある。又愛國心は廣いものと狭いものと狭いものとがある。キリスト御自身は強い愛國心があつた。モーセを初めとしてサムエル、ダビデ、サウロ、バネク其他の預言者は一人残らず熱烈なる愛國者であつた。精しく聖を讀み、人々を愛國者たり得ない苦けり。近代人の稱する人類愛……多くともそれのみが、新約聖書の精神である。有る聖書智識の程度は知るべきである。

聖書人物に限りない、此世界にありて大事業をなしたる人の大半は愛國者であつた。ルーテル、カント、スウェーデンボルグ、オランダのクロムエル、ミルトン、米國獨立戦争時代の人物も、悉く熱烈なる愛國者であつた。愛國心を取り除いて此世に貴いものが何が残る乎。若し基督教は愛國心がないと云ふならば、此の教は早く既に消え了つたのである。誠に眞の基督教の起る所は愛國心は起り、又孝な愛國心を以てせずして基督教は解らないのである。

週間集會

○祈禱會

七月四日（水） 午後七時三十分

○報告と消息

青年部は於て七月と協同して所定青年を喜道の目的で社交を兼ねた特別集會は毎火曜日午後七時三十分決定し、此集會には父兄の方々の出席を希望します。場所は十九・十五。

○來信：アリソナ州クレンデルより大山牧師（元スラット自由美ス教會）より御挨拶の手紙が参りました。

○渡辺テル嬢より母様の永眠の際の弔電は對し一家を代表して謝礼が参りました。比皆様によりうしくと。

○出所：内田エルマ君長らく三十三日の日曜學校を指導し青年教會の中心となつて

本在
されし同君は今回メリーランド轉任されしを若し家庭の上は神の祝福福裕なりと事を祈ります。

○島屋一家、宮地、祝部の御事は近々中止出所轉任なさいます故去る二十八日送別祈禱會を致しました。

島屋一家はイレカルウッド、宮地夫人はベスエの自宅に居られます。祝部夫人は東部の家族と一結する意に東行します。三家の上は主にある平安と恩恵を祈ります。

○感謝錄

感謝 親子作を門兄
入營息 瀬野徳松兄
誕生 松場初栄嬢
週報 若谷竜一兄
出所 内田エルマ兄
出校 伊藤政子姉
出所 伊藤政子姉
出所 中浜夫人
ルサレムから合同日曜學校のり同校生徒の献金九千九百九十九圓と不教會の宗教教育費として送金感謝

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO 134
JULY 5, 1945, MANZANAR, CALIF.

聖言

我に大いなる憂あることと心に絶えざる痛あることとを我が良心も聖霊によりて証す。もし我が兄弟我が骨肉の爲にあらんば我自ら諍はれてキリストに棄てりうるも亦願ふ所なり。

聖禮

七月八日
午前九時四十分
酒井牧師

禮拝順序

- 奏樂 五六六 會衆
- 頌詩 五六六 會衆
- 黙禱 主の祈
- 交讀文 六
- 讚美歌 三七〇 會衆
- 聖書 三、一七、二一、二二
- 祈禱
- 報告 一七一 會衆
- 讚美歌 一七一 會衆
- 誦教 五六八 會衆
- 頌詩 五六八 會衆
- 祝禱

傳道夕禱

午後七時三十分
共勵會

早天祈禱會

於教會 午前六時

日曜學校

上級部 午前八時三十分
初級部 午前八時四十分

聖書研究

於二〇一十五 午前九時
コリント書解講 鈴木牧師

子曰く、人の己を知らざるを患ふ其のよくせむるを患へよと(論語)

週間集會

追悼會 於教會

七月六日(金) 午後七時三十分
故有川信雄二週年記念會

祈禱會

七月十日(水) 午後七時三十分
於教會

基督教と愛國心(二) (内村全吉より)

全世界は我が國の爲に存在するものか、我が國こそは世界に霸たる運命を有すると思ひて行動するは誤りたる愛國心である。我が國は世界の爲に存在するもの、之をして其の天職を全ふせしめるは是れ全人類をして神の定め給ひし福祉に入りしむる爲の必要欠くべからざる途である。我は我が國の爲に盡して世界全人類の爲に盡すのである。人類が完全の域に達せりか爲には英國、美國、佛蘭西、獨逸、露、日、牙、葡、葡、牙等悉く必要であるか如く日本、支那、印度等悉く必要である。其の一つと欠けり人類の完全。眞の人類の完全を期する事が出来ず、人に個性が必要である如くは、國民は國民性が必要である。我らに日本人有る。神は日本國を要し給ふ。日本國なくして神の聖旨は地上に行はれぬ。若し日本國が亡ぶる様なことがあれば人類の大不幸であり神御自身の大失望である。神は人の靈魂の滅びん事を欲し給はるか如くは、それよりも遙かに一國の亡ぶ事を欲し給はぬ。日本國の代理を務むる國は他にないものである。それ故に神の爲に世界人類の爲に日本國に盡さなくてはならぬ。

愛國心は又人が自分を救ふ爲に必要である。人は單獨で救はるものではない。彼の屬する家族又は國家又は人類と共に救はるものである。人は個人性と人類性があると同時に又國家性がある。イエスは最良のイスラエル人でありしか故に人類の救主であり給ふのである。我らも亦最良なる日本人たりば吾良なる世界人たり得ぬ。

愛國心を欲せざる人類愛は偽の人類愛と稱せざるを得ぬ。

報告と消息

○葬儀 第九區在住橋本良吉氏三男辰次君入院三週間に於て永眠せられしを。通夜は七月二日夜告別式は三日午後二時第十六區會堂で舉行し了した。寶直な良家庭に育つ辰次青年は徳の高い若人であつた。惜しむべきは稀に見る模範青年であつた。最後の別水と惜む人々は廣い堂に滿ち四十通に近し弔電は同人の徳を物語つて居る。祈遺族慰安

○追悼會 昨年六月六日イタリイ戰線に戦死された有川信雄氏の一週記念會を来る六日(金)午後七時三十分より教會で舉行する事になりしを教員は御臨席下さる様希ひます。○左の方々は出所された神の御祝福と平安のよき祈り事を祈ります。

坂本鐵衛兄姉上(西置寄へ) 川越兄 シカゴ 宮地姉(新墨西哥州) シカゴ

長嶋兄弟及家族 デルバー 島兄弟及一家は羅府に帰られし時別れの歌を…… 天地の萬の物も人の爲に造りし神の愛に任むる世の人の心をなみかく聖書に人の心のめと知るなり世に生るは眞心人にあるは平和の道も求め歩するもの皆は変わり行くものなりと眞事の神はつかりまつり行く道やいふせう雲にやむと正誤し前子の主所考祝部夫とありしは坂夫人(長嶋南全)の誤り

週報
マンザナリ基督教會
一九四五年七月十五日

MANANAI CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO 135
JULY 12, 1945. MANZANAR, CALIF.

聖言

我ちひるの果をくち
り遠きもの近きもの
はる平安をいやん此は工
ホバの御言なり。然らば
水とる悪者は浪をう海
の如し静なる事能は
ずして其水常に濁りと
泥とをせり。
イザヤ五七・二三

聖日 禮拜 七月十五日
午前九時四十分

水と火のバプテスマ 内藤牧師

禮拜順序

- 一 奏樂
- 一 頌詠 五六六 會衆
- 一 黙禱 主の禱
- 一 文讀文 三二
- 一 讚美歌 五四 會衆
- 一 聖書 マテウ三・一二
- 一 祈禱
- 一 報告
- 一 讚美歌 一八〇(三) 會衆
- 一 誦教
- 一 頌詠 五六八 會衆
- 一 祝禱

傳道夕禱

午後七時三十分

基督教信仰

實生 酒井牧師

早天祈禱會

放教會 午前六時

日曜學校

上級部 午前八時三十分
初級部 午前八時四十分

聖書研究

於二〇一五 午前九時
コリント書解講 鈴木牧師

定期役員會 七月十五日(金) 午後二時

週間集會

早天祈禱會

每朝 午前六時

祈禱會

七月十八日(水) 午後七時三十分

平和は何處より

ハバルの塔を築いて諸民族の一致を計りしと云ふ昔の計画
と云ふの相違ないハバルサイユ会議、ワシントン條約、國際聯盟
現在世界的大争闘への入門でないにせよ結局それらハバル
(巴比倫)更に大なる亂れへの階段である事は人の皆知る所
である。然る今又更に大なるハバルの塔を建てる爲に地上は空
して居る事を思ふ時人の間の罪の大なるにはホト／＼呆れおる
得ない。

「エホバは遠く彼らを彼處より全地の表面に散らし給ひかれ彼
等邑を建てる事を罷めり」と、人類が町即ち人為的企劃による
何々會議、何々聯盟等集團を作つて平和を保ちんとするは是
正しく現代のハバルの塔を建てて居るのやあるか、神言に給ふ
「我ら降りて彼處にて彼らの言語を亂し互に言語を通する
ことを得ざらしめむ」と

「眞の平和は罪人等が相聚りて各々自己の都合のよい事を相
集めて高く建て上りハバル塔の如きでない。神を忘れし人
々、國家、民族の集團を即ちハバルの塔である。神に給ふ
のである。人類は平和を望んで止まないが、それかと云つて彼
等は神にやへる事は欲せないのである。

「神御自身の像の如くは人を造り生め繁殖せよ地を満ちよ」と
宣ひし神は人が元來造られ本質からはなれては之を祀り給
は如何に祈るともそれには要すに獨言に過ぎない。平和を求む
る人よ先づ神にやへられ、地の全面を己がものとしようとする
種族から覺醒して造られたる本質、神の御像なる愛、具體的に
へば共存共栄の實生活にやへられ、それが平和そのものである。

報告及消息

有川信雄氏 の追悼會は去る
金曜日八時より教會に於て厳肅
に執行されしを多数参加者のあ
りし事を感謝します。

結語 タミナから來られて
居る井中富士夫氏と石川静香
嬢とは去る七月七日教會に於て目上
の結婚、祈新家庭の御幸福

安達徳實兄 オレゴン州ス
プリングに轉住され同兄弟を
在米通信より喜する。神の御恩
に溢れる生活を送られて居る同兄弟の
上より多く御恩恵の裕なり事を
坂田徳一兄弟 先月貴府に
轉住され同兄弟より貴府の事情
の詳細の通信ありしを皆様の
これこそ喜ばれ又祈禱を祈りますと
因に同兄弟は貴府市外二十五哩所

ニエータウと云ふ所に居るハバルの塔を築いて諸民族の一致を計りしと云ふ昔の計画
と云ふの相違ないハバルサイユ会議、ワシントン條約、國際聯盟
現在世界的大争闘への入門でないにせよ結局結局それらハバル
(巴比倫)更に大なる亂れへの階段である事は人の皆知る所
である。然る今又更に大なるハバルの塔を建てる爲に地上は空
して居る事を思ふ時人の間の罪の大なるにはホト／＼呆れおる
得ない。

平和は何處より

「エホバは遠く彼らを彼處より全地の表面に散らし給ひかれ彼
等邑を建てる事を罷めり」と、人類が町即ち人為的企劃による
何々會議、何々聯盟等集團を作つて平和を保ちんとするは是
正しく現代のハバルの塔を建てて居るのやあるか、神言に給ふ
「我ら降りて彼處にて彼らの言語を亂し互に言語を通する
ことを得ざらしめむ」と

「眞の平和は罪人等が相聚りて各々自己の都合のよい事を相
集めて高く建て上りハバル塔の如きでない。神を忘れし人
々、國家、民族の集團を即ちハバルの塔である。神に給ふ
のである。人類は平和を望んで止まないが、それかと云つて彼
等は神にやへる事は欲せないのである。

「神御自身の像の如くは人を造り生め繁殖せよ地を満ちよ」と
宣ひし神は人が元來造られ本質からはなれては之を祀り給
は如何に祈るともそれには要すに獨言に過ぎない。平和を求む
る人よ先づ神にやへられ、地の全面を己がものとしようとする
種族から覺醒して造られたる本質、神の御像なる愛、具體的に
へば共存共栄の實生活にやへられ、それが平和そのものである。

有川信雄氏 の追悼會は去る
金曜日八時より教會に於て厳肅
に執行されしを多数参加者のあ
りし事を感謝します。

結語 タミナから來られて
居る井中富士夫氏と石川静香
嬢とは去る七月七日教會に於て目上
の結婚、祈新家庭の御幸福

感謝錄

- 三浦夫人
- 増田貞太郎兄
- 田中よし子姉
- 田中名氏
- 無名氏
- 竹田重次君
- 狭間ヨシ子君
- 山本マサ子姉
- 宮地キヨ姉
- 渡辺友一兄
- 有川信雄兄
- 長野實隆兄
- 朝安嘉郎兄姉
- 坂本織荷兄
- 長島長太郎兄
- 無名氏
- 井中富士夫氏

マンザナ基督教會

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO. 136
JULY 19, 1945. MANZANAR, CALIF.

聖言

義をなさる者よ心のうち我が律法をまつわれけり人のそのしりをおそるるなめれ人ののしりには憚くなわれ……わが義はとこしへに存へわが救は萬代に及ぶべし。

聖禮拜

七月二十二日 午前九時四十分
第二次開拓期に於ける
指導精神 幸由牧師

禮拜順序

- 一 奏樂 五十六 會衆
- 一 頌詠 五十六 會衆
- 一 黙祈 主の祈
- 一 交讀文 二二
- 一 讚美歌 五二二 會衆
- 一 聖書
- 一 祈禱
- 一 報告
- 一 讚美歌 三七七 會衆
- 一 説教
- 一 頌詠 五十六 會衆
- 一 祝禱

傳道夕科

午後七時三十分
天野兄

早天祈禱會

午前六時

日曜學校

上級部 午前八時三十分
初級部 午前八時四十分

聖書研究

於二〇一九 午前九時
クリフト書解講 鈴木牧師

週間集會

- 七月二十日(土)
○役員會 於教會 午後二時
- 特別股集會 午後七時半
於教會 講論者 幸由牧師
- 七月二十五日(水)
○祈禱會 午後七時半
於教會
- 早天祈禱會 午前六時
於教會 毎朝午前六時

報告と消息

○幸由牧師 元香港リホムト教會牧師、ホスト基督教會々長、現在エウカリホステン主任
幸由常平牧師及同ホステンの天野支配人及同夫人、及澤夫人は来る七月二十日來所せられます。
土曜日夜は幸由牧師の一晩傳道講演會をして頂て事なつてゐます。尚日曜日の禮拜の御用及夜青年の集會は同牧師の任託しつてゐます。

感謝録

- 感謝 執子作左二門兄
- 感謝 鶴田 氏
- 感謝 無名 氏
- 入 彦 狹間勝次氏
- 出 所 芳地末助兄
- 奉 儀 橋本良吉兄

義は國を高くす

眞の愛國心とは、單に國の爲に白骨を曝さんとする悲壯なる意氣のみではない、又國防の爲に東奔西走粉骨碎身以て邦家を盡すのみでも勿論ない。之等は實に愛國の表現である事は言を要せないのである。けれども更に言ふべきは、愛國の實は救國救民にある。現在の如く利己主義の民が國に満ちてゐて如何にして國が栄え得るであろう。或は一時は栄えるかも知れないけれども、空の空に煙を吐く煙草の煙は過ぎぬ。
「義は國を高くし、罪は民を辱しむ」(箴二四三)と。神の義のある所は眞の意味に於て國が栄え高くせらるゝのである。それ故に「神の事へある國」と民とは滅びその國々は全く荒れ廢るべし(イザヤ二六)である。

人類の歴史は雄辨に物語る。神の義をバビロニア文明、ギリヤ文明は何處に行きしや。彼等の罪其の民を辱めて、ついに滅亡の運命に陥つてしまつた。然して現在今日の神なく神の義なき貪婪なる物質文明は今、明かに墓穴を掘り更に其の次の後大に計画する處に世間は恐るべき更なる高いバベルの塔の建設に腐心して居るのである。
各國は目醒めて自己建設の恐るべき悪夢を捨て神の正義はなうかへり義をもて國を愛し同胞を愛すやうである。我らも「真理の喜ぶ所を喜ぶ」を愛して祖國を熱愛しよう。ここには祖國をしていよく高きらしむる眞の愛國心がある。神の喜ぶ給ふ人愛の心城のことは全山せらるゝのである。

日曜夕科は同行の天野兄の任託しと祈禱を兼ねること
君子は刑を思ひ人は重きを思ふ(論語)

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO 137
JULY 26, 1945. MANZANAR, CALIF.

聖言

それ主の目は義人の上は止まり、その耳は彼らの祈に傾く。され主の御顔は義を行ふ者に向ふ。汝ら若し善の熱心な水は誰の流るを害はん。たとへ義の爲に苦しむるることありとも汝ら安んじ彼らの威嚇を懼るな。又心を堅くすな。三

聖日 七月二十九日
禮拜 午前九時四十分

題末定 ニールン牧師

○禮拜順序

- 一 奏樂
- 一 頌 詠 五六六 會衆
- 一 默 禱 主の祈
- 一 文 讀 文 一
- 一 讚 美 歌 八五 會衆
- 一 聖 書
- 一 祈 禱
- 一 報 告
- 一 讚 美 歌 五三六 會衆
- 一 説 教 詠 五六八 會衆
- 一 祝 禱

○傳道夕禱

午後七時三十分
題末定 ニールン牧師

○早天祈禱會

於教會 午前六時

○日曜學校

上級部 午前八時十分
初級部 午前四時十分

本主由牧師を始めエウリホステルの方々を呼
迎へて、時を與へられ感謝。皆團らんありて
幸由牧師は天野兄を感謝すると同時に祈主の祝福

正義を唱へよ (内村全書より)

吾等が此世に於て正義を唱ふのは其の現世に於て實行
されん事を望むのみではな。我らは此の世は罪惡の世
なるを知る、神の正義を惡む世なるを知る、惡人が跳梁して
義人が迫害せらるる世なるを知る。而かも我らは正義を唱
進して止まらな。

正義は第一は神の正義である。神の正義であるから我ら
は如何なる場合は於ても之を唱へなくてはならな。其の利
害は我等の關する所ではない。神の正義であるから吾等全世
界の抵抗に遭ひても之を唱へなくてはならな。

正義は第二は世をさばくものである。正義の唱進をとし
てせば其目録に犯して、ある罪惡の罪惡なるを知る事か出来
ない。吾等は現世を正義の世とする事は出来な。ある知れな
い、我等知ら我らは神の正義を唱へて世をして其の神は憐れ
有である事を知らしむる事か出来。正義の唱進は世の救済
のものとある、之をなすとして福音を傳播するも無知である。
故に我等は正義を唱へなくてはならな。大膽に之を唱へ
なくてはならな。世の之を容れざるを意とするは足らな。
其の此の世は採用されんが爲に唱ふるのではない、正義なる
が故に其之を審判して遂に之を悔改は導かぬが爲に我等は膽
せず怖れず之を唱ふてゐる。

○聖書研究

於二〇一五 午前九時
コリス書解講 鈴木牧師

週間集會

○追悼會

七月二十八日(土) 午後八時
於(主)教會
故橋本辰次氏追悼會

○祈禱會

八月一日(水) 午後七時三十分
於教會

報告及消息

夏期學校 カーク・主事牧
師主任となりて去る月曜日より開
校した同校は酷暑中にもかかわらず
多数の児童が出席して先生達
は大喜を極めて居ます。
羅府のりはるく、其の爲に來りぬ
て御奉仕下さる フレシス

感謝錄

感謝 妙中 姉
入 長尾 英治兄
訪問記念 幸由牧師

ニールン牧師は来る二十八日は當地に來られ
ます。翌二十九日聖日の朝、二回洋用に着用して頂くと
なつてゐます。

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO 138
AUG. 2, 1945 MANZANAR, CALIF.

聖言

汝らの身は、その内にある神を受けたる聖聖の宮にして、汝らは己の者にあらざるを知らぬか、汝らを價をもて買はれたる者なり。然らばその身をもて神の榮光を顯せ。

コリント 五・一九・三〇

「兄弟の爲に生命を捨つ」内藤牧師
聖禮拝 八月五日 午前九時四十分

禮
拜
順
序

- | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------|--------|-------|-------|-----------------|-----|-----|--------|-----|--------|-----|
| 一奏樂 | 一頌詠五六八 | 一默禱主の祈 | 一文讀文五 | 一讚美歌二 | 一聖書三六
三六書三一六 | 一新禱 | 一報告 | 一讚美歌一一 | 一說教 | 一頌詠五六八 | 一祝禱 |
| | | | | 會衆 | | | | 會衆 | | 會衆 | |

傳道夕科

題末定

於
教會
午前十時

日曜學校

上級部
初級部

午前八時三十分
午前八時五十分

聖書研究

眞に生きる人生

今回の世界大戦前には或大学教授が濠洲に於て彼の地の爲政者教育家学生達に向つて「濠洲の戦生年の目的は何か」と質問した所彼らは一様に「それはエレンボイメント（享樂）である」と答へたと云ふ事である。

之は、單に歐洲の月のみでなく、米國は勿論、戰前の世界の相ひあつたのである。否、現在世界は恐ろしい戰禍の中に於てゐる。人は享樂を遣ひ求めて止まない。それが遠い處に於てゐる。現在戦いの世界に於て……甚かしきは轉機を利用してそれを満たさんとて、無つち意識の中にも計画して居る者もなつてゐない。
 「其の身をまて神の榮光を顯せしと、何なる嚴密なる御言であらう。」「吾備一般の方へは、我々は何を待たなくとも、自分の身だけは間違なく自分自身の所有である」と考へ、氣隨氣儘に己れの欲する儘をして享樂を遣ひ求めて居るが、此の聖書の御言によれば、キリストを信じ其の救ひ與ふる者の身は、實に神より受けたる聖靈の宮にして、自分勝手にする事を許されず、只我らの主たる神の爲にのみ用ゐらるべしである、其の身をまて神の榮光を顯すことこそ我らの地上生活の目的がある。

神の光を顯さん爲——永生——人の爲て止まらぬ永生——不死の生命はこれのみある。是に勝る觀き聞なる人生觀もあり、使命觀があるであらうか。人生の目的は之以外にはあり得ない。

於二〇一五 午前九時
ニリト書解講 鈴木牧師

週間集會

祈禱會

八月八日(水) 午後八時

報告及消息

夏期聖書學校修業式

先月二十三日より開校して居る夏期学校は豫期以上の成功を以て豫定通りの二週間の授業を終へ八月三日（金）に其の修業式と卒業式とを行ふ事となりしを。

幼い児童はそれだけの敬儀で、大
きく者は二十五・二十五で致しま
す。父兄の方々の御出席を希
望致します。

集會時間 打續々酷暑

は午後七時三十分の定刻になつて、屋
内の熱度を引下げてくれませんか
で、此の酷暑が去る迄、夕の集會
は午後八時から始める事になりし

ラエ スナイガー 博士 聖公会

監督の同博士は、教會聯盟日本
人部を代表して來る金曜日（來
所）水八月七日（土）迄御帶左
四日（土）午店七時より九時迄（一
般の御相談に應じます）場所（五）
日曜日朝英語説教
日曜日夕日本語説教
日曜日朝七時より特に聖公會
のうさの爲の聖餐式が十五、十五
に舉行されます。

來信 西川牧師より伊健在

序来信所送の序祝福を祈り
坂本織衛兄姉より感謝と序
安否の序報。尚帰望後の萬
事良好の由祈更に序祝福

感謝錄

武田より
 藤又三郎兄
 島兄 祐
 福元兄
 橋本良吉氏
 龜
 稚実君

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO 139
AUG. 9, 1945. MANZANAR, CALIF.

聖言
終に三言兄弟よ、凡そ眞なること、凡そ等おべこと、凡そ正しきこと、凡そ孝ふこと、凡そ愛すべきこと、凡そ令聞あること、如何なる徳、いかなる譽言にて汝等これを念へ。
ピリピ ミ・ハ

聖禮拜 八月十二日
日 午前九時
入生の試誘 酒井牧師

○禮拜順序

- 一 奏樂 五十六
 - 一 頌詩 五十六
 - 一 黙禱 主の祈
 - 一 交讀文 八
 - 一 讚美歌 八五 會衆
 - 一 聖書 馬太傳 四・五・七
 - 一 祈禱
 - 一 報告
 - 一 讚美歌 五〇六 會衆
 - 一 説教 五十六 會衆
 - 一 頌詩 五十六 會衆
 - 一 祝禱
- 傳道夕拜
於 九・十五 午後七時三十分
共勵會 上田兄

- 早天祈禱會
於 教會 午前六時
- 日曜學校
上級部 午前八時三十分
初級部 午前八時四十分

- 聖書研究
於 二〇一五 午前九時
フリト書解講 鈴木牧師
- 婦人會
於 教會 午後二時
- 週間集會
- 祈禱會
八月十五日(永) 午後七時
於 教會

報告及消息

○青年放會 是今回三十・十五の九・十五に移る事になり、土日の聖日にも同所で禮拜をする事になりまし。九・十五は全建物が教會用になり日曜學校も全部同所で致す事になりまし。

○日曜夕拜 土日、聖日夕拜は十五・十五に差支へありません。故に九・十五を使用する事になりまし。故に左様承知を願ひます。

○武士道と基督教(内村全吉)
基督教は神の道であります。武士道は人の道であります。神の道は完全であつて人の道は不完全である。云ふ迄もありません。そして人の道は神の道に似寄るわけ、それだけ完全なのであります。武士道は日本人の道であります。之を日本道徳と申して間違ないと思ひます。そして我々日本人にとりては實に重い道であります。我々は實に世より重い道であります。若来る時は全かりたる者であるべし」とあります通り、完全なる神の道が現れて不完全なる武士道が磨かれ感嘆せざるを得ず。基督教信者になりて武士道を唱ふるが如き異端の如くに聞えます。

○婦人會 日曜日午後二時より別記の如く婦人會の例會を開き事はなつてゐます。いろいろと人心の動搖する時に當り御婦人方も相集ひ互に文藝を結び見よう將來のより行手を究められん事を望みます。

○來信 先日シカゴに轉任をされた宮地姉より平安看の回報と同時に比自様に在場中の平文壇を謝せる御手紙が参りました。(此の手紙が事務所へ一向に送られて居ることを余が自道徳が感得したる事をお知らせいたします。)

同じくシカゴに行かれた朝賀兄弟より平安看と在場中の謝状の参りました。平西人共御健康であられる由目出度し。西羅存の自宅に居られた長野實澄兄弟より郵重なる御手紙が参りました。右の方々に神の祝福の裕なりん事を祈りませ。

Mr. & Mrs. Miyagi, 3213 W. Jackson Blvd. Chicago
Mr. H. Ooster 1335 Barry Ave. Chicago 13, Ill.
Mr. S. Nagano 1635 Grinnell Ave. Los Angeles 25, Calif.
河原島吉兄の女婿黒川曙男氏は今回除隊帰所せられしを感謝

○感謝錄

- 感謝 姓名氏
感謝 無名氏
誕生 岩田正次
出所 山田左太郎
出所 山崎家
出所 井口家
出所 森兄
除隊感謝 黒川曙男

(裏面へつゞく)

武士道と基督教(内村全集)
曾て来る米國宣教師が武士道は敵打と腹切りとを教ふる道であるといひて、私の行爲を詰つた事がありすやうに、基督教は武士道の敵であるかの様に思ふて居る基督教者の數くないやうであります。

然し乍ら私はそうは思ひませぬ。私は武士道は神が日本人に賜ひし貴き光であると信じます。縦し夜を司る光のなる光であつて、晝を司る大なる光でないにしては、貴き感謝して受くべき光たるを失ひます。武士道は腹切と敵打ちばかりでありません。その中に基督教に似寄りたる多くの教があります。私は日本人が初めて基督教に接して強く之に引かざる理由は茲にありす。基督教は日本人の心に強く訴ふる所があるからであります。多くの点に於てイエスと其の弟子とを武士の模範として見ることに出来るやうであります。日本人も亦神の造りたる者、其の意味は於て神の子であります。そして神は自らを証し給はつたことなり」とあります通りは彼は我ら日本人にも御自身を證し給ふて、其の光の一部分を示し給ひました。私は信じます。武士道は神が日本人に賜ひたる最大の賜物であつて是がある間は日本は栄え、之がなくなると日本は七部のひまると。

武士道は正直を重じます。眞の日本人の婦人ものはして詐欺陰険の如きはありせん。日本人は右のパウロの言を讀んで強く共鳴せざるを得ません。

抑つて隠れる事を求めて、詭譎を行はす。神の道を混ぜず、眞理を顯はして神の前に己れを凡ての人の良心に質す

なり(コリント後四・二)

と、公明正大と云ふは此事であります。そして凡ての預言者凡ての使徒が然らざるはなしであります。聖書は何であつて、何でなくては誠實の書であります。之は、抑つて隠れる事を謀計とすとする所は、此にもありません。モーセを始めとしてイサヤ、エレミヤ、エゼキヤ、ミカエル、アモス、イエスは勿論のことパウロ、ヨハネ、ヤコブ何れも特に正直の人でありました。彼らに方便又は策畧は塵程もありません。彼らは此の世の俗人輩が堪へられぬまでは透明正直でありました。故に若し日本人が正直を愛するなれば彼らは基督教の聖書を學ぶべきであります。日本の國學者が全体に佛教を嫌ひし理由は、その説く所が率直を欠き人を悟覺に導く爲に多くの如何はしき方法即ち方便によつたからである。作らば基督教には之がありません。ナリストの教訓は雷つてエヴルトが云ひし如くに「地より湧き出たる水晶の如き泉の水」であります。之に接して私共は何の説明も要すして、直ちに其の宇宙の大眞理なるを知るのであります。

武士道と云へば直ちに勇氣を思はせられます。乃木大将、東郷大将、其他如く國古今の歴史を飾る勇士烈婦の行爲は國の礎又民の誇りであります。日本人は義の爲には死を恐れませぬ。日本人が賤むるのにして鬼怪の如きはあります。義を説くところは勇氣なる也であります。亦總義士四十七人の行績が永久に稱へらるるは彼らに此勇氣があつたからであります。

あります。そして是に對して基督教は何を教へますか。基督教は愛を説くが故に勇氣は欠けたる女々しい教であると多くの人は思ひます。然し乍ら深く聖書の泉に眞理の水を汲む者は決してそんな方を懷きません。世に若し女性的基督教がありすならば、之に對して眞の性的基督教があります。救主イエスは基督教は單に罪人を憐み罪は盡く之を見逃して、之を單に彼らを清度せんと欲する様な、そんな軟弱な人ではあります。

「イエス、エムサレムの上り神殿にて牛手鴿を賣る者と面替する者の坐せるを見れば、繩をて鞭を作り彼ら及牛手を神殿より逐ひ出し、面替する者の金を破し、其の台を倒し、鴿を賣る者は云ひけるは、此物を取りて往け、我が父の家を賣賣の家とする勿れ。約二・一三六と。是は優しいイエス様でなく、怖ろしいイエス様であります。イエス様は阿彌陀様とは異ひます。彼は所謂「小羊の憤怒」があります。彼は義の爲に神殿を穿たるに力つて人の面を懼れせんむした。イエスは又傳道の首途に於てナサレの村の人々に迫害せられし時に、手向ひもせず逃がらせず「イエス彼らの中を通過し去りぬ」とあります。悠然として荒れ狂ふ敵の中を通り過して去りしとの事があります。

是は關ヶ原の戦争に於て西軍の島津兵庫頭が取つた道でありまして武士として最も勇敢なる行爲であります。其他福音書に現れるイエスの行爲を調べてみまして彼が死を懼れ人を畏れな場合に一見當ります。只人が彼の勇の氣に氣付かざる理由は、彼が愛の人であつて自ら剣をとつて人に向ひ、敵を襲して自己を救ひし例が一とないからである。(つづく)

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO.140
AUG. 16, 1945. MANZANAR, CALIF.

聖言
身を殺して靈魂を救
し得め者ともを憐る
な、身と靈魂とをサ
ヘナにて滅し得る者
をおそれよ。
太一・二八

聖日 八月十九日
日禮 午前九時聖餐
死者に死者を
葬らせよ内藤牧師

- 禮拜順序
- 一 奏樂 五六六 會衆
 - 一 頌詠 主の祈 五六六 會衆
 - 一 黙禱 三
 - 一 交讀文 三四 會衆
 - 一 讚美歌 五七六二
 - 一 聖書 ルカ傳九・五七六二
 - 一 祈禱
 - 一 報告
 - 一 讚美歌 一二〇 會衆
 - 一 説教
 - 一 頌詠 五六八 會衆
 - 一 祝禱

傳道夕拜 午後八時
民族の苦惱と
新世紀への犠牲 酒井牧師

苦惱 我らは今民族的大いなる苦惱にぶつつけられ。神の聖言は何れにあるや。新しい世界の誕生の爲に此苦惱が與へられるとすれば貴い。我らはいかにして共存共栄の世界を生み出さなくてはならない。それは神の聖言であるからである。

- 聖日 八月十九日
早天祈禱 午前六時
日曜學校 午前八時
上級部 午前八時三十分
初級部 午前八時四十分
聖書研究 午前九時
於二〇一五 午前九時
カラテヤ書解講 鈴木牧師
禮拜 午前九時聖餐
教會 午後八時
傳道夕拜
教會 午後八時
週間集會
役員會
於 教會事務所
八月十八日(土) 午後二時
祈禱會
八月二十二日(水) 午後八時

神められし天國 かの皇國は實に地にありて、既に天のものであり、天のもので地に轉回してある國である。ここに國体の天的特質がある。神武天皇が橿原に皇都を建つる御詔にも「上は乾天、國を授くるの徳に答へ、下は皇孫正を養ふ心を弘め」と宣ひました。即ち、日本皇國は天地乾坤の神靈から聖旨をなせよと授けられ、國なるが故に、神意をこそ成就する爲に國を治むべきであつて、夢にも我然に捕へられ、國の神靈を汚してはならない。神の義と神の愛の實現是が徳であり、是が建國の使命である。

又神武天皇四年二月の御詔には「我が皇祖の靈、天より降りて朕が躬を光賜ひ給へり」と詔し給ふ。肇國の太初より神靈の降臨し給ふて神武天皇の御身を光にす、み照し給ふ。實に神の聖靈の如く、又太陽の光の如く照し給ふ。神自らを選び給ひし聖者はあらわれ降臨し難之賜の如く聖靈する日光の如く神の光、この光が既に建國の大初より日本と偕にあり、而も御詔勅を通して國民に臨み給ふ事は只御後威による處と拜する次第である。

斯く肇國の歴史は鑑みるも、皇國が神の國完成の爲に豫め定められたる神國である事實が明かされる。神の國は遠く未來にあるのではなく我が皇國に臨み給ふる實である。――(東光より)

以上の如く祖國なるが故に陛下は此度國を犠牲にして道を擁護し給ふ事を祈禱する。やがて全世界と共に復の春を迎へて下さる。

- 報告と消息
青年牧師カーク氏は誠に忠實に青年の爲に御勵ま下の事を感謝します。最も困難な日曜學校の爲に特に御努力下さい。本日下は日曜學校教師養成力を注いで下さつて下さる。
- 移動先日曜學校 所内の西方區域から移動者左記日曜學校の中便利な所へあつて下さい。
九一五、五五五、九九五、三三三
出所 瀬野家及祝部姉は近々中に出所されるので日曜夕拜前(七時半)に送別祈禱會を致します。
- 本田一家、井口一家は先週出所されました。井口家の上は主の手祝福の祈りなことを。
- 感謝録
週報 藤井福美元
週報 錫田康太郎兄
結 曾 木村嘉太兄
出所 井上ウナ子兄
出所 本田直記兄
出所 本田直記兄

聖言

主は我らの爲に生命を
捨て給へり、之によりて
愛といふことを知りな
り、我らも亦兄弟の爲
に生命を捨てべきなり。
我らに對する神の愛を
我ら既に知り、かつ信ず
る神は愛なり、愛は居る
者は神は居り、神も亦
彼に居給ふ。 約一・三・六
四・二六

聖
禮
拜

「十字架上のイエスと
大和民族の直面せる現実」

酒井牧師

○禮拜順序

- | | | | | | | | | | | | |
|----|-----|-----|-----|------|----------|----|----|------|----|--------|-----|
| 一奏 | 一頌 | 一默 | 一交讀 | 一讚美歌 | 一聖 | 一祈 | 一報 | 一讚美歌 | 一說 | 一讚美歌 | 一祝禱 |
| 樂 | 詠 | 禱 | 文 | 八五 | 書 | 禱 | 告 | 一ニセ | 敏 | 三二五(三) | 會衆 |
| | 五六六 | 主の祈 | 三五 | | ビリヒ書ニ・五一 | | | | | | |
| | | | | 會衆 | | | | 會衆 | | | |

○傳直夕拜

共勵會

○早天祈禱會

於教會
午前十時

○日曜學校

初級部	午前八時四十分
上級部	午前八時三十分

○聖書研究

二〇一五 午前九時
カウテヤ書講解 鈴木牧師

○週間集會

八月二十九日(水) 午後八時

○報告及消息

○臨時總會 いよくせむ
一閉鎖期日も決定せるに鑑み
教会の將來も具體的の處置
をとつて置く事の必要を感じ
來る九月二日(日)午後二時教
会に於て臨時總會を開く事に

愛に三つの區別がある。

徳の愛 第三は魂の愛である。 肉体愛は云々迄ではなく肉慾と物慾、自我慾の斐兩路であり、死や妬み其他も自我慾の產物である。 倫理道德の愛は人の價值は對する愛を著すである。 魂の愛は肉の自我慾をなく價值は對するものもなく純心の母心の愛である。 この母心は無限價值なる中から愛の新生命が創造せられる。 肉体愛や價值は對する愛は秋の空の様に変つて、對手が自今の有にならなくては満足の出来ぬ醜い愛である。 魂の愛は肉体愛や價值愛が秋空であるに引き換へて太陽の如く暖い変らざる愛である。 自今の所有とせんとする代りに却つて自己を投げ出し犠牲になつても對手を生かさんとする愛である。

此の犠牲的愛のある所は暗黒は光明に代り、死は生に、悲歎は希望に変るのである。 この愛はどんな悪人をも赦し身代りとなり他を生かそうとする赦罪と救の恩寵が先在してゐる。 此の大愛の完全なる顯現がイエスキリストである。

曰本民族は不完全なる此魂に生るる民族である。忠孝の道がそれである。武士道は其の進化であり、皇道は其の根心である。此度の戦争終結の爲に陛下のとりられた道は實に皇道の發動であり天地の救の神の大愛の地上顯現であると信する。實に國家と自己を犠牲にして多く類を滅亡に導く救人的大罪より救はんとする魂愛即ち父神の愛の序顯現であると信する。

役員會で決定しました。

○臨時總會で決定した教会へ
提供して下さつたピアノ、チェアに
對する謝禮と運搬費は左記の
如く決定しました。

ヒアノは一白に對して五巾
チエアル西羅府敎會 七十巾
クレカテール四十五巾 サタモロニホ
右運搬費 百七十五巾
獨損害及び粉失に對しては辨償
せむること決定

○青年指値の急所持してゐて

曰くを最終として桑港に帰帰
りになる事になり、曰く曜曰く夜は青
年部主僮で九一五で送別会を
致す事になりました。

出所轉任 左記の方々は此出

所轉住されましに、主の守護りと
御祝福の格にあらん事を祈りま
す
齋藤のぶと姉 二十日 ニヨルク
頼野徳徳一家 二十日 ムザ
佐藤のぶと姉 二十日 ムタ
村上のぶと姉 二十日 シカ
肥田牧師夫人 二十五日 シカ
○來信 先日西郷府に帰られ
本田直記兄弟より序文有感と共

○感
謝
錄

南の方の所祝福の行末信
 テレウアトは居られる平見兄はよく
 手健在にて今回左記の所にホテル業
 を再開業の旨手来信は自原にようこそ
 Marrose Hotel 908 18th St.
 Denver 2, Colorado.

武士道と基督教 (内村全編)

(國語第三十九號)

誠にイエスの特殊の勇氣は彼が全熟獨り立つて、身は寸鉄を帯びずして獨り敵に對して事に於てありす。此は非常なる勇氣にあり、此は爲す能はざる所でありまして、此は於て此世の勇者の何人もイエスに及ばないのであります。そしてイエスに限りませぬ、聖書が示す所の神の人は凡て此種の勇者であつたのであります。ヘブライ書十一章の示す信仰の勇者は凡て單獨の勇者でありまして、彼らは何れも隊を組み、同僚の士氣に勵まされて敵に向つて進むはありせん。只一人眞理と正義の爲に大敵を前にして身を其懷念に曝しを有てありまして、武士道と基督教と較べて勇氣があつたとなつたところの相違はあります。

基督教の供する勇氣は武士道の供する勇氣に遙かに優つてゐるものであります。そして其の勇氣が傳つて今やアムゼン翁の極地探見又は我が野口英世博士の黄熱病の源の研究に現れたのであります。日本人は正義と眞理との爲には生命を惜まざるの精神がであります。此精神を以て基督教に接して、我々は其の模範の精神に共鳴せざるを得ないのであります。若し偏見を去り悪名を忘れて日本武士が基督教に對する勇氣は、彼らは自づから之を幸ひてイエスの忠實なる僕となりたるを得ないのであります。そして明治の初年に當つて多くの日本武士が此精神に由りて基督教者になつたのであります。澤山保羅、新島襄、本多庸一、本村熊三、横井時雄等は凡て純然たる日本武士であります。彼等はイエスの武士氣質に牽かれて其の従徒となつたのであります。教義や信仰箇

條は彼等にとり後の問題でありまして、彼らは何れも先づイエスの武士らしい人格に憧れ、此のありまして、私は信います。イエスかタルソのパウロを弟子として持ち給ひし以來、以上の日本武士の如き強固にして武俠的なる弟子を持ち給ひし事は無いと信じます。日本武士は最上の基督教者を作るとは世界の公評であると思ひます。

武士は恥を重むる。四十士の一人間先延の辭世の歌は曰く

都鳥いさこと問ひは武士の

恥ある身とは知るや知らずと、恥を取りんよりは寧ろ死ぬるに若かずとは武士の精神であります。そしてイエスの最大の弟子のパウロは曰ひます。

我が誇る所を人に虚くせられんよりは寧ろ死ぬるは我にふき事なり、コレト前九十一

とパウロも亦、恥よりも死を擇びました。彼は高貴なる理由なくして何人にも頭を下がすせんとした。彼は日本武士に對するユダヤ武士のありま

を。武士は遁ひる敵を逐ひませぬ。敵の弱きに乘じて之を攻めすせん。戦ひざるを得ない場合には正々堂々と戦ひます。上杉謙信が武田信玄と争ふに當つて敵國の邊を供給せしは克く知れ渡りたる事實であります。歐洲大戦争の時に、所謂基督教國が相互に敵の糧道を断ち、甚るしきに至つては小児に供給する牛乳までも断たんとせし如き道々武士の爲んと欲して爲す能はざる所であります。武士道は基督教の福音の如く敵を愛するまでに至りますせんか、敵を敬ひ、其正

當の立場を重むります。武士道の精神を以てして基督教界に於て往々見るか如き論争確執は到底之をなし得ませぬ。

「基督教者は全能なる神の紳士である」と云ふは對して「武士は日本特有の紳士である」と云ひ得ると信じます。

私共日本の基督教者の日常の生涯に於て私供は大抵の場合に於て聖堂の行く迄もなく私共の祖先傳來の武士道によりて私共の行路を定めて間違ないと思ひます。正義正道を歩む上は於て義務責任を充す上は於て、公明正大な点に於て、弱者を憐れむ事に於て武士道の命ある所は基督教の教ふる所と多く異なりませぬ。そして基督教者なりと稱する人々が往々にして其のなす所が武士道以下であるを見て、私は時々基督教者は對しても亦武士道教の必要あるを感じます。近頃の事でありました、靜岡縣の基督教者が私は長文の手紙を送りて彼の教會關係に就て如何に自ら處して宜きやと私の意見を問ひました。私は其の返りに入りたる事情を知るに苦しみましたから只ハカサを以て一言々答へました。「日本人の武士道によつてみればな」と、彼は之に對して直ちに答へて來ました。「お端書正に拝見懽懽に堪へません直ちに其通りに決めました」と私は常々思ひます、私供が聞く多くの教會問題は此方法に由り解決すべきである。終

武士道は日本人にとっては本質的に旧約であります。と云ふのは武士道は我々日本人の血であるに對して旧約聖書は教典であつて生命にはなつてゐません。例へば「汝の父母を敬へ」と云ふよりも「親を行ふをせよ」と云ふ方が生々しく胸に迫るものである。日本精神の親行はキリストの生命が加へられ所は完全な親行であります。

聖言

地も憐るるのれ喜び
樂めエホバ大いなる
事を行ひ給ふなり、
野の獸も憐るるのれ
のれ野の牧草はるる
出で水は果を結ひ無
花果樹はその力を
おすなり。
ヨハネ書二・二・一二

聖日禮拜 九月二日
午前九時四十分
「神のメカニズム」 内藤牧師

○禮拜順序

- 奏樂 五十六 會衆
- 頌詩 主の祈 八
- 交讀文 二〇〇 會衆
- 讚美歌 二〇〇 會衆
- 聖書 三二五書一・一・一二
- 祈禱
- 報告 五十六 會衆
- 讚美歌 五十六 會衆
- 頌詩 五十六 會衆
- 祝禱

傳道夕科

午後七時三十分
特別祈禱會

○早天祈禱會

於教會 午前六時

○日曜學校

初級部 午前八時五十分
九一五・一九一五・二二一五
上級部 一九一五 午前九時三十分

○聖書研究

二〇・一五 午前九時

かうて書解講 鈴木牧師
○臨時總會
於教會 午後二時

週間集會

○早天祈禱會
於教會 午前六時

○特別祈禱會(爲祖國)
毎夕(水曜を除く) 午後七時三十分

○祈禱會
九月五日(水) 午後七時三十分

日本民族は今や世界戦亂の終局を結ぶに當り三千年の間保つて來た國家の將來に關する大問題に逢着して殆ど其のなす所を知らざるが如き状態に陥れられた。俗言で云へば今日本民族は「神も佛もない」といふ状態にあり多くの人はそい言つて悲憤精神の叫びを發して居る。

果して神なきか? 然らず! 心の波を靜めて細いが鳴り響く靈聲は「汝何所に居るか」(創三・九)と全世界人類に呼びかけて居る。聖なる聲が響き渡つて來る。人類は今や神の定め給へる嚴然たる神と人との境線を超えて神の義と愛に向つて大なる反逆をなし、アダムによりて犯された人種の原罪が今完全に地上に具現し人は神のある事へも悟り得ざる程神より遠くはなれてしまつた。之を代表せる者は國としては未國であらう、因へとして全世界の神なしと信ぜざる者のうちであらう。

民族の暗黒に閉ぢ込められて居る同胞よ目をあけて上を見よ。東天は時にしりうつゝある、密雲の上は輝く青空である。全人類が末を看み歩む事未だありて残され新入未踏の奥底裡に光明はわすれぬ認められぬ。實に暗黒こそはやかて東天に差し出かる太陽のある証である。物質文明は人が原子彈の如き物を造りて之を殺人用として使用するに至りて最早文明の破壊者であり暗黒の源である。眞の光は眞實に神を求め来る者の奥底裡に輝いてくる。暗黒を燈る同胞よ圓圓の暗を見ず、上天に輝く光に目をつけて前人未踏の頂峰として上り行つて

報告と消息

○總會センターの閉鎖に伴ふ諸々の最後の決定の必要上日曜午後二時最後の總會を開きます。皆様是非所末席下さい。
○時間変更 諸君の爲に一時変更されて居ります夕刻集會の時間午後七時三十分は致しませぬ
日曜學校閉鎖 二七・一五と

三十二・一五の日曜學校は閉鎖しました。三十二・一五の生徒は十五・一五へ併合、二七・一五の生徒は九・一五・一九・一五・三二・一五の何れか便利な所へ出席して下さい。

○特別祈禱會 祖國の現状及時來の爲に特別祈禱會を開いて居ります。都合の出来る方は是非御來禱下さい。午後七時半より八時

○來信 テレカル ウードは居られな島兄弟より附礼と又皆様はよろしく。シカゴはなごりようし山田一家より平安喜喜皆様のよ

○感謝録

ボストンの新聖牧師より國報を所礼と皆様はよろしく、因に同師は最近迄キャンプに止まる由(國報には載りません)
感謝 村上とる姉
感謝 仲田久常兄
感謝 無名氏
週報 坂田徳一兄
出所 仲田のま子姉

聖言

これは一つの谷によ
りて罪を定むる事の
凡ての人々及びしこ
とく、一つの正しき
行爲によりて義とせ
られ、生命を得るに
至ること凡ての人
は及べり。

ロー書五・一八

聖禮拜 九月十六日
午前九時聖言

「審判が滅亡か」 酒井牧師

○禮拜式順序

- 美樂 頌 五六六 會衆
- 默禱 主の祈
- 交讀文五
- 讚美歌 五四 會衆
- 聖書 ロマ書二・七以下
- 祈禱
- 報告
- 讚美歌 五五〇 會衆
- 説教 五六八 會衆
- 頌 禱

○傳道夕科

午後七時三十分

題未定 内藤牧師

○早元祈禱會

午前六時

○日曜學子校

午前八時三十分

初級部 於 九・一五・二五・三三・五五

上級部 於 一五・一五

○聖書研究

二〇一五 午前九時
カウテヤ書解講 鈴木牧師

週間集會

○早元祈禱會

於 教會 毎日 午前六時

○祈禱會

九月十九日(水) 午後七時三十分
於 教會

基督の地上顯現 即ちナザレ人イエスの御誕生より十字架の御苦しみと其の死と復活の榮光と 昇天後遂に聖靈の降臨となりて神々の中位に給ふ福音時代となつた。爾來千九百年の間人類は如何なる歴史を地上に書き又人の肉體に記したか? 事實は猶依然として律法時代である。福音の言は全世界に言ひ傳へられた、けれ共此言は一服福音信徒は受肉して居ない、只古の預言者の如く極めて少數の人々によりて代表せられて居るのみであつて、其の神學は福音を説明する一種の預言以上の何ものもない現状である。

然ればこそ、世界中で最も福音的と思はれ又信頼される米國の教會の才能と米國民の動行は、少くとも國家としての彼らの行動は主イエスを十字架につけて喜ぶ驕りをバリサリ、サドウィの黨及び無智の群衆と何ぞ選ぶ所は無い、彼らは人のつなすやかりざる事を國家的に承認し個人的にそれを裏書きして之を正しと認めて居るのである。が聖書は明かに言ひ、「二人の谷によりて罪を定むる事の凡ての人には及ぶ」と。今回國家として米國の用ひし原子彈は、米國及其國民が如何なる辨解を試むるとも神の律法により之を義とせられ得ないであろう。人倫に基き彼ら自らか定めたる國際法を破らざるを得るであろうか?

何人の上にはなつ國家の一つか、ある罪惡犯した事は世界の各國家は最早云ひのかれる道はない。今や全世界の國家民族は、即ち全人類は具體的に――救の光に承るが然らざるは亡びである。

報告及消息

○總會決議事項――セントローレンスに伴ふ教會最後の決定の必要が迫られて去る日曜日下午後四時總會を開議し左の通決議案を決定した。

一來十月十五日を期し團體教會を解散する事。

一同日を期し會計の精算をなす最後の處分をなす事。

一教會の備用品は直ちに所有

主に返還する事

高岡信一 辭職後と雖も禮拜其他の集會に申込まなく其他教會の諸奉仕及事務に従前通りでありまう。解散後の事務萬事は有志により適宜の處置をとるとして決定。

○來信――デレウアに轉住された瀧野徳和兄南上家より御心を告げ知らせ、祈内任在中の皆様の厚志と御し皆様に宜敷くと
Mr. T. Seno, 2500 Curtis St.
Denver, Colorado.

○感謝錄

- 感謝 執子佐左門兄
- 感謝 清水チカ子姉
- 感謝 門田和子嬢
- 感謝 青木ルン嬢
- 感謝 田端夫人
- 感謝 梶井しむ姉
- 感謝 大滝光藏兄

週報 第四百五十五號
マンザナール基督教會
一九四五年九月十九日

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY PUBLICATION
SEPT 19 1945. MANZANAR, CALIF.

聖言

あゝ神の智慧と知識との富は深いか、その富を測り難く、その途は身が難く、だんかたの心と知り、誰かその識士となりし。
ロマ書十一章三二

聖日禮拜

九月二十三日
午前九時四十分
午後二時

人生と宗教
内藤牧師

○禮拜式順序

- 一 奏樂 五六六 会衆
- 一 頌詠 主の祈 廿四
- 一 黙禱 文 二七九
- 一 讚美歌 二七九
- 一 聖書 ヨハネ傳十四・一・一二
- 一 祈禱
- 一 報告 五二九 会衆
- 一 讚美歌 五二九
- 一 説教 五二九
- 一 頌詠 五二九 会衆
- 一 祝禱

○傳道夕拜

午後七時三十分

共勵會

○早天祈禱會

於教會 午前八時

○日曜學校

初級部 午前八時五十分
於九・一五・一九・二五・三・五

上級部 午前八時三十分
於 一五・一五

○聖言研究

於二・一五 午前九時
ガラテヤ書解讀 鈴木牧師

週間集會

○早天祈禱會
於教會 毎日 午前六時

○祈禱會

九月二十日(水) 午後七時三十分
於教會

○追悼會

九月二十日(金) 午後七時三十分
於教會
故奥ツルマ夫人一週年記念

消息

加利エルセリトにて御活動中の田部太郎兄、ボストンの有田孝雄、ミネソタの大澤亮吉兄と、それ、感謝の献げものと共に我等の群に祝福あるようとした。有田孝雄の佳信をいたした。有田孝雄は南加州のチノへ大遷元はミナモトスへ御轉任の由、諸兄弟へ天恩豊かに願ふことと。

才子元來多過事、議論畢見世無功、誰知黙不言理、山是青々花是紅、西郷隆盛

S・A生

西に猶太あり東に日本あり。アブラハムと神、武各々祖たり。モーゼの十誡と、聖徳の十七憲法と相對す。一日、獨一の眞神を奉じ、他は、和を以て貴とし、をなし、怖ふなき宗とす」と説く。ダビデと桓武。ソロモンの榮華と藤原源平の花鳥風月。斯くて兩者共に南北兩朝の争ひあり、ダビデの聖座、藤原に在り、武門武士の横暴、其極に達す。此の間、ありて、猶太には多くの預言者起り、ソニヤの理想を説き、神國の福音を宣揚し、日本には多くの忠臣義士現はれて、皇室中心、天下太平の大義を高揚したり。其結果、猶太にはエズラ、ネヘミヤの復古あり、日本には明治維新ありて國光宇内燦々たり。

然るに悲哉。一方にはベルシヤ、ギリシヤ、ロマの大國起りて、遂にダビデの位を亡ぼし、其民族を世界全面に離散せしめたり。此時に當り、預言者の言に照應し、救世主として生れたるイエス・キリストとなす。其教に従ひ救はれたるものは、遂に基督教會を組織し、世に人々に其の福祉を施しつゝあるに反し、イエスは十字架に懸け、金權に固執したるものは、世界至る所に迫害されつゝあるなり。日本は今回の世界大戦に於て、猶太國家の末路に似たる運命に陥りしが、平和の君、イエスの再臨とも言ふべき仁君現はれ、世界平和の爲め二千六百年間の國威榮名を擡ちたり。

日本民族たるものは此國粹榮耀の大義に感憤し、之を世界に普及せしむべきにあらずや。徳川三百年の社神を棄て、引續き三百諸侯の秘録奉還となり、武士の九體となれり。今回の日本兵備全廢は遂に世界万邦の兵備撤廢を招致せしや。祈つて後つべきなり。

感謝錄

出所 徳島 仲田久常兄
波田 有田芳野姉

主の愛を以て現はれ、涙湧く、結露の谷に叫ぶ靈魂、馬車血のしたるよ、絶え間なく、世を這うるほ世を這うる、火の柱雲の柱のくしきわがわが同胞のよ、とあかし

これは、著しき香にして神の言、け給ふ所、喜ばたふ所の供物を、ヒリ。書田・一八

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO. 46
SEPT 26 1945 MANZANAR, CALIF

聖言
何事をも思ひ煩ふな
たゞ心に祈をな
し顔をなし感謝して
汝らの心を神に告げ
よ、さうば凡ての人の思
にすぐる神の平安は汝
らの心と思ふをキリスト
イエスによつて守らん
ヨハネ書四・六・七

聖禮 九月三十日
午後七時三十分
安部牧師
汝は富める者なり

- 禮拝式順序
- 一 奏樂 五六六 會衆
 - 二 黙禱 主の祈 一六(詩四) 會衆
 - 三 讚美歌 八二 會衆
 - 四 聖書 默示録二・八・一二
 - 五 報禱 告 一四九 會衆
 - 六 讚美歌 一四九 會衆
 - 七 説教 五八八 會衆
 - 八 頌禱 五八八 會衆
 - 九 祝禱 五八八 會衆

○傳道夕拜
午後七時三十分
安部牧師

○早天祈禱會
於教會 午前六時

○日曜學校
初級部 午前八時
於 九・五・一五・三・五
上級部 午前八時三十分
於 一五・一五

○聖書研究
二〇・一五 午前九時
ガラテヤ書講解 鈴木牧師

週間集會
○早天祈禱會
於教會 午前六時

○祈禱會
十月三日(水) 午後七時三十分
於教會

我と我家とは共にエホバに事へん。人類の此世に産れ出づるや始めて大なる泉となつて世界を潤はしめ、最も貴重なる場所となつたのであります。昔から凡て人生の最も楽しい幸福は家庭の關係を借りて之を達せしめてあります。例へば多くの學生が寄宿舎に集つて朝夕睦み親んで居る有様を見て兄弟の如く又姉妹の如しと云い又師弟の間故郷の情懷に嘆息するときは恰も父子の如しと云い、異性の友人間の親しさは夫婦の如しと云ふのである。試みに人生に於て家庭ほど楽しい所はありません。地上の眞善美は最もよく此所に實現せられて居るのである。さうば天上界の美を形容するに何とてすべし。かの日里辰では到底出する事がない。然し最もよく之を説明する事の出来るのは家庭である。天の神は何んと言はれりか、父である。吾人が宗教上最も濃やかなる感情を現せば親と言ふの外はない。信者の最も幸福にして平和なる心のささきと神の子と言ふのである。約翰は「なんぢら心に喜ぶもこゝれ神を信じ又親を信ぜしむ。わが父の家には住居をおぼし」と言ひてある。げに天國は一大家族である。然らば吾人にとって最も神聖にして善美なる処は天と地とに於て家庭の外にないのである。故に家庭と宗教とは、最も大事な事の出来なない關係を有して居る。よし人類社會から宗教が取除かれたら家庭の内には宗教が起る。教堂は毀れた儀式は廢せられあらゆる信條は破れる。この家庭には宗教が依然として存するのである。基督教の起源を尋ねて見れば、アラハムとセウ、此の二婦が相俣に至誠を盡して神を拜して居た。その家庭の宗教から流れを發して居るのである。一家庭の宗教が如何に大なる影響をも世界に及ぼすかは奇蹟に驚くべきものである。

内藤牧師

○消息
○追悼會・昨午ハートマンテンにて早天せられた奥鶴松夫人の一週年記念は去月廿一日午後七時半より會堂に持たれ祈禱の儀も多くの参集あり内藤牧師により嚴肅に舉行さる。

○安部瀨田兄弟は二十二日西羅府へ宮地兄は二十三日シカゴへ向け轉任。主の御加護を祈る。

○奈信坂本儀助兄弟は去月八月廿九日バサデナより西羅府の舊宅に歸られ御恩寵の下に健在に會謁兄弟によりしと。

Willie Sakamoto
1640 Dumb Ave, W.L.A. 83, Calif.
ハートマンテンの中川新太郎兄は館所を引上げらて馬場光師と共に羅府へ帰還住宅を購入せられて老教師と同居せられて居り、吾等教友の祝福を祈つて居られます。

Mr. & Mrs. Nakamura
554 S. Eastman Ave. L.A. 33, Calif.
○内藤牧師は来る廿九日羅府へ向けて臨時出所なされよう。

三ツアサ廿四・十五

○感謝録
感謝 南三三郎様
山所 瀨田一男兄
山所 武田りく姉
追悼 一週年記念奥鶴松様
贈物はこれを受くる者の目には貴き珠の如し。
讃言一七・八

マサチューセッツ基督教會
一九四五年十月三日

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO. 147
OCT 3 1945 MANZANAR, CALIF.

聖言

神は美事なれば汝ら
と祈へ思ふこと能は
ぬほどの試練に遭せ
給はず汝らが試練を
耐へ忍ぶことを得ん
ために之と共に過し
べき道を備へ給はん
コリント前書
十章十三節

聖禮拜

十月七日
午前九時四十分
安部牧師

「キリストの福音」 安部牧師

禮拜式順序

- 奏樂 五十六
- 頌歌 主の新 五十六
- 交讀文 二八
- 讚美歌 九〇(福音書) 會衆
- 聖書 福音書一・二二
- 新禱告
- 讚美歌 二〇五 會衆
- 説教 五十六 會衆
- 頌詠 五十六
- 祝禱

○聖日夕拜

午後七時
安部先生御夫妻
送別感謝會

○早天祈禱會

於教會 午前六時

○日曜學校

初級部 午前八時四十分
九・五・九・一五・二二・五
上級部 午前八時四十分
一五・一五

○聖書研究

二〇一五 午前九時
ガラテヤ書講解 鈴木牧師

○速聞集會

○早天祈禱會
於教會 毎日午前六時

○祈禱會

十月三日(水) 午後七時
於教會

告別の辞

三年半の群衆生活に對し、從來の教會生活に於て、曾て
味ふことの出来なかつた、多くの貴き体験を與へられた事
を、深く感謝し、特に第一教會の御厚意と、マンザナ居住
各位の御交誼とを、心から感謝致します。

樂しかりし一萬同胞の家族の團圓は、又と再び味ふことの
出来なかつたのであります。況んや四時天に聳ゆる雲山の神
韻、白沙緑樹の風景、黄蘗万丈の壯絶、月光満ちる天窓寂
々として無声の聲に聴く境地は、恐らく他の何れに行くら
も忘る能はざる、奇麗の思い出であります。

此思い出を胸に抱いて、愈々米羅散の地に立ち上つて互は
ミデアン野の野から、アラビヤの沙漠に出で行つた、モーセ
の心境に似たものと、感ぜずには居れません、一足早く出
所しますのは、一つは病害の治療と急ぐ為めであり、また
が、居住の定まり、同胞の苦い経験と、共に苦めて見たい
と言ふ事や、一つの念願であります。

私は岡山から東京に出る時、又シフトルからロスアンゼルス
に出る時、全然無一物、無方針、何事の前約、何等の手
引なくして、只活ける神を信じて、飛び込んできました。而
して二回とも、神の活き給ふ實証を與へられました。今度
は三度目の本舞臺で教壇に上り、均しいものであります。只
祈りつゝ、雲山に登るの心意氣を以て、皆様にも別れする
ことに致します。

報告及消息

○追悼會 四四二部隊に屬し歐
州戰野に奮闘せられ過日以來本
刊にて戰死せられ放逐國に
ンロー上軍大の記念會が九月
廿九日午後二時より會堂にて
厳粛に執行されました。

○安部牧師御夫妻は別項告別辞
にあり、十一月三日曼羅市に
向はれ、同日曼羅の送別會へ
参りて内出され。

○感謝録

○秋の復長燈火相親一の頃、
なりました。今後晩の集會は午後
七時から始めることにいたしま
す。

安部清藏

○聖書一書、シムブルグの中川兄
及びモンタナ方面兄弟、折平安が
ストン直部兄はシカゴ市へ移轉
グラナダ教會より御厚情を謝し
解散の報告がありました。

○感謝録

週報 中川基松兄
週報 緒方四郎兄
週報 渡部嘉之進兄
週報 齊藤淳文姉
出所 宮本教一兄
出所 川原兄
出所 追悼會第四回

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
WEEKLY BULLETIN NO. 48
OCT 10 1945 MANZANAR CALIF

聖言

我ら四方より患難を
受くれども窮せず、
爲ん方々より救はれども
望み失はず、責めら
るれども棄てられず、
倒さるれども亡びず、
常にイエスの死を我
らの身に買ひ、
コリント後四章八九節、

聖禮拜

十月十四日
午前九時四十分
暗黒に輝く十字架の光 酒井牧師

⑤ 禮拜式順序

- 奏樂 五六六 會衆
- 頌歌 主の祈 一二 會衆
- 交讀文 五四 會衆
- 讃美歌 三二三 會衆
- 一説 教 五六八 會衆
- 一頌 禱 告 會衆
- 一祈 禱 告 會衆
- 一報 告 會衆
- 一頌 禱 告 會衆
- 一頌 禱 告 會衆

○ 傳道夕禱

午後七時

共勵會

○ 早天祈禱會

於教會 午前六時

○ 日曜學校

- 初級部 午前八時半
- 上級部 午前八時十分
- 一五一一五

○ 聖書研究

二〇一五 午前九時
ガラテヤ書講解 鈴木牧師

○ 週問集會

○ 早天祈禱會
於教會 毎日 午前六時

○ 祈禱會

十月十日(水) 午後七時
於教會

私の家に可愛い鳩を飼つて居ます。鳩を退めて居る時はあの柔順な鳩でも真剣な姿であります。鳩卵を割つて見ると白味と黄味とハッキリと分る。鳩の姿を見ることが出来ません。一度親鳥が卵を覆つて自分の愛の温みであつた、めまると卵の中の生命が生まれて段々と流動体より固体となり、遂は一翼一翼と羽を伸ばして、つて飛び出し親鳥の望みのまゝに餌を拾つてゐる。完全な一羽の鳩となります。人間も肉の世界に生活して居る間は何時まで経つても肉体的の不完全な生涯であり、卵まゝでは或る期間だけは生命は保ち得る。遂には腐つて七びる。如く人間も死と共に七びる。やがて一度父なる神の愛の翼の下にはぐ、まれ温めらる。時に人間のうちに宿つてゐる無きに等いかすかなる靈は始めて生き動き出して段々と靈に於て父なる神に似ては肉の世界を脱ぎ出し靈界に生きる事が出来ると思ひます。卵の殻が親鳥の姿と見られるのは變化してゐる。もうやうに神を拜するには變化してゐる。けねばなりませぬ。馬太二三・三七に、此の鳩のその雛を翼の下に集む。如く救済の子供を集めんとせし事、救済のやとあり。また、鳩が何にも知らないうで逃げ回つてゐる時、鷹が空をさかすめると親鳥は急いで鳩を集めて翼の下にかばふ。眞剣な犠牲者！これにも増して罪の人間をかばつて下さる十字架の愛！只だ勿体なさうに涙がこぼれる。

一人の兄弟が新しく主の御名に加へられ一層此世を深くし言ひ知れぬ喜びを覺ゆると共に難局に直面せる吾等は一層十字架にすがり主の愛の御翼の下に安住の所を見出し新しき命にまぎれを、喜びを、いたぐたいと歎ふものであります。 Y.O. 生

○ 報告及消息

○ 聖餐式 去る七日禮拜は青年部と聯合してデレスト博士安部牧師の説教あり終つて聖餐式が行はれました。
○ 送別會 安部先生御夫妻長湊足御夫妻の送別が聖日夕に持たれました。後でボストンより来訪せられし正木茂雄兄のボストン事情が語られました。

○ 感謝録

- 感謝 親子作左門兄
- 感謝 妙中恒子姉
- 感謝 一重名
- 感謝 安部牧師御夫妻
- 感謝 長湊春吉兄
- 感謝 池淵サダコ嬢
- 感謝 吉本豊次郎兄
- 感謝 島
- 感謝 右有難く領収いたしました。

教會報
マンザナ基督教會
十九百四十五年十月二十日

MANZANAR CHRISTIAN CHURCH
OCT. 20, 1945. MANZANAR, CALIF.

聖言

光は暗さ
に照る
而して暗さは
之を悟らざ
り。
約一・五

聖日禮拜
十月二十一日
午前九時四十五分
天來の食物 酒井牧師

○禮拜順序

- 奏樂 頌歌五六六 會衆
- 黙禱 主の祈
- 交讀文八
- 讚美歌五五四 會衆
- 聖書 ヨハネ傳六・四一五一
- 祈禱
- 報告
- 讚美歌五三八 會衆
- 説教 頌歌五六八 會衆
- 祝禱

○傳道夕拜

午後七時
共勵會

○早天祈禱會
於教會 午前六時

○日曜學校
初級部 午前八時四十五分
上級部 午前八時三十分

週間集會

○祈禱會
十月二十四日(水) 午後七時
於教會

○報告及消息

マンザナ基督教會 は去す
五日に最終として、公的
に解散しました。日米開戦
に伴い軍令により此のキヤン
プ生活に入ると同時に基督に
ある同志の相束ひ禮拜其他の集
会を始めより三ヶ年と五ヶ
月の間相共に神を拝し且つ
御指道を主より受し事を感
謝して止みますせん。
去る水曜日の最後の役員会
を開いて事務一切を終了して
こゝに當教會の解散を公に登
表する次第であります。
三ヶ年間の主の御まもりと
御指道を感謝すると同時に、

生ける光

近代科學發達の跡を靜かに見つめる面白き事を見出すのは
今日の如く自然科學を進展せしめたのは、引力の研究や黄金
合成の研究でもなくそれは天地は満つる「光」そのものに就
いての研究であつた。日月星辰の放射される「光」こそ
あのバツレハムの野辺に立つ牧羊者を主の降誕せる馬槽に導
いた。日月星辰の光は科學者を今日の電子論の研究へと導
いた。人類を何ものにも導いて居るのひであらうか。
今日程心の光の暗黒な時代はあるまい。我らの住む周圍は
否我ら自らの心の光の暗さには驚く。正義も人道も物では人
情道も暗黒な時代である。然らば天地を貫く神の光は消えな
のひであらうか。然らず。人類は自ら好む暗黒の中に
溺れしもうとも神は光であり生命である。人を永遠にまで導
く天地の光はいつて私達の周圍に照らして居る。非人道の
波は我らを激しい暗黒をまて被ひ、汝の光何所にありやと。こ
れ共迷ひ多し。神は光である。我らを滅亡の巷より天國の
救へと導いてくれる天使である。

感謝録

現在所内、獨止つて居られる
主にある同志、又既に主所轉佳
され方々の御禱後と同時に
諸種の御援助と共に共調し
て御支へ下さいます事を深
く感謝して止みます。と
同時に皆様の上に主の守護り
と御祝の裕なりん事を祈り
ます。
謹んで御挨拶申し上げます。
又主の御栄光が地上を被ふ

受洗 荻原正雄兄
出所 岩田安太郎兄
出所 平泉カレエ嬢
葬儀 丸本富太郎兄
出所 高橋一嬢
出所 狭間兄姉
出所 田中おし子姉
週報 川本喜次兄
婦人会解散會計残額全部
教會へ

日の連なりん事を祈ります。
教會の公式存在はありませ
んが禮拜其他の集會は続けま
すのら左様承知を願ひます。
安部牧師は去る十五日出所
されました。内藤牧師は来る
二十八日の聖日を最後で出所
されます。鈴木牧師の聖書研
究は去る十四日を最終として閉
鎖しました。同牧師の出所期
日未定。酒井牧師は最後迄止
まり後始末をしてお祈ります。
中島兄の家は去る十五日羅に
轉住。平泉カレエ嬢はハリウッドへ
妙中恒乃姉は二十二日バルクへ
立川友一兄は二十三日羅へ御席建
酒井姉は二十二日カレエデー
ホステルを聞く為に出所します。